第八十二條　各局課調査濟ノ成案ヲ受領シタルトキハ受領及ヒ呈出ノ月日ヲ日記ニ登錄シ毎日午前九時午後一時ノ二回ニ之ヲ次官ニ呈出シ次官ノ檢閲ヲ經テ大臣ニ呈出ス可シ但秘書官又ハ各局課長ノ名ヲ以テ發スヘキ文書ハ直ニ之ヲ寫字部ニ交付シ發送ノ手續ヲ爲ス可シ

第八十三條　大臣ヨリ決裁濟ノ成案ヲ下付シタル時ハ日記ニ交付ノ月日ヲ記入シテ之ヲ寫字部ニ交付ス可シ其官報ニ掲載スヘキモノハ日記ニ記入ノ上遞付錄ヲ添ヘ報告課長ニ送付スヘシ

第八十四條　省外ニ發送スヘキ文書ハ其發送ノ月日及ヒ行先ヲ日記ニ記入シタル後午前十一時午後四時ノ二回ニ之ヲ發付ス可シ其原文書ニハ發付ノ年月日ヲ記シ課長之ニ檢印シ原書返付錄ヲ添ヘテ毎日午前十一時午後四時ノ二回ニ主務ノ局課ニ返付スヘシ（附錄往第一號參看）

第八十五條　官房ヨリ省外ニ發送スヘキ親展封書ヲ受領シタル時ハ其出所番號月日及ヒ行先ヲ日記ニ記入シ毎日午前十一時午後四時ノ二回ニ之ヲ發付ス可シ

第八十六條　寫字部ハ淨書スヘキ文書ヲ課長ヨリ交付シタルトキハ速ニ淨書ノ手續ヲ爲ス可シ淨書文書ハ校合シタル後課長ニ提出シ其檢印ヲ受ク可シ大臣若クハ次官（總務局長）ノ官印又ハ省印ヲ要スルモノハ課長ノ指揮ニ依リ毎日午前十一時午後四時ノ二回ニ秘書官ニ就キ其鈐印ヲ受ケ再ヒ課長ニ提出スルモノトス

第八十七條　印刷ニ附スヘキ文書ヲ課長ヨリ交付シタル時ハ速ニ印刷物遞付錄ニ記入シ毎日午前九時午後四時ノ二回ニ會計局ニ送付ス可シ會計局ヨリ印刷物ヲ受領シタル時ハ校合シテ課長ニ提出ス可シ（附錄往第二號參看）

第八十八條　寫字部ニ於テ淨書ノ爲メ課外ヨリ文書ノ送付ヲ受クヘキ時刻ハ午前十一時午後四時ノ二回トシ淨書文書ヲ課外ニ配付スルハ午前十時午後三時ノ二回ナリトス

第八十九條　文書課ヨリ大臣次官ノ命令若クハ官房各局課長ノ囑託ニ因ル原稿ヲ回付シタルトキハ淨書ノ上之ヲ大臣次官ニ呈出シ及ヒ官房各局課長ニ送付ス可シ

第九十條　課長ハ豫メ部員若クハ一等寫字生ヲ選定シテ淨書スヘキ文書ヲ各寫字員ニ配賦セシメ且淨書文書ヲ校合セシムルモノトス

第九十一條　課長ハ課外ヨリ送付シ來ル一切ノ文書ヲ接受檢閲シ其欄外ニ接受番號ヲ附記シ部員ヲシテ文書ノ原番號接受番號月日及ヒ事件ノ摘要ヲ日記ニ記入セシメタル後之ヲ各配賦主務者ニ配賦ス可シ（附錄通乙第二號參看）

第九十二條　配賦主務者課長ヨリ文書ヲ受領シタルトキハ日課簿ヲ案シ各寫字員當日ノ課程如何ヲ調査シ淨書ノ難易ヲ考定シ相當ノ淨寫用紙ノ種類ヲ鑑別シテ適宜ノ員數ヲ添ヘ平等ニ配當ス可シ各寫字員ニ配當スル時ハ文書ノ番號ヲ文書交付錄ニ記入シ其寫字員ヲシテ認印セシメ且交付シタル淨書用紙ノ種類及ヒ其員數ハ之ヲ淨寫用紙受拂簿ニ記入ス可シ（附錄往第三號第六號參看）

第九十三條　各寫字員配當文書ノ淨寫ヲ了リタルトキハ文書ニ書損若クハ殘剩ノ紙類ヲ添ヘ速ニ配賦主務者ニ返付ス主務者之ヲ受領シ校合ヲ爲シタル後日課簿ニ記載シテ其文書ヲ課長ニ提出シ且書損紙類ノ員數ヲ淨寫用紙受拂簿ニ記入ス可シ（附錄往第四號參看）

第九十四條　課長ハ淨寫文書原文書及ヒ之ニ添綴シアル文書ノ有無ヲ檢査シタル後文書遞付錄ニ其文書ノ番號ヲ略記セシメテ課外ヘ遞付ス（附錄通第四號參看）

第九十五條　配賦主務者ハ毎朝日課簿ヲ課長ニ呈シ前日ノ課程成績ニ付キ檢閲ヲ受ク可シ配賦主務者ハ毎月三日限リ前月分ノ日課簿ヨリ要件ヲ摘抄シ月課簿ニ記入シテ課長ノ檢閲ヲ受ク可シ（附錄往第五號參看）

第九十六條　部員ハ毎月三日迄ニ通則第七條第二項及ヒ本課第六十七條第五第六第七第八ノ各簿册ニ依リ前月ニ係ル寫字ノ成績及ヒ紙類金員ノ費消高ヲ寫字成績簿ニ記入シテ課長ノ檢閲ヲ受ク可シ（附錄往第九號參看）

報告課

第九十七條　報告課ヲ六部ニ分チ民事統計部刑事統計部整理部裁判事務計表部處務報告部官報報告部トス

第九十八條　民事統計部ハ大審院諸裁判所等ヨリ提出スル統計材料ニ依リ民事統計表及ヒ民事既決未

決事件表ヲ編成ス

第九十九條　刑事統計部ハ大審院諸裁判所府縣憲兵本部等ヨリ提出スル定期報告統計材料及ヒ本省各局課ヨリ蒐輯スル材料ニ依リ刑事統計表及ヒ刑事既決未決事件表ヲ編成ス

第百條　裁判事務計表部ハ大審院諸裁判所ヨリ提出スル材料ニ依リ職員配當表事件調査表結果調査表ヲ編成ス

第百一條　整理部ハ各表式ノ改正增補ノコトヲ調査シ各表式ニ關スル省令訓令又ハ各廳ノ質問ニ對スル辯明案ヲ草シ諸表ノ結果ニ就キ事實ヲ考査シ歷年ヲ通覽シテ事件ノ增減ヲ比較シ其因由ニ付キ說明ノ起案ヲ草ス

第百二條　處務報告部ハ各局課ヨリ蒐輯スル材料ニ依リ處務報告書及ヒ經費報告書ヲ編成ス

第百三條　官報報告部ハ司法部內ニ關スル官報揭載事項ヲ蒐輯シテ定期若クハ臨時之ヲ官報局ニ通報ス

第百四條　大臣ニ呈出スル報告書ニハ通則ニ揭クルモノヽ外左ノ一項ヲ記載ス可シ

一　統計及ヒ報告ノ整理ニ關スル事

第百五條　課長ハ課務整理ノ便ヲ計リ事務ノ繁閑ニ從ヒ臨時各部員ヲ通用スルコトヲ得

第百六條　製表技術生登用ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第百七條　統計材料徵收期限統計表報告書成功期限及ヒ官報揭載事項ハ別ニ之ヲ定ム

第百八條　部員ハ課長ノ指揮ヲ受ケ定期若クハ臨時ニ官報ニ揭載スヘキ事項ヲ調査シ之ヲ官報局ニ通報スルノ手續ヲ爲ス可シ但其報告ハ必ス正楷ヲ以テ定式ノ用紙ニ淨書シ俗字略字ヲ用ユ可カラス

第百九條　官報報告材料中偶機密ニ涉ル事項アルトキハ漏泄セサル樣注意セサル可ラス

第百十條　部員ハ其主管スル表式ニ變更增減ヲ要スヘキ事由ヲ發見シタルトキハ其意見ヲ課長ニ開申スヘシ

又各官廳及ヒ各局課ヨリ徵收スル統計材料ヲ調査シ疎漏又ハ不明瞭若クハ不合式ナルモノヲ發見シタルトキハ照會案ヲ具シ課長ニ提出シテ命ヲ待ツ

第百十一條　部員ハ諸表及ヒ報告ノ印刷手續及ヒ其校合ヲ爲ス可シ

記錄課

第百十二條　記錄課ヲ六部ニ分チ人事部民事部刑事部編纂部印刷部圖書部トス

第百十三條　人事部ハ官房處務規程第二條第三項第四項及ヒ第三條第二項第三項ニ揭クル事務ヲ疏通ス

第百十四條　民事部ハ民事局ノ主管ニ屬スル一切ノ事務ヲ疏通ス

第百十五條　刑事部ハ刑事局ノ主管ニ屬スル一切ノ事務ヲ疏通ス

第百十六條　編纂部ハ省中各局課一切ノ公文書類及ヒ圖書ヲ編纂保存ス

第百十七條　印刷部ハ法律ニ關スル書籍ヲ出版印行ス

第百十八條　圖書部ハ省中一切ノ圖書ヲ保管ス

第百十九條　編纂部印刷部圖書部ノ所掌ニ關シテハ別ニ細則ヲ定ム

第百二十條　記錄課ハ通則ニ揭クルモノヽ外左ノ簿册ヲ備フ

一　文書再呈日記

二　記錄遞付錄

三　記錄稱號簿

四　記錄稱號索引簿

第百二十一條　文書再呈日記ハ主任官ヨリ一時付下シタル文書ヲ再呈スヘキ時日ヲ見出スノ便ニ供スルモノトス

第百二十二條　記錄遞付錄ハ課外ニ記錄ヲ送付シタルコトヲ證スルモノトス

第百二十三條　記錄稱號簿ハ既濟ノ文書ヲ編入シタル記錄稱號ヲ索ル爲メニ之ヲ設クルモノトス

記錄稱號索引簿ハ其稱號ヲ見出スコトヲ便捷ナラシムル爲メイロハ順ヲ以テ之ヲ登記スルモノトス

第百二十四條　大臣ニ呈出スル報告書ニハ通則ニ掲クルモノヽ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　記錄ノ整頓保管ニ關スル事

二　各部ヨリ主任官ニ提出シタル件數

第百二十五條　課長ハ第十七條ニ因リ大臣若クハ次官ノ命令アルトキハ日記及ヒ記錄ヲ檢査シ前月分ノ事件ニシテ未タ記錄ノ整頓セサルモノハ其部員ヲシテ速ニ之ヲ整頓セシム可シ

第百二十六條　課長ハ既濟書類ニ付キ特別ノ監督ヲ爲シ文書保存規程ニ從ヒ其期限ヲ經過シタルヤ否ニ注意シ期限經過シタルモノハ別段ニ之ヲ取纏メ其處分ヲ爲ス可シ

第百二十七條　各部ヨリ文書ヲ主任官ニ提出スルニ當リ必要ノ參照書類部外ニ在リテ文書ト共ニ提出スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ主任官ニ具陳シ速ニ蒐集スルノ手續ヲ爲ス可シ

第百二十八條　各部ニ於テ日記登錄ノ手續ヲ爲シ文書ヲ主任官ニ呈出シタル後主任官審査ノ都合ニ依リ後日再ヒ呈出スヘキ旨ヲ命令シテ下付シタルトキハ其月日ノ順序ニ從ヒ直ニ之ヲ文書再呈日記ニ登錄ス可シ（附錄記第一號參看）

第百二十九條　主任官ヨリ各部ニ下付シタル成案ヲ記錄課長ニ提出スルノ手續ハ第三十八條ノ規程ニ從フ

第百三十條　成案ヲ課長ニ提出スル前ニ於テ其事件會計局ニ關係アルヤ否ヲ考査ス可シ

左ニ列記スル事件ノ類ハ凡テ記錄課長ニ提出スル前ニ主任官ノ指揮ヲ受ケ會計局ニ送付ス可シ

一　豫算其他ノ計算ニ關スル件

二　日當賞與手當等ニ關スル件

三　裁判所ノ廢置ニ關スル件

四　恩給ニ關スル件

第百三十一條　文書收扱ノ手續ヲ結了シタル時ハ命令ノ月日趣旨ヲ日記ニ登錄シ命令ノ月日ニ從ヒ其種類ノ記錄ニ編入シ其稱號ヲ日記ニ明記ス可シ

第百三十二條　各部ハ三箇月毎ニ記錄遞付錄ヲ檢査シ部外ニ貸與シタル書類記錄ノ返却ヲ促スヘキモノハ其手續ヲ爲シ尚領收シ得サルモノアルトキハ遞付錄中新規ノ部ニ記入シ其旨ヲ附記ス可シ（附錄記第二號參看）

第百三十三條　各部ハ記錄編製ノ秩序ニ從ヒ記錄ヲ編製シ每葉丁數ヲ記入シ其種類ニ因リ區別ヲ明ニスヘシ

記錄ヲ編製シタルトキハ記錄稱號簿ニ登錄シ同時ニ記錄稱號索引簿ニ記入ス可シ（附錄記第三號第四號參看）

記錄ハ其表紙ニ件名及ヒ年月部名ヲ明記シ且記錄稱號簿ニ依リ稱號ヲ記載ス可シ

記錄ノ表紙ニハ付箋ヲ下ケ之ニ表紙ト同一ノ記載ヲ爲シ以テ檢出ニ便ナラシム可シ

各部ノ便宜ニ依リ豫メ記錄稱號簿ヲ調製シ置クモ妨ケナシ

第百三十四條　記錄ノ厚サ凡ソ二寸ニナリタル時ハ卷ヲ更メ其記錄ノ表紙ニ前記錄ノ年號ヲ記載シ前卷ニ繼續シタルモノナルコトヲ明ニス可シ

記錄ハ規則ヲ以テ定ムル所ニ依リ之ヲ調製シ互ニ關係アルモノハ事件ノ主ナル方ニ本書ヲ編入シ他ノ一方ニハ謄本若クハ拔書ヲ以テ參照書ト爲シ其關係ヲ明ニス可シ

第百三十五條　記錄ハ其區別ニ依リ區劃明記シタル書棚ニ裝置シ其取扱ヲ鄭重ニシ秩序ヲ紊ルコトナキヲ要ス

第百三十六條　第五十二條ニ掲クルモノヽ外記錄ニ編入セサル文書及ヒ謄本ハ司法省外ニ出スヲ許サス但止ムヲ得サル場合ニ於テハ通則ノ例ニ依ル

第百三十七條　記錄及ヒ其他ノ表記保存期限ヲ經過シタルモノハ之ヲ棄却スヘシ若シ現ニ取扱中ノ事件ニ付キ必要ナル參照書類ニシテ保存期限ヲ經過シタルトキハ課長ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處分ヲ爲ス可シ

民事局刑事局處務規程

第一條　民事局長及ヒ刑事局長ハ其主管ノ事務ニ付記錄課民事部及刑事部ノ屬ヨリ差出シタル文書ヲ

檢閲シ參事官中ニ主任官一名副任官一名ヲ定メ參照例規取調ノ爲メ其文書ヲ屬ニ付ス可シ但第十三條第五第六第八第九項及ヒ第十四條ニ記載シタル事件ニ付テハ副任官ヲ置カス

第二條　屬ヨリ參照書類ヲ本書ニ添付シ主任官ニ差出シタル時ハ其主任官ハ之ヲ調査シ直ニ起案ニ著手ス可シ

第三條　主任官ハ文書ヲ受領シタルヨリ遲クトモ七日內ニ文案ヲ起草シ且三日內ニ副任官ノ調査ヲ經テ之ヲ局長ニ差出スヘシ

第四條　副任官主任官ト意見ヲ異ニスル時ハ直ニ其意見ヲ局長ニ申出其指揮ヲ受ク可シ

第五條　局長主任官ヨリ文書ヲ受取リタル時ハ遲クトモ五日內ニ之ヲ調査シテ屬ニ付ス可シ

第六條　局長若シ主任官及ヒ副任官ト意見ヲ異ニスル時又ハ局長ニ於テ必要ト認ムル時ハ遲クトモ三日內ニ全局員ノ總會議ヲ開キ之ヲ決ス可シ

主任官副任官ニ於テ事件重要ナリト思料スル時モ亦全局員ノ會議ヲ求ムルコトヲ得

第七條　會議ハ局長之カ議長トナリ多數ニ依リ之ヲ決ス但シ局長決議ニ同意セサルトキハ別ニ意見ヲ具シ大臣若クハ次官ノ決裁ヲ乞フコトヲ得

第八條　決議ノ旨趣ニ從ヒ主任官改案ヲ爲ス可キ時ハ二日內ニ之ヲ了リ局長ニ差出シ局長ハ次日マテニ屬ニ付スヘシ

第九條　事件若シ法律ノ解釋ニ關シ法律諮問會ノ會議ヲ要スヘキモノナル時ハ主任官其諮問案ヲ草ス可シ但之ニ關スル手續及ヒ期限ハ前數條ニ同シ

第十條　事件ニ因リ前數條ノ期限內ニ處理スルコト能ハサルモノアルトキハ別ニ期限ヲ定メ總務局長ノ允許ヲ受ク可シ

第十一條　起案ノ口頭說明ヲ要スヘキモノハ局長若クハ主任官自カラ大臣若クハ次官ノ面前ニ於テ演述スヘシ

第十二條　起案ノ定式ニ依ルヘキモノハ局長若クハ主任官ニ於テ之ヲ屬ニ下付シ文字ヲ修飾セシム可シ

屬其文字ヲ修飾シテ差出シタル時ハ主副任官卽時之ニ檢印シ局長ノ檢印ヲ受ケ復タ之ヲ屬ニ返付ス

第十三條　民事局主管中左ニ記載スル事項ハ次官ノ決裁ヲ經テ之ヲ執行スルヲ得ルモノトス

一　裁判所地方官等ノ伺請訓ニ對スル指令訓令ニシテ例規アルモノ

二　各省ノ照會ニ對スル回答ニシテ例規アルモノ

三　府縣布達屆ノ閲覽

四　官署ニ對スル訴訟ニシテ行政裁判ニ屬スヘキ事件ノ受否伺ニ付キ受理ノ請議

五　行政裁判事件ノ受否及ヒ判決ニシテ內閣ノ裁可本省ノ請議ト齟齬セサルモノニ付テノ指令

六　行政裁判事件ノ解訟若クハ願下ニ付キ內閣ヘノ報告

七　官署ニ對スル訴訟ニシテ司法裁判ニ屬スヘキ事件ノ受否伺ニ付受理ノ指令

八　司法裁判事件ノ判決ニシテ內閣ノ裁可本省ノ請議ト齟齬セサルモノニ付テノ指令

九　司法裁判事件ノ解訟願下若クハ裁判言渡ニ付テノ屆書ノ閲覽

第十四條　刑事局主管中左ニ記載スル事項ハ次官ノ決裁ヲ經テ之ヲ執行スルヲ得ルモノトス

一　帶勳者ノ犯罪ニ付キ各裁判所及ヒ賞勳局トノ往復

二　起訴前收監表

三　檢事分局一覽表

四　通知諸屆ノ類

第十五條　前二條ニ揭クルモノヽ外ハ總テ大臣ノ決裁ヲ經テ之ヲ執行スヘシ

第十六條　民事局刑事局ノ主管ニ關スル事項ニ付各省局長及ヒ各裁判所等トノ往復ハ法律ニ關スル事項ニシテ重大ナルモノヲ除クノ外民事局長刑事局長之ヲ專行スルコトヲ得

第十七條　主任官ハ文書調査中他廳ニ照會ヲ要スヘキモノアル時ハ照會文ヲ草シ局長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ屬ニ付ス可シ其期限ハ第三條第五條ニ同シ但副任官ノ調査ヲ要セス

前項ノ場合ニ於テハ其事件ニ關スル一切ノ書類ヲ屬ニ付シ他日回答書ト共ニ再呈セシム

主任官審査ノ都合ニ依リ一時文書ヲ屬ニ下付スル時ハ其再呈スヘキ時日ヲ指命スヘシ

第十八條　主任官疾病事故アル時ハ局長ヨリ更ニ其主任ヲ定メ又ハ副任官ヲシテ之ヲ擔當セシム此場合ニ於テ定期内ニ其事件ヲ處理スル能ハサル時ハ總務局長ニ申出テ猶豫ノ允許ヲ受ク可シ

第十九條　民事局ニ於テ左ニ記載スル事項ノ起案ニ付テハ參事官中ニテ豫メ其擔當員ヲ定メ之ニ從事セシム但其起案其他ノ手續ハ副任官ニ關シ及ヒ會議ニ關スルモノヲ除クノ外前數條ノ手續ニ同シ

一　裁判所ノ構成ニ關スル事項

二　判事登用試驗ニ關スル事項

三　代言人試驗ニ關スル事項

第二十條　大臣ヨリ法律規則案等ノ一部ヲ爲スヘキモノヽ起草ヲ民事局刑事局ニ命シタル時ハ前數條ノ規則ニ依ラス臨時其手續及ヒ期限ヲ定ムルモノトス

第二十一條　文書若シ大臣若クハ次官ノ閲覽ニ供スルニ止マルモノナル時ハ前數條ノ規則ニ依ラス局長付ノ屬ヲシテ起草セシメ局長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ大臣若クハ次官ニ呈出スルノ手續ヲ爲サシムルコトヲ得但其手續ハ總ヘテ記錄課文書取扱ノ順序ニ依ルヲ要ス

第二十二條　民事局主管ノ速成生徒ニ關スル事項ニ付テハ總テ從前ノ通タルヘシ

第二十三條　局長疾病事故アル時ハ大臣若クハ次官臨時代理員ヲ命ス

會計局處務規程

第一章　局中分掌

第一條　會計局ハ本省大審院各裁判所歳計ノ豫算決算及ヒ本省大審院ノ會計事務其他所管各廳ノ地所建物ニ關スル事務ヲ掌リ局中出納課檢査課及ヒ用度課ヲシテ其事務ヲ分掌セシム

第二條　出納課ハ本省及ヒ所管廳費ノ豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓及ヒ計算表ノ調整ヲ掌ル

第三條　檢査課ハ金錢物品ノ出納物品購買收支證書傳票報告諸文書ノ議案諸帳簿其他一切ノ檢査ヲ掌ル

第四條　用度課ハ所管ノ地所建物保管建築修繕物品購買及ヒ物品ノ出納其他省中取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第二章　簿册種類

第五條　局長及ヒ各課ニ屬スル文書取扱ニ付主管スル簿册ハ總務局處務規程通則第七條ニ依ル

第六條　出納課ハ十九年度中左ノ簿册ヲ主管ス但二十年度已降ハ更ニ大藏大臣ノ定ムル所ニ從フモノトス

一　第一部歳入總簿

二　第二部歳入内譯簿

三　同月割額整理簿

四　同徵收額整理簿

五　日記簿

六　原簿

七　經費内譯簿

八　月額仕譯簿

九　現金受拂簿

十　臨時寄托口別簿

十一　貸下人別簿

十二　回收編書費口別簿

十三　納額臺帳

十四　返納告知簿

第七條　出納課ハ前條ニ掲クルモノヽ外參考ノタメ左ノ簿册ヲ備フ

一　俸給仕出基帳
二　旅費仕出基帳
三　經費總豫算基帳
四　未渡切符書留簿
五　支拂金案內切符遞付錄
六　印鑑簿
七　仕拂切符編册
八　領收證切付編册

第八條　用度課ハ左ノ簿册ヲ主管ス

一　備品受拂簿
二　備品口別簿
三　消耗品受拂簿
四　消耗品口別簿
五　備品渡簿
六　消耗品渡簿
七　諸代價仕出元帳
八　古器物受拂簿
九　郵便物差立帳
十　電信差立帳
十一　運送物品差立帳
十二　荷作品記載帳
十三　官報代受拂元帳

十四　乘馬飼養料受拂元帳
十五　建物沿革帳
十六　地所沿革帳
十七　鑑札出入帳

第三章　局長及ヒ課長職務

第九條　會計局長ハ出納課檢査課用度課ノ各課長ヲ監督シ本局ノ主管ニ屬スル一切ノ文書及ヒ簿册ヲ整理セシム

第十條　各課長ハ局長ノ命ヲ承ケ規程ニ從ヒ課中ノ事務ヲ調理シ文書及ヒ簿册ヲ整頓スヘキ方法順序ヲ課員ニ指示スヘシ若シ課員規程ニ背キ課務ヲ整理セス若クハ職務ニ忠勤ナラサルモノアルトキハ局長ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處分ヲ爲スヘキモノトス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ課長ノ忠告若クハ局長ノ命令ニ從ハサルモノアルトキ又ハ事ノ重大ニ涉ルモノアルトキハ局長之ヲ總務局長ニ具申シテ指揮ヲ受クヘシ

第十二條　局長ハ大臣若クハ次官ヨリ下付シタル文書及ヒ命令ヲ下シタル事件及ヒ官房各局課ヨリ受領シタル文書ヲ局中各課ニ配付シ又ハ各課ヨリ大臣次官ニ呈出スヘキ成案其他ノ文書ヲ受領シタルトキハ之ヲ往復課長ニ回付ス

配付回付ノ手續ハ總務局處務規程第三十一條及ヒ第三十八條ノ通則ニ從フヘシ

第十三條　局長ハ事務ノ緩急ヲ計リ各課長ニ指令シ主務ヲ處理セシメ且接受スル一切ノ文書ハ各課長ヲシテ議案ヲ起草シ回議決裁ノ手續ヲ爲サシムルモノトス

第十四條　此規程中第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十二條第四十三條第五十條第五十二條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第七十條第七十二條第八十三條第八十四條第八十八條及ヒ會計檢査院ノ告知ニ對スル回答若クハ所管ノ地所增減等ハ大臣ノ決裁ヲ經テ之ヲ執行セシム

第十五條　此規程中第四十條第四十一條第四十七條第四十九條第五十一條第五十五條第五十六條第五十七條第六十八條及ヒ建物坪數ヲ增減セサル模樣替修繕等ハ次官ノ決裁ヲ經テ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第十六條　第十四條第十五條ニ掲クルモノ、外俸給其他ノ支出常用物品ノ購買經常ノ收入金等總ヘテ恒例ノ出納ハ局長ノ命ヲ以テ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第十七條　局長ハ各課ノ事務ヲ左ノ期日ニ於テ處理セシム若シ其期日内ニ處理スルコト能ハサル旨ヲ開申シタルトキハ其事由ヲ精査シタル上更ニ其期限ヲ定ムヘシ

一　大臣ノ決裁ヲ經テ執行スヘキ事件ハ文書接受ノ日ヨリ五日以内トス

二　次官ノ決裁ヲ經テ執行スヘキ事件ハ文書接受ノ日ヨリ四日以内トス

三　局長ノ命令ヲ以テ執行スヘキ事件ハ文書接受ノ日ヨリ三日以内トス

四　一事件ニシテ他官署若クハ所管各廳ニ照會ノ上處理スヘキモノハ其照會ヲ發スルヲ以テ一期トシ他ノ回答ヲ得テ處理スルヲ以テ一期トス

第十八條　前條ニ定ムルモノ及ヒ局長ニ於テ臨時期日ヲ定ムルモノト雖モ本省一般ノ處務期限ヲ經過スルモノハ豫メ總務局長ノ允許ヲ受クヘシ

第十九條　大審院ノ會計事務ハ豫算決算ノ計算ヲ區別スト雖モ其取扱ニ付テハ別ニ主務員ヲ定メス各課ノ分掌事務ニ從ヒ之ヲ處理セシムルモノトス

第二十條　出納課長ハ其主管ニ屬スル條項ノ金錢出納ニ關スル計算ヲ明瞭ナラシムル爲メ日日帳簿其他必要ノ種類ヲ調査シ計算書ヲ作リ局長ノ査閲ニ供スヘシ

第二十一條　各課長ハ毎月末ニ其主管ニ屬スル簿册ヲ檢査シ不明瞭ノ事アルトキハ課員ヲシテ其辯明ヲ爲サシムヘシ

第二十二條　各課長ハ前條ノ檢査及ヒ其他ノ手續ヲ以テ知リ得タル所ニ依リ課員ノ事務取扱上ニ付可否得失ヲ鑑別シ翌月三日迄ニ之ヲ局長ニ報告ス可シ

第二十三條　局長ハ前條ノ報告ニ依リ同五日迄ニ報告書ヲ作リ總務局長ヲ經由シテ大臣ニ呈出スヘシ

報告書ハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

一　簿册整頓ニ關スル事

二　計算表ニ關スル事

三　各課ノ取扱ヒタル件數

四　課員ノ能否ニ關スル意見

五　特ニ大臣ニ具申スヘキ意見

第二十四條　局長ハ前條ノ外總務局處務規程通則第十八條第十九條第二十一條第二十二條第二十三條ヲ適用ス但該規程中各部若クハ部員トアルヲ課長若クハ課員トシ課長トアルヲ局長トス

第二十五條　第一條乃至第四條ニ掲ケサル事件ハ大臣若クハ次官ノ指揮ヲ受ケ其種類ニヨリ之ヲ各課ニ配付ス可シ

第二十六條　局長ハ局務整理ノ爲メ事務ノ繁閑ニ從ヒ臨時各課員ヲ通用シ又ハ課員中ヨリ一名若クハ數名ヲ選ヒ局中ノ各課ニ屬セサル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十七條　局長及ヒ課長疾病事故アルトキハ局長ハ大臣若クハ次官其代理ヲ定メ課長ハ局長其代理ヲ定ムルモノトス

第四章　會計局各課員職務

第二十八條　會計局各課員ノ職務ハ總務局處務規程ノ通則ニ從フ

第五章　處務順序

第一節　通則

第二十九條　會計局處務順序ノ通則ニ付テハ以下四條ニ記載スルモノ、外總務局處務規程第三十一條乃至第四十一條及ヒ第四十三條及ヒ第四十六條乃至第五十四條ヲ適用ス但該條各部各員トアルヲ課長課員トシ課長トアルヲ局長トス

第三十條　本局ノ日記ニ登錄スル事件ノ番號ハ文書受授ノ年月日ニ拘ハラス其所屬會計年度ヲ以テ區別スルモノトス

第三十一條　豫算上必要ナリト認ムルモノハ他ノ局課ニ通牒シ調書ヲ徵收スルコトヲ得

又豫算其他計算ニ關スル事件ハ其秘密ナルト否トニ拘ハラス他ノ局課ノ協議ニ與ルモノトス

第三十二條　各課ニ於テ文書取扱ノ手續ヲ終リタルトキハ其手續ハ大臣次官及ヒ局長課長ノ命令ニ從ヒタルヤ計算若クハ回議檢査ヲ要シ及ヒ發送スヘキモノハ之ヲ爲シタルヤ及ヒ他ノ各課ニ報告ヲ爲スヘキモノナルヤ否ヲ調査シ相當ノ處分ヲ爲ス可シ

第三十三條　往復課ニ於テ文書發送ノ手續ヲ終リ其原書ヲ返付シタルトキハ速ニ命令ノ月日趣旨ヲ日記ニ記載シ遲クトモ七日內ニ記錄課ニ送付ス可シ但會計檢査院ノ檢査ヲ要スヘキ文書及ヒ之ニ屬スル書類ハ檢査完結ノ翌日ヲ以テ送付ス可シ

第二節　出納課

第三十四條　歲入豫算ハ領事館憲兵本部警視廳北海道廳府縣及ヒ所管各廳ヨリ每年五月二十日迄ニ豫算表ヲ徵收シ本省大審院ノ豫算ヲ併セ六月二十五日迄ニ統括ノ豫算表ヲ調製シ六月三十日迄ニ大藏省ニ回送スルノ手續ヲ爲ス可シ

第三十五條　歲出豫算ハ所管各廳ヨリ每年五月二十日迄ニ豫算表ヲ徵收シ本省大審院ノ豫算ヲ併セ六月二十五日迄ニ統括ノ豫算ヲ調製シ六月三十日迄ニ大藏省ニ回送スルノ手續ヲ爲ス可シ

第三十六條　每年度豫算裁定ノ令達アルトキハ一周年度中ニ係ル歲入ニシテ收入期節ノ豫定シ得ヘキモノヽ月額豫算表ヲ調製シ十五日以內ニ大藏省ヘ報告ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十七條　每年度豫算裁定ノ令達アルトキハ一周年度中ニ係ル各廳經費ノ月額ヲ豫定シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ調製シ十五日以內ニ大藏省ヘ回送シ承認ヲ得ルノ手續ヲ爲ス可シ

第三十八條　歲入出豫算裁定ノ令達アルトキハ十日以內ニ所管各裁判所ノ概額ヲ定メ控訴院ヘ達スルノ手續ヲ爲ス可シ

第三十九條　第三十六條第三十七條ニ揭クル歲入月額豫算及ヒ經費月額ノ承認ヲ得タルトキハ所管各裁判所分ヲ區分シ控訴院ヘ達スルノ手續ヲ爲ス可シ

第四十條　歲出仕譯書ノ承認ヲ受タル後期節若クハ金額ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ大藏省ノ承認ヲ受ケ其各裁判所ニ關スルモノハ所管控訴院ヘ達スルノ手續ヲ爲ス可シ

第四十一條　支出期節ノ豫定シ難キモノニシテ其支出ヲ要スルトキハ大藏省ノ承認ヲ受ケ各裁判所ニ關スルモノハ所管控訴院ヘ達スルノ手續ヲ爲ス可シ

第四十二條　歲入豫算ニ對シ每月增減有無ヲ調査シ所管各廳ノ報告書ヲ添ヘ翌月十五日マテニ大藏省ヘ報告スルノ手續ヲ爲ス可シ

第四十三條　歲出豫算ノ各科目中增減流用ヲ要スルモノニシテ各控訴院甲乙增減相補ヒ本省限リ處分シ得ヘキモノハ之ヲ許否スルノ手續ヲ爲シ其總括豫算各科目ニ增減ヲ及スモノハ大藏省ノ承認ヲ受ケ各裁判所ニ關スルモノハ所管控訴院ヘ達スルノ手續ヲ爲ス可シ

第四十四條　歲入中現金ヲ以テ收納スルモノハ每日之ヲ取纏メ各目ヲ區別シタル納付書ヲ添ヘ翌日迄ニ金庫ヘ納付ノ手續ヲ爲ス可シ

第四十五條　歲入中現金ヲ收納スルモノヽ外其納期アルモノハ十日以前隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度納額告知書ヲ發スルノ手續ヲ爲スヘシ

第四十六條　納額告知書ニ依リ納人ヨリ納入シタル歲入ハ金庫ヨリ領收ノ報告ニ依リ帳簿受入ノ手續ヲ爲ス可シ

第四十七條　歲入ノ過誤納ニシテ下戾ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ大藏省ヘ請求スルノ手續ヲ爲ス可シ

第四十八條　凡ソ一切ノ經費及ヒ收入ニ關スル出納ハ總テ仕出文書ニ依リ出納傳票ニ事由ヲ摘記シ檢査課ノ檢査ヲ了シ局長ノ認可ヲ經テ收入及ヒ支出ノ手續ヲ爲ス可シ

第四十九條　經費中外國ニ於テ使用スヘキモノ及ヒ運輸不便ノ島嶼其他金庫ノ設ナキ地ノ所管各廳ヘ

經費ヲ發送セントスルトキハ大藏省ヘ請求ノ手續ヲ爲ス可シ

第五十條　豫算裁定前ニ前條ノ經費ヲ要スルトキハ前年度ノ豫算額ニ依リ受領ノ金額ヲ定メ大藏省ニ請求スルノ手續ヲ爲ス可シ

第五十一條　各裁判所經費機密費ノ內現金受領ヲ要スルトキハ大藏省ヘ發送方請求ノ手續ヲ爲ス可シ

第五十二條　俸給旅費手當ノ如キ支給ノ方法ニ依リ出納開始前ニ支出ヲ要スルモノハ其事由ヲ具シ大藏省ヘ請求ノ手續ヲ爲ス可シ

第五十三條　出張官吏等ヘ經費金ヲ遞送スルトキハ仕拂切符ヲ發シ送金方ヲ金庫ヘ請求スルノ手續ヲ爲ス可シ

第五十四條　既ニ仕拂タル金額ノ內返納ヲ要スルトキハ即日之ヲ金庫ヘ納付スルノ手續ヲ爲ス可シ

第五十五條　每月收入セシ歲入ノ報告書ヲ製シ翌月十五日迄ニ大藏省ヘ送付ノ手續ヲ爲ス可シ

第五十六條　每月支出セシ歲出ノ報告書ヲ製シ翌月七日迄ニ大藏省ヘ送付スルノ手續ヲ爲ス可シ

第五十七條　各裁判所ノ歲入出報告書到達スルトキハ調査記帳ノ上三日以內ニ大藏省ヘ送付ノ手續ヲ爲ス可シ

第五十八條　會計年度內ニ於テ歲入ノ徵收若クハ歲出ノ支拂ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ年度後十五日以內ニ大藏省ヘ送付ノ手續ヲ爲シ所管各廳ニ係ル分ハ年度後一箇月以內ニ取纏メ同上ノ手續ヲ爲ス可シ

第五十九條　前年度ノ歲入ニシテ十一月三十日迄ニ尙ホ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ十二月三十一日迄ニ大藏省ヘ送付ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十條　前年度ノ歲出ニシテ八月三十一日迄ニ尙ホ支出ノ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ十月三十一日迄ニ大藏省ヘ送付ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十一條　概算支出ニ係ルモノニシテ翌年度八月三十一日迄ニ精算未濟ノモノアルトキハ其報告書ヲ製シ九月三十日迄ニ大藏省及ヒ會計檢査院ヘ送付ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十二條　特ニ豫算外ノ經費ヲ別途請求セントスルトキハ大藏省ヘ協議ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十三條　判任以上一時賜金ハ官房ノ通報ニ依リ大藏省ヨリ受領及ヒ渡方ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十四條　回收編書費ハ記錄課ノ支出ニ依リ出納傳票ヲ發シ受拂ヲ爲シ其決算ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十五條　乘馬飼養料ハ用度課ノ仕出文書ニ依リ出納傳票ヲ發シ受拂ヲ爲ス可シ

第六十六條　官報代價ハ用度課ノ仕出文書ニ依リ出納傳票ヲ發シテ受拂ヲ爲ス可シ

第六十七條　大審院上告金豫納金其他臨時寄托金ハ其仕出文書ニ依リ出納傳票ヲ發シテ受拂ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十八條　收入金盜難等ノ處分ニ係ル雜出金ハ大藏省ノ承認ニ依リ受拂ノ手續ヲ爲ス可シ

第六十九條　歲入出統計年報ノ材料ヲ調製シ報告課ヘ回送ノ手續ヲ爲ス可シ

第七十條　歲入皆濟帳ヲ統計調理シ大藏省ヘ回送ノ手續ヲ爲ス可シ

第七十一條　歲入出決算帳ヲ統計調理シ會計檢査院ヘ回送ノ手續ヲ爲ス可シ

第七十二條　會計檢査院ニ於テ歲入出ノ檢査結了ニ至ルトキハ決算報告書ヲ調製シ大藏省ヘ回送ノ手續ヲ爲ス可シ

第七十三條　每年度完結ノ上雜出決算帳ヲ調製シ會計檢査院ヘ回送ノ手續ヲ爲ス可シ

第七十四條　判任以上一時賜金決算帳ヲ調製シ會計檢査院ヘ回送ノ手續ヲ爲ス可シ

第七十五條　本省大審院收支ノ證書ハ每月取纏メ檢査課ニ回送スルモノトス

第三節　檢査課

第七十六條　諸文書若クハ收支傳票報告諸證書物品購求營繕事務等ノ議案ニ對シ會計法規ニ違フモノ或ハ不相當ナリト認ムルモノハ主務課長ニ更正ヲ求メ其重大ナルモノハ局長ニ意見ヲ具シ廢棄更正ヲ求ムルコトヲ得

第七十七條　檢査課ハ前條ノ檢査ヲ經テ執行セシモノニ付テハ其一部ノ責ニ任スルモノトス

第七十八條　購求物品及營繕事業等ハ臨時其實際ニ就キ檢査スルコトヲ得

第七十九條　收支證書ノ檢査上ニ關スル會計檢査院ノ質問告知ニ對シ辯明若クハ更訂ノ手續ヲ爲ス可シ

第八十條　出納課ヨリ送致ノ收支諸證書ハ一箇年分ヲ取纒メ之ヲ調理シテ會計檢査院ヘ回送ノ手續ヲ爲ス可シ

第八十一條　會計上ニ關スル法律規則ヲ蒐輯シ常ニ檢査ノ材料ニ供ス可シ

第八十二條　各裁判所ヨリ會計法規ノ質疑ニ對シ辯明スルノ取調ヲ爲ス可シ

第八十三條　歳入出科目ノ更正删補ヲ要スルモノハ出納課協議ノ上大藏省ヘ請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第八十四條　裁判費用使丁賃錢盜難金等ニ係ル官金棄捐若クハ年度違ノ支出ニ屬スルモノハ大藏省ヘ照會ノ手續ヲ爲シ其豫算決算ニ關スルモノハ出納課協議ノ上同上ノ手續ヲ爲ス可シ

第八十五條　檢査課長ハ本局所管雇員ノ勤惰能否ヲ監督スルノ任アルモノトス

第八十六條　本局所管ノ圖書保存ノ事ヲ掌理ス

第四節　用度課

第八十七條　本省大審院ノ建物保存等ニ關シ常ニ其修繕ニ注意ス可シ

第八十八條　各裁判所新築或ハ建物坪數ヲ增減スヘキ建增修繕ノ伺出ニ對シ許否スルノ取調ヲ爲ス可シ

第八十九條　本省大審院各裁判所地所建物沿革ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第九十條　物品ノ購買ハ入札其他正當ノ方法ニ依リ回議ノ上處理スルモノトス

第九十一條　各局課ヨリ物品ノ請求アルトキハ其局課長ノ證票ニ依リ交付ノ手續ヲ爲ス可シ

第九十二條　諸物品ノ受拂ヲ帳簿ニ登記シ其保管ヲ爲ス可シ

第九十三條　三大節其他接待饗應ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第九十四條　宿直及ヒ臨時賄料給仕小使其他雜役ニ供スルモノ、給料取調ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第九十五條　郵便電信ノ發送及ヒ物品運搬ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第九十六條　被服供給ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第九十七條　飜譯料寫字料支給ニ關スル取調ヲ爲ス可シ

第九十八條　臨時需用ノ物品若クハ雜役ニ供スルモノ、增減其他諸般ノ事務豫算上ニ關スルモノハ出納課ニ協議ノ上處理スルモノトス

第九十九條　常備ノ車馬ニ關スル費用取調及ヒ其保管ヲ爲ス可シ

第百條　所管ノ官有財産ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第百一條　地所建物ニ關スル統計年報材料ヲ取調ヘ報告課ニ回送ノ手續ヲ爲ス可シ

第百二條　乘馬飼養料ニ關スル取調ヲ爲ス可シ

第百三條　購讀義務者ニ係ル官報代價取纒ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第百四條　官舍宿代金徵收ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第百五條　省中取締員ヲ監督シ諸門扉ノ開閉ヲ嚴肅ナラシメ幷ニ官署其他ヘ文書ヲ發送スルノ使役ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第百六條　給仕小使其他雜役ニ供スルモノ、雇入或ハ解雇ニ關スル取調ヲ爲ス可シ但本務ニ從事スル局雇ハ此限ニ在ラス

第百七條　本省大審院廳中ノ掃除其他取締上ニ關スル事務ヲ取扱フ可シ

第百八條　諸門鑑取締ノコトヲ掌理ス可シ

報告課處務細則（十九年五月二十七日司法省所定）

第一條　本課刑事部ハ公判治罪ノ二部ニ分ツ

一　公判部ハ重輕罪諸規則違犯違警罪ノ公判ニ係ル各表及刑事既決未決事件表ヲ編成ス

一　治罪部ハ治罪及大審院上訴輕罪違警罪控訴ノ各表ヲ編成ス

第二條　統計材料徵收定期左ノ如シ

一　民事訴訟表　翌年二月中

一　重罪登記簿　三箇月毎ニ調成シ翌月中進達
一　輕罪登記簿　翌一箇月毎ニ調成シ翌月中進達　同上
一　輕罪控訴登記簿　同上
一　諸規則違犯登記簿　同上
一　違警罪登記簿　翌年二月中
一　遲不參表　同上
一　公判別號表附帶私訴　翌年三月中
一　會議局故障事件表　翌年三月中
一　檢事處分表　翌年二月中
一　豫審處分表　同上
一　違警罪即決表　同上
一　大審院刑事登記簿　三箇月毎ニ調成シ翌月中進達
一　輕罪控訴登記簿　二箇月毎ニ調成シ翌月中進達
一　違警罪控訴登記簿　同上
一　民事及勸解既未決事件表　三箇月毎ニ調成シ翌月十五日迄ニ進達
一　違警罪既未決事件表　但一箇月毎ニ調成シ翌月中進達
一　豫審既未決事件表　但二箇月毎ニ裁判所ヲ經由スル輕罪既未決事件表
一　輕罪既未決事件表　但控訴院ヲ經由シ翌月中進達
一　重罪既決事件表　同上
一　大審院既未決事件表　閉廳後五日迄ニ取調控訴院ヲ經由シテ進達
一　既決犯罪表　三箇月毎ニ調成シ翌月十五日迄ニ進達
一　新聞條例讒謗律犯者表　毎月調成シ翌月中進達

一　內國人ニ關シ外國人ニ係ル民刑事訴訟取調書　同上
檢事處分別表　三箇月毎ニ調成翌月十五日迄ニ進達
一　裁判事務計表　結果表　上半期（自一月至三月）下半期（自七月至十一月）其年七月十日迄ニ進達翌年一月十五日迄ニ進達
但重罪裁判官結果表ハ閉廳後十日內ニ取調其後確定シタルモノハ一月十日及七月十日ノ兩度ニ取調控訴院ヲ經由シテ進達ス

沖繩縣小笠原島伊豆七島及在上海幷朝鮮國領事館ハ此期限ノ外トス又札幌始審裁判所管內浦河增毛兩治安裁判所及增毛幌泉兩警察署ハ毎年十月一日ヨリ翌年四月三十一日迄ハ各進達期限一箇月ヲ猶豫ス

第三條　統計表及報告書成功定期左ノ如シ

一　民事刑事統計表　翌年中
一　民事刑事既決未決事件表
第一期（自一月至三月）　五月中
但豫審輕罪及輕罪裁判所ノ控訴事件表ハ一月ヨリ二月迄ノ分トス
第二期（自四月至六月）　八月中
同上三月ヨリ六月迄ノ分トス
第三期（自七月至九月）　十一月中
同上七月ヨリ八月迄ノ分トス
第四期（自十月至十二月）　翌年二月中
同上九月ヨリ十二月迄ノ分トス
總テ重罪ニ係ル事件表ハ其材料蒐輯ノ都度逐次之ヲ調成スルモノトス
一　處務報告　翌年中
一　經費報告　翌年中
一　集會條例新聞條例犯者表　次ノ會計年度中

第一期自一月至六月　八月中
第二期自七月至十二月　翌年二月中

一　裁判事務計表

第四條　諸表及報告書成功期限前條ノ如シト雖モ別段ノ命令アル場合ニ於テハ課長ノ指揮ニ從ヒ臨時之ヲ調成スヘシ（成功期限ヲ定メス）

第五條　官報報告材料ハ左ノ項目ニ依テ之ヲ蒐輯ス

一　省令訓令告示（附廃改加除）
一　奏任官以上任免轉勤分掌及巡廻出張（但事項ノ緊重ナルモノハ屬員ト雖モ巡廻出張ニ限リ之ヲ掲ク）
一　重罪裁判所長及陪席判事豫審判事任命
一　大審院及各裁判所刑事判決異常ノ件
一　民刑事統計ニ關スル報告
一　大審院東京控訴院始審裁判所治安裁判所ノ民事刑事幷勸解每月ノ件數
一　特赦減刑
一　公發ニ妨ケナキ府知事縣令幷ニ檢事ニ對スル指令內訓
一　代言志願人員及試驗合格者
一　同上除名者
一　全國免許代言人現數及組合長氏名（但三府ニ限リ副長ノ氏名ヲ載ス）
一　外國人雇入雇繼及解雇
一　本省出版書籍ノ要旨目錄
一　諸廣告
一　試驗幷會同委員人名

一　大臣次官忌引及除服出仕
一　奏任官忌引及除服出仕

第六條　前條項目外ノコト、雖モ其緊切ナルモノハ臨時命令ヲ乞ヒ掲載スルコトアルヘシ

第七條　規程第二十四條ニ依リ部員中ヨリ豫シメ二名ヲ選ミ左ノ事務ヲ擔當セシム

一　書籍及令達官報管守ノ事
一　勤怠錄管守ノ事（但翌年一月一覽表ヲ製シテ課長ニ開申スヘシ）
一　既決犯罪表管理ノ事
一　新聞條例讒謗律犯者表調成ノ事
一　諸表及報告書ノ印刷及成本配付ノ事
一　各部ニ屬セサル事務ノ事

總務局報告課議案　十九年五月二十七日

別紙當課處務細則取調候間御施行相成度此段仰高裁候也

司法省沿革略誌抄錄　二十年三月二日

始審裁判所執務手續調査委員ヲ設ク（始審裁判所執務手續調査委員ヲ設ク）

京都裁判所ヨリ司法省ヘ伺　六年一月十日

諸布告ノ儀裁判上ニ關係ノ事件ハ裁判所ヨリ直ニ共地方管內ニ布達致シ候儀至當ノ筋ニ可有之ニ付其通取計可申哉左候者其節々裁判所ニハ布達可致旨地方ヘハ其旨相心得候樣御達有之度候事

但布告ニ付テノ諸雜費ハ地方同樣民費ニ相立可然候哉

右ノ段相伺候條至急御差圖被下度候也

司法省指令　六年一月十五日

裁判上ニ關スル布告ト雖モ凡テ地方官ヨリ執行可有之事（裁判事務ニ關スル布達ト雖モ都テ地方官ヨリ下行ス）

（參考）

各縣裁判所開設ノ節ハ他ノ裁判所ニ通知ス

八年以後裁判所ヲ置ク必ス布告アリ

區裁判所ノ刑事他府縣ニ交渉ノ件ハ府縣裁判所ニ於テ處分セシム

八年五月布告第九十一號ヲ以テ大審院諸裁判所職制並程ヲ定ム

裁判所所長疾病事故アル時副所長代理ノ權限

司法省ヨリ京都裁判所ヘ照會 九年十一月二十八日

當省本年達第六十六號ニ付管下ヘ布達ノ義其裁判所ヨリ滋賀縣ヘ往復ノ末同縣ヨリ內務ヘ伺出候趣ヲ以同省ヨリ照會ニ及ヒ來リ候右ハ一般布達ノ義ハ素ヨリ司法卿ヨリ御達相成裁判所限リ管下ヘ告示スヘキ者ハ所長ヨリ地方廳ヨリ照會シ地方長官ヨリ布達取計ヘキ成譯ニ有之尤右六十六號ハ地方裁判所ヘ被相達人民ニ布達セシ者ニ無之區裁判所假規則ノ如キハ豫メ其大體ヲ示ス者ニテ實際施行ニ至テハ右規則ニ照シ尙其權限手續ヲ定メ其上ニテ人民ニ示シ置クヘキ者ハ是又同斷所長ヨリ地方廳ニ照會ニ可及筋ニ候依テハ右滋賀縣ヘ送付書類一ト先ツ御取戻相成可然方ト存候尙御見込モ候ヘハ承知致度此段御照會ニ及候也

京都裁判所ヨリ司法省ヘ照會 六年二月十五日

各縣裁判所建設開務ノ箇所詳細御達有之度右ハ某地方ニ關渉ノ事件打合等不都合ニ付向後開務御屆ノ都度々々御達有之候樣致度此段及御掛合候也

司法省ヨリ京都裁判所ヘ回答 六年二月二十日

各縣裁判所建設ノ箇所詳細御達有之度云々致承知候右ハ關八州幷山梨兵庫京阪丈ニ有之候勿論向後開設ノ節ハ都度々々御通シ可申候也

大阪裁判所ヨリ司法省ヘ伺 六年三月七日

各區裁判所章程中他府縣交渉ノ詞訟ハ百兩以下ト雖各區ノ裁判ヲ許サスト有之ニ付テハ斷獄ノ義モ他府縣ニ交渉ノ分ハ本犯區裁判所ニ於テ繫保シ罪笞杖以下ニ該ル者ト雖府縣裁判所ニ遞致シ處分スヘキ義ト存候得共職務定制中正條無御座候ニ付此段相伺申候也

司法省指令 六年三月日闕

伺ノ通他府縣ヘ交渉ノ事件ハ總テ府縣裁判所ニ於テ處分可致事

茨城裁判所ヨリ司法省ヘ伺 六年七月十五日

一所長出京又ハ病氣其他事故有之不參ノ節ハ副所長所長ニ代リ事務取扱候儀ト相心得可然哉

一平常ノ節ト雖モ所長ノ見込ヲ以事柄ニ寄副所長ニ所長ノ事務爲取扱可然哉

一右ノ外ハ副所長ト雖モ解部本官ノ事務取扱可然哉

右ノ廉々相伺候間至急御指令有之度候也

司法省指令

三箇條トモ伺ノ通リ

各地方裁判所處斷ノ權限

次條參看

各裁判所所長之レ無キ節判任官代理ノ權限

東京裁判所監獄ノ疑難ニ渉ル者ヲ司法裁判所ニ移スハ必本省ヲ經由セシム

但シ徒以上ノ刑百兩以上ノ訟ハ所長事故アリト雖副長ニテ決スヘカラス

司法省達 六年十月七日

各地方裁判所ニ於テ處斷ノ儀懲役十年以上ノ刑ハ本省ヘ可伺出以下ノ刑ハ其所長ヘ御委任相成居候得共右所長判任官ノ節ハ懲役五年以上ノ刑本省ヘ相伺可受指令事

但疑獄ハ微罪ト雖モ可伺出事

司法省達 七年一月二十日 無號各裁判所

各地方裁判所所長無之判任官ヘ代理申付候節權限ノ儀以來左之通相定候事

一懲役五年以上ノ刑ハ本省ヘ可伺出右以下之刑ハ委任候事

但疑獄ハ微罪ト雖モ可伺出候事

一聽訟ハ所長同樣委任候事

司法省ヨリ檢事本局ヘ達 七年二月七日

東京裁判所ヨリ不決ノ疑獄ヲ司法裁判所ヘ差廻云々ニ付本省ヲ經由スルニ不及直ニ本省裁判所檢事局ヨリ同所判事ヘ差廻可然旨一月三十一日檢印濟ニ相成候處右ハ取消シ以來訟獄ノ疑難ニ渉ル者ハ必ス本省ヲ經由可致候條此段更ニ相達候事

（參考）

司法裁判所檢事局伺 七年一月三十一日

各府縣ノ難獄及ヒ訴訟ノ決シ難キ者ヲ斷決スルハ司法裁判所ノ職制ニ候處今般東京裁判所ヨリ同所不決ノ疑獄ヲ當裁判所ニテ審定有之度掛合一件書類差廻候ニ付直ニ司法裁判所ニ引受覆審致シ可然別段東京裁判所ヨリ本省ヲ經由シテ司法裁判所ニ送致スルニハ及間敷哉此旨相伺候也

司法省檢事局指令 七年一月三十一日

本省ヲ經由スルニ不及直ニ本省裁判所檢事局ヨリ同所判事ヘ差廻可然事

各裁判所終審始審ノ權限ヲ定ム

六年司法省布達第百九十八號第二百三號ハ訴訟門審理ニ關ス

各上等裁判所判事檢事以下法廷着席ノ圖式

司法省布達 七年九月二十二日

明治六年第百九十八號幷ニ第二百三號ヲ以テ控訴ノ定限及布達置候處右ハ其事件ニヨリ終審始審ノ權限左之通決定候條此旨布達候事

第一　人民相互ノ訴訟

第二　院省使府縣ヨリ人民ニ對スル訴訟

但シ臨時出張ニ非スシテ各地方ニ於テ確定設立シタル院省使ノ支廳ヘ對スル人民ノ訴訟ハ其支廳所管ノ裁判所ノ處分ニ歸ス

第三　裁判所ノ設ケアル各府縣廳ト人民トノ間ニ起ル訴訟

但シ人民ヨリ府縣ノ支廳ニ對スル訴訟前條但書ニ同シ

右ハ各地方裁判廳ニ於テ始審ノ裁判ヲ爲シ若シ控訴ヲナシタル時ハ司法裁判所ニ於テ終審ノ裁判ヲ爲ス可キ事

第一　人民ヨリ院省ニ對スル訴訟

第二　院省使府縣各地方裁判所ノ間ニ起ル訴訟

第三　裁判所ノ設ケナキ各府縣管下ノ人民ヨリ其各府縣廳ニ對スル訴訟

第四　人民ヨリ舊諸藩ニ對スル藩債ノ訴訟

第五　各地方裁判所ト人民トノ間ニ起ル訴訟

右ハ司法省裁判所ニ於テ始審ノ裁判ヲ爲ス可ク臨時裁判所ニ於テハ終審ノ裁判ヲ爲ス可キ事

司法省ヨリ各上等裁判所ヘ達 八年七月三日

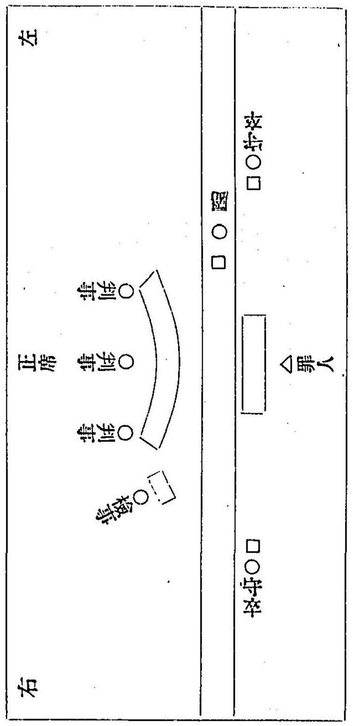
各上等裁判所詰檢事ヨリ左之通伺出候ニ付朱書之通及指令置候條此旨爲心得相達候事

各上等裁判所詰檢事伺 八年月日 閲

庭堂位置之儀是迄區々ニ相成居候處今後別紙圖式ヲ以テ正則トシ若シ庭堂狹少等ニテ其場合ニヨリ臨時判事ト協議ヲ遂ケ便宜著席可致樣御定相成度候事

司法省指令 八年六月二十七日

庭堂位置圖面ヲ正式トシ其廣狹ニヨリ臨時ニ判事ト協議ヲ遂ケ便宜著席不苦事



裁判所書記局設置方

十年十月三十一日屬ヲ廢シ書記ヲ置キ十四年十月二十日書記局等ノ事務ヲ定ム官等及職制ノ部ニ載ス

裁判官訟廷ニ於テ喫煙ヲ禁ス

上等裁判所ニ於テ民事ヨリ起ル刑事處分方

大阪裁判所ヨリ司法省ヘ通牒 八年七月五日

過日御頒布ノ控訴上告手續ニ依リ書記局ヲ可置ノ處兼テ增員申立居候折柄ニテ差當リ人員ニ差支然ルニ同局ノ儀自然庶務課中ノ事務ニ付不取敢同課ヲ書記局ト相改事務併テ取扱候條御承知有之度此段申進候也

司法省回答 八年七月十三日

書記局事務取扱云々ノ儀ニ付過五日御申越ノ趣致承知候右ハ局課名稱ノ義ハ追テ一般御治定可相成夫迄ノ處從前庶務課ニ於テ書記局ノ心得ヲ以事務取扱可然被存候此段一應御報ニ及候也

司法省達 八年八月十四日 第二十號 各裁判所及之所管縣

裁判官ノ輩訟廷上取調ノ節煙草ヲ用ヒ候儀不相成候條此旨相達候事

司法省ヨリ各上等裁判所ヘ達 八年十一月二十九日

上等裁判所ニ於テ犯則等ヲ除クノ外民事ヨリ起ル刑事ハ其所轄ノ裁判所ニ附シ可申尤モ便宜不得已ノ

東京裁判所賍贖事務取扱方

十年一月達第三號ヲ以テ鍜ヲ廢シ同年六月達第四十六號ヲ以テ裁判所廳ヲ改置ス

福島縣裁判事務取扱方心得

九年九月布告第百十四號ヲ以テ府縣裁判所ヲ改メ地方裁判所ヲ置ク

東京裁判所支廳罪犯ヲ拘留スル三十日ヲ限トス

十年二月司法省達丁第十三號ヲ以テ府下囚人私鬪手錠ヲ定ム治罪門審理ニ載ス

琉球藩内裁判事務取扱方

十年十月二十六日大阪上等裁判所琉球藩ノ控訴ヲ管ス

十二年四月四日琉球藩ヲ廢シ沖繩縣ヲ置キ同年六月二十一日沖繩縣内務省出張所ヲ廢シ裁判事務ヲ

場合ニ於テハ直ニ審判致シ不苦候條此旨相達候事

但シ本文ニ抵觸スル是迄ノ指令ハ一切取消候事

司法省ヨリ東京裁判所ヘ達　八年十二月十日

其裁判所賍贖事務ノ儀是迄屬ニテ取扱來候處今後錄ニ爲取扱候條此旨相達候事

司法省ヨリ福島縣ヘ達　九年二月十五日

其縣八年十二月十七日伺追テ何分ノ指令ニ可及旨相達置候處右ハ裁判上ニ付テハ某縣裁判所ト稱シ民事刑事ノ二課ニ分チ事務可取扱尤實際都合ヲ以テ民刑相通兼スルハ不苦義ト可相心得此段相達候事

福島縣ヨリ司法省ヘ伺八年十二月十七日

十一月二十五日付ヲ以縣聽訟課等之儀相伺置候處未タ御指令無之其内去ル十二日從前縣治條例被爲廢更ニ府縣職制被仰出候ニ付テハ右職制中ニ聽訟課ナル者無之屬官之任ニ裁判事務ナル者亦不相見候舊條已ニ廢シ新條之ヲ置カレス不都合ノ至ニ候條如何相心得可然哉至急御處分有之度此旨相伺候以上

司法省指令八年十二月二十七日

即今伺置候次第モ候條追テ何分ノ指令ニ可及事

司法省ヨリ東京裁判所ヘ達　九年二月十九日

其裁判所支廳ノ儀ハ刑事ハ懲役三十日以下タルヲ以其或ハ罪犯ヲ拘留スルモ三十日以上ニ渉ル可カラス尤事理苦難ニシテ不得已三十日ヲ過クヘキ者ハ之ヲ本廳ニ送致スヘキ儀ト可相心得此旨相達候事

内務省ヘ達　九年五月十七日

琉球藩ニ在ル其省出張所ヘ自今藩内裁判ノ事務及該地在留ノ他管人民ニ對シテノ警察事務ヲ被附候條此旨相達候事

琉球藩ヘ達　九年五月十七日

其藩治之内裁判ノ儀自今其地ニ在ル内務省出張所ニ被附右規則左之通被定候條此旨可相心得事

縣廳ニ屬ス

二十一年五月勅令第三十五號ヲ以テ沖繩縣廳官吏ヲシテ裁判官檢察官ノ職務ヲ行ハシム

各裁判所事務心得方

一藩内人民相互ノ間ニ起ル刑事ハ藩廳之ヲ鞫訊シ内務省出張所ノ裁判ヲ求ムヘシ

一藩内人民相互ノ間ニ起ル民事及ヒ藩内人民ト他府縣人民（兵員ト普通人民トヲ論セス）トノ間ニ關スル刑事民事ハ直チニ内務省出張所ニ訴ヘシムヘシ

内務少丞木梨精一郎ヘ達　九年五月十七日

今般琉球藩ヘ別紙ノ通御達ニ相成候ニ付テハ在勤中判事兼勤ノ心得ヲ以藩内裁判事務取扱被仰付候事

司法省ヘ達　九年五月十七日

今般琉球藩内裁判事務ニ付内務省其外ヘ別紙ノ通相達候條此旨可相心得事

内務省伺　九年五月十五日

先般琉球藩ヘ我カ刑法ヲ遵行スヘキ旨ノ命令アツテ既ニ藩吏上京追々右法律研究セシムヘキコトニ相成居候ヘトモ尚ホ熟ラ考フルニ抑モ彼ノ藩ハ最モ固陋ニシテ百事未開ノ情狀アルヲ以テ事實決シテ行レ難キニ付テハ彼ノ藩内人民互ノ間ニ起ル刑事民事ノ裁判ハ委任スルモ可ナル乎ト雖モ該地在留ノ内地人民（兵員ト普通人民トヲ論セス）ト藩内人民トノ間ニ起ル刑事民事ノ裁判ニ至テハ頗ル難事ニシテ若シ誤刑失判等アルトキハ不測ノ患害ヲ生スルコトナキヲ保タスト存候然レハ該地ニ在ル當省出張所ニ裁判ノ權ヲ分有セシメ右各人民ノ間ニ起ル刑事民事ニ當テハ藩内人民ハ藩ニ於テ裁判シ内地人民及ヒ兵員ハ成規ニ隨テ出張所ト營所トノ所管事項ヲ各分シテ裁判スヘキカ然レトモ國法ヲ同フシテ裁判權ヲ各分スルハ（別ニ裁判官ノ有スルハ論ナシ）（特殊ノ權ヲ有スルヲ以テ營所ハ）國權ニ關係シ遂ニ當今專ラ御詮議アル所ノ支那云々ノ事件ニ差響キ甚不可然然レハ斷然彼藩ヘ裁判所ヲ置レンカ然レトモ彼藩今日ノ景況ニテハ未タ當省出張所ヲ廢スル場合ニ至ラサルニ付テハ莫爾タル一小地方ニ於テ裁判所ト出張所ト兩廳ヲ幷置スルニ至リ只ニ冗費ノミナラス會計上ニ取テモ損失亦不少依テ實際適宜ノ御詮議ヲ以テ自今彼ノ藩王ノ裁判權ヲ解キ此權ヲ當省出張所ニ兼有セシメテ在勤官吏ニ判事及ヒ判事補ヲ兼任セシメ且ツ之レニ警察事務ヲモ兼ネシメテ該地在留ノ内地人民ニ對シテノ警察ヲナサシムル等則チ未タ裁判所ヲ置カレサル縣ノ事務ニ權衡ヲ取テ御制定ニ相成候樣致シ度乃チ彼ノ藩王及ヒ當省ヘノ御達案相添上申候也

指令九年五月十七日

伺ノ趣聞屆別紙ノ通改正相達候條此旨可相心得事

法制局議案九年五月十五日

別紙内務省伺琉球藩内人民ト該地在留内地人民トノ間ニ起ル刑事民事裁判云々ノ儀御聽許ノ上成案附箋ノ通改正御達相成可然存候御指令案相添仰高裁候也

各裁判所ヨリ司法省ヘ伺　九年九月二十七日

第一條　昨日御口達相成候件々ハ總テ裁判廳開設ノ後平常所長御委任ノ儀ニテ今般新置ノ際判任以下

任官ノ儀ハ別段御委任可相成筈ト相心得候

第二條　定額増費ヲ要セサル樣目的可相立トノ儀ハ其事務ニ干豫セスシテハ甚タ難キヲ覺エ全體今般定ヲルヽ處ノ全額何ニ起因スルヤモ承知セス目的ヲ生スル地歩ナク如何相心得可然哉

第三條　自今裁判所在勤ノ官員所長ノ申立無之中ハ本省ヨリ增減轉任等御下命無之筈ト相心得候

第四條　布告布達類ハ本廳支廳引分本省ヨリ各々ニ御送達相成儀ト相心得候

第五條　但區裁判所分ハ其管轄ノ本廳又ハ支廳ニ取束子本文ノ通

支廳何ケ所區裁判所何ケ所ト有之右ハ便宜ニ寄リ支廳ヲ減シ區裁判所ヲ增シ候トモ定額ニ相違無之上ハ不苦儀ト相心得候

第六條　支廳區裁判所設置ニ付テハ右家屋建築費用等ノ儀如何相心得可然哉

右相伺候至急御指揮被下度候也

司法省指令　九年九月二十八日

第一條　伺ノ通リ尤今般事務引受ノ際ニ限リ淘汰任免ノ儀直ニ施行不苦事

但辭令書式等ハ仕例ノ通

第二條　別紙相達スヘシ

第三條　伺ノ通

但本省見込ヲ以增減轉任等ノ節ハ前以示聞ニ及フ儀ト心得ヘシ

第四條　伺ノ通

第五條　伺ノ通ニテ不苦候得トモ其都度一應可申出事

第六條　口達ニ及ヘシ

鹿兒島裁判所長ヨリ司法省ヘ伺十年四月十八日

別紙各裁判所長共ヨリ伺ノ件々ニ御指令相成候通リ施行致候テ可然哉此段奉伺候也

司法省指令　十年四月二十日

伺ノ通

司法省ヘ達　十一年六月五日

別紙陸軍大將兼議長二品熾仁親王上申九州臨時裁判事務局取扱ノ事件將來ノ分其省ヘ引渡方等ノ儀朱書ノ通及指令候條同局協議ノ上受取方可取計此旨相達候事

九州臨時裁判事務ヲ司法省ニ屬ス

舊總督府上申十一年五月十五日

九州地方國事犯殘務取扱方ノ儀ニ付テハ豫テ及上申置候通凡本月迄ニ都テ取纒メ候見込ノ處九州臨時裁判事務局開設以來新タニ自首捕縛ノ殘賊意外ニ增加シ今日ニ至リテハ殆ト五千人許ノ員數ニシテ該事務ノミモ既ニ多端ノ手數ト相成加之ナラス各地懲役人ノ內收贖或ハ存留養親或ハ親族責付或ハ功罪相償ヒ特免及輕減諸願等ノ他新出ノ事務亦不少之カ爲メ見込外ニ數旬ノ時日ヲ費スニ至リ隨テ所要ノ殘務取纒メ方大半ノ手後レト相成リ結了ノ期際限無之儀ニ付自今將來ノ取扱ニ關スル事務ハ之ヲ司法省ニ引讓リ本局於テハ既往ノ殘務取纒メ而已ニ取掛リ候ヘハ區域確乎ト相分レ隨テ取纒メ期限目途モ相立可然ト存候依テハ司法卿ヘモ及示談候處差閊無之旨ニ付至急御裁可ノ上該事務受取方御達シ相成度候尤右ノ通御許可相成候得ハ本局ハ單ニ既往ノ事務ノミ取纒メ相成候ヘトモ前陳ノ通既ニ見込以外ノ日數ヲ費シ候ニ付テハ是ヨリ巨萬ノ賊徒ニ關係ノ書類整頓ニ著手スヘキノミナラス差當リ司法省ヘ引繼ノ爲メニモ記錄セサルヲ得サルモノモ許多有之彼此差湊ヒ豫テ期定イタシ候見込ノ時日ニハ完結難相成候條其段ハ御聞置相成度尤局費ノ儀ハ既ニ允許相成居候目途金ヲ以テ繰リ合セ本月後尙遷延スル日數ハ別段經費ヲ不仰見込ニ有之候間此儀モ併セテ御聞屆ノ上大藏省ヘ御達置相成度此段上申候也

指令十一年六月五日

上申ノ趣聞屆候事

書記官議案十一年五月二十一日

別紙陸軍大將兼議長二品熾仁親王上申九州臨時裁判事務局取扱ノ事件將來ノ分ハ司法省ヘ引渡當今マテノ分該局ニ於テ整理イタシ度趣審案候處右ハ司法省協議ノ上ニモ有之且殘務整理ノタメ豫定ノ期限五月ヲ超ヘ候日數ハ別ニ費用ノ御下付ヲ要セス期限中ノ費額ヨリ支辨スヘキ旨ニ付申請ノ通リ御允許相成可然哉諸案ヲ具シ仰高裁候也

司法省伺十一年六月十四日

本月五日九州臨時裁判事務當省ヘ受取候樣御達ニ付右事務後來ノ分ハ拙者ヘ御委任相成候儀ト相心得可然哉差掛リ候儀モ有之ニ付至急何分ノ御指揮有之候樣致シ度此段相伺候也

指令十一年六月二十六日

伺之通

書記官議案十一年六月十八日

別紙司法省伺九州臨時裁判事務局事務可受取旨御達ニ付心得方ノ儀考案候處右ハ最前陸軍大將二品熾仁親王上申ノ旨意モ該事務將來ノ分司法省ヘ引渡候上ハ總テ同卿ヘ御委任可相成筈ニ可有之ト存候條左案ノ通御指令可相成歟仰高裁候也

九州臨時裁判所事務ヲ管シ賊徒處分順序ヲ定ム

小笠原島ノ裁判警察事務ヲ内務省出張所ニ委ス

十三年十月二十六日裁判事務ヲ東京府出張所官吏ニ委ス　警察事務亦同シ警察門ニ載ス

司法省達

十一年六月二十六日　丙第六號地方裁判所各府縣

九州臨時裁判事務今般當省ヘ受繼候條爲心得此旨相達候事

司法省達

十一年七月八日　丁第二十六號判事檢事

九州臨時裁判事務本省ヘ受繼候條該賊處分順序左之通可相心得此旨相達候事

第一條　客年鹿兒島熊本福岡山口ノ四縣ニ於テ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ以テ官兵ニ抵抗スル賊徒ヲ以テ九州臨時裁判ノ部分トス

第二條　前條ノ殘賊幷連累關係人自首或ハ捕縛等ノ節ハ該地方ノ檢事（檢事ナキ地方ハ警察官）直ニ裁判所ノ本廳或ハ支廳ニ求刑スヘシ

第三條　判事右ノ求刑ヲ受理シ本犯ノ口供書ヲ以テ處刑ヲ本省ニ伺出ヘシ

第四條　本省ニ於テ刑ヲ定メ宣告書ノ案文ヲ作リ原裁判所ノ本廳或ハ支廳ニ下付スヘシ

第五條　原裁判所ハ右ノ宣告書ノ案文ヲ淨寫シ該廳ノ印ヲ捺シ通常ノ規則ニ從ヒ宣告ヲ爲スヘシ

内務省へ達

十一年十月二十八日

小笠原島其省出張所ヘ自今島内裁判事務及警察事務ヲ被附候條此旨相達候事

内務權少書記官小花作助ヘ達

今般内務省ヘ別紙ノ通相達候ニ付テハ在勤中判事兼任ノ心得ヲ以テ島内裁判事務取扱被仰付候事

司法省へ達

今般小笠原島々内裁判事務ノ儀ニ付内務省其外ヘ別紙之通相達候條此旨可相心得事

内務省上申十一年十月十八日

小笠原島ノ儀追々居留ノ人員增加致シ付テハ口論爭鬪等ノ儀往々有之取締向甚差支候間同地ニ有之當省出張所ヘ裁判及警察ノ事務ヲ被附候樣致度尤居留ノ外國人取扱ノ儀ニ就テハ各國公使トノ談判未相濟ニ付裁判ハ内國人民ニ限リ候樣相成度依テ當省ヘ御達案添此段上申候也

追テ本文御許可ノ上ハ同所在勤ノ當省官員ヘ判事兼任被仰付度此段添テ申上候也

法制局議案十一年十月二十五日

別紙内務省上申小笠原島々内裁判及警察事務ノ儀取調候處上請ノ趣不得止儀ニ付御允裁相成可然ト存候就テハ去ル九年中琉球藩ヘ裁判及警察事務御取設ノ先例ヲ履ミ左ノ通御達相成可然哉諸案取調仰高裁候也

第八條ノ件ハ十二年五月第十七號ヲ以テ布告アリ裁判所ノ部ニ載ス

司法省伺

十二年三月十五日

別紙小笠原島在勤判事心得小花作助伺ニ付甲號ノ通内務外務兩省ヘ及照會候處乙號丙號ノ通回答有之因テ左ノ通及指令可然哉此段相伺候至急御裁令ヲ仰ク

但第八條ハ伺ノ通タルヘキニ付御布告相成度候也

指令案

伺ノ趣第一條ヨリ第六條マテ内國人同樣處分可致事

第七條第八條第九條第十條伺ノ通

第十一條　具狀ニ及ハス

指令十二年五月十二日

伺ノ趣指令案第九條控訴期限ハ追テ何分ノ儀可相達事ト改メ其他ハ總テ成案ノ通

小笠原島在勤判事心得

内務權少書記官小花作助伺十二年一月二十四日

小笠原島内務省出張所ヘ裁判事務被附候ニ付テハ左ノ件々相伺候條御指揮被下度候

但小笠原島ノ儀ハ天保元年ノ頃ヨリ英米佛西等ノ各國人流寓荒洪ノ地新開ノ上古居其後追々子孫繁殖罷在候處文久年間舊幕府ニテ開拓著手ノ節右ノ者ヒヘ新開ノ地ハ附與イタシ私有ノ權ヲ與ヘ置候ニ付明治九年再ヒ著手ノ節モ各國公使ヘ御達ノ上同樣私有ノ地ヲ與ヘ置候ニ付同島ニ限リ外國人ト雖ヒ不動產ノ地所私有罷在内地居留ノ外國人トハ別格ノ事ニ有之殊ニ各國トモ其國官吏居住無之ニ付警察上ノ保護ハ我政府ヨリ致シ被遣候筈兼テ外務卿ヨリ公使ヘ御談判ニモ相成居リ候ニ付双方外國人ノ間ニ起リ候事ニテモ我出張所ヘ訴出候儀屢有之候

第一條　原告被告トモ外國人ニ候節ハ我律ニ照テ處分候儀ハ難成筋ニ候ヘトモ輕キ事ト見込候件ハ可成丈勸解說諭ヲ加ヘ處分イタシ可然哉

第二條　前同斷勸解說諭ニテ和解難行屆節ハ後證ノ爲メ在島外國人ノ内ニテ重立タルモノ兩人已上ノ立會ヲ取リ手續書取調ノ上横濱其國領事ヘ外務省ノ手ヲ經テ差出候樣可致儀ト心得可然哉

第三條　前同斷殺傷等ニテ確證等モ有之暫時モ難差置刑事ニ關スル事件ハ前同樣兩人已上立會手續書取調ノ上便船ノ節横濱其國領事ヘ護送ノ上本人ヲ引渡候樣可致尤便船有之候マテノ時間ハ其犯罪人ヲ出張所檻倉ヘ入置候樣可致儀ト心得可然哉

但其顚末外務省ヘモ具狀可致ヿト相心得可申哉

第四條　外國人ヨリ我人民ヘ係ル訴狀ハ民事刑事トモ其曲我人民ニアル時ハ相當處分イタシ我人民不服ニテ控訴可致節ハ東京上等裁判所ヘ差出可然哉

第五條　我人民ヨリ外國人ニ係ル民事ハ重立タル外國人兩人以上立會ノ上我律ニ據リ處分致シ彼告外國人若シ不服ノ節ハ手續書取調ノ上外務省ノ手ヲ經テ其國領事ヘ差出候義ト心得可然哉

第六條　我人民ヨリ外國人ニ係ル刑事ハ重立タル外國人兩人以上立會ノ上手續書取調ノ上外務省ノ手

ヲ經テ其國領事ヘ差出候儀ト心得可然哉

但處刑落著未濟ノ内ハ其本人該島立退候儀差拒ミ可然哉

第七條　我人民ノ民事刑事トモ律ニ據テ處分スルヿハ勿論ニ候ヘ𪜈各地方裁判所ノ權限ニ推シ十年懲役ノ如キハ處斷致シ其以上ノ件ハ上等裁判所ノ許否ヲ上請イタシ候義ト相心得可然哉

第八條　控訴裁判所ノ義ハ東京上等裁判所ト相心得可然哉

第九條　控訴ノ義ハ三ケ月ノ期限ニ候ヘ𪜈小笠原島ノ儀ハ一ケ年三度ノ便船ニ付其期限延引候事𪜈無餘儀候ヘ𪜈裁判申渡ヨリ次ノ便船ニ延引候節ハ御採用不相成儀ト心得可然哉

第十條　前件々外務省ヘ可差出事ハ東京上等裁判所ヘ詳細具狀候上可取計儀ト相心得可然哉

第十一條　裁判事件處斷濟ノ上手續書便船ノ度毎ニ具狀候儀ト相心得可申哉

但勸解ニテ事濟候儀ハ上申ニ不及儀ト心得可然哉

（甲號）

司法省ヨリ外務内務兩省ヘ照會十二年二月十七日

小笠原島在勤判事心得小花作助ヨリ別紙ノ通伺出候處於當省ハ從來ノ續キ分明ナラス候ヘ𪜈反覆審思スルニ該伺ノ如キハ今日ノ措置其宜ヲ得サレハ將來ノ關係亦タ頗ル重大ナリトス舊幕府已來英米蒲西等ノ人該島ニ流寓シ其土地ヲ占有スト雖モ該島ハ固ヨリ我國土ニシテ民人ノ保護モ我政府ノ管理スル處タリ而シテ各國政府ニ於テモ未タ官吏ヲ置テ之ヲ管理スルヿナク一ニ我政府ノ保護ニ歸スル者ノ如シ思フニ根元ハ英米蒲西等ノ人タリト雖モ數年前ヨリ流寓寄著今日ニ至リ子孫繁殖各自安居スル者ニシテ其人皆ニ本國ノ管理ヲ脫離シタル如ク其本國ノ政府モ亦タ暗ニ度外視スル者ノ如シ然レハ根元英人タリ米人タリト雖モ苟モ生ヲ我國土ニ寄セ我カ管理ニ歸スル者ハ其土民ト同シク我カ政府ニ於テ勉テ之ヲ管轄シ之カ保護ヲナサヽル可カラス民事刑事ノ裁判ハ勿論内國人同樣我國ノ法律ニ因リ裁判致方當然ノヿト思考致シ候逐條御意見御申越有之度尤御回答ノ上一應太政官ヘ伺候答ニ候也

（乙號）

外務省ヨリ司法省ヘ回答十二年二月二十一日

小笠原島在勤判事心得小花作助ヨリ伺出候該島住居外國人民刑詞訟處分方ノ儀ニ付別紙伺書相添當省意見可申進旨本月十七日附第六百三號ヲ以委詳御照會ノ趣致承知候各國政府ニ於テ該島ニ居住スル外國人ヲ管理スルノ官吏ヲ置サル以上ハ我國人民ヨリ外國人ニ對シ詞訟ノ件アルトキ其愁訴ノ狀情ヲ述テ其曲直ノ判決ヲ乞フノ道無之ニ付是非トモ我官吏ノ手ニ據ラサルヲ得ス且該島在住ノ外國人ハ内國人同樣民事刑事トモ我政府ノ管轄ノ下ニ歸セサレハ實地彼我人民ノ保護難相立依テ御來意ノ如ク民事刑事トモ内國人同樣我國ノ法律ニ據リ裁判スルノ外無之ト存候尤刑事中殺傷等ノ如キ重大ノ件ニ至リテハ之ヲ審訊シテ文案證憑等ヲ以テ貴省ニ具狀シ其審批ヲ取リ然ル後宣告相成候樣致度存候將又右伺書中第二三五六條ニ記載アル重立タル外國人兩名以上ヲ立會スル事ニ至リテハ最其當ヲ得サルモノト被存候此段及御回答候也

（丙號）

内務省ヨリ司法省ヘ回答十二年三月七日

大審院ニ於テ罪案批可ノ際不明瞭ノ廉ハ上等裁判所ニ照會セシム

職制章程ノ部ヲ參看スヘシ

福岡縣裁判所ト應答ノ件ヲ郡區長ニ委ス

小笠原島在勤判事心得小花作助ヨリ別紙伺出ノ件ニ付縷々御照會ノ趣致承知候因テ考案候處元來同島ノ我版圖ニ屬シ候儀ハ各國公使ト雖既ニ之ヲ承認シタル儀ニ有之隨テ本島居住外國人ノ如キハ必竟本島ニ流寓占居セシ者ニテ之レヲ一般外國人ト同視スヘキ樣ハ無之固リ我國政府ノ管轄ニ屬シタル上ハ之ヲ保護スヘキハ勿論ニ付御省議ノ通外國人交渉ノ事ト雖𪜈民刑事ノ裁判ハ内國人同樣我國ノ法律ニ因リ裁判可相成ハ至當ノ儀ト存候ニ付該伺逐條ニ付キ更ニ當省意見ハ附記不致候尤外務省御照會ノ末同省意見及御回答候趣當省ヨリ照會致承知候ニ付旁御省議ノ通ニテ當省於テモ異存無之候此段及御答候也

法制局議案十二年四月十四日

別紙司法省上申小笠原島裁判事務ノ儀取調候處内外務兩省協議ノ趣事理至當ニ付上請ノ通允裁相成候方可然哉尤伺書第九條控訴期限ノ儀ハ内地一般ノ成規ニ據カタキハ勿論ニ候ヘ𪜈同島實際ノ景況ニ對シ即今特別ノ法ヲ設クルヲ要セスト相考候間左案ノ通御指令相成可然哉御布告案𪜈取調仰高裁候也元老院檢視後布告

大審院ヨリ司法省ヘ伺十一年十二月十三日

各上等裁判所ヨリ本院ヘ送致相成候罪案及證憑中不分明ノ廉有之其上等裁判所ヘ照會ニ及フト雖モ明瞭ナラス本犯幷連累人等尚審問ニ及ハスシテ死罪批可難致節モ更ニ上等裁判所ヘ可及懸合儀ニ候哉或ハ本院ヨリ直チニ原裁判所ヘ及照會爲取調可然哉此段相伺候也

司法省指令　月日闕

伺之趣ハ其死罪案ヲ送星スル上等裁判所ヘ照會候儀ト可相心得事

司法省庶務課議案十一年十二月日闕

別紙大審院伺各上等裁判所ヨリ送星スル死罪案中不明瞭ノ廉有之節照會取計方ノ儀ハ參照ノ通死罪案ハ上等裁判所ノ判決スルモノニ付該上等裁判所ヘ照會及ヒ候テ當然ノ順序ト存候依テ左案ノ通御指揮可相成哉仰高裁候也

司法省達　十二年一月二十一日第四號大審院諸裁判所各檢事

福岡縣ヨリ地方ノ事務郡區長ニ委任ノ件ニ付伺之趣ハ左之通及指令候條爲心得此旨相達候事

福岡縣ヨリ伺十一年十月二十九日

諸裁判所ヨリ原籍問合及ヒ人民呼出之照會又ハ處刑宣告之通知有之候得ハ從來縣廳ニ於テ夫々取扱來

郡區編制法ハ十一年七月布告第十七號ヲ以テ定ムル所ニ地門郡區町村區畫ニ藏ス

區裁判所長ヨリ直ニ各郡長ヘ文書往復心得方

候處今般郡區編制法ニ依リ既ニ郡區長配置候ニ付テハ左之件々郡區長ニ委任シ直ニ諸裁判所ヘ應答爲致度候條其筋ヘ御達相成度此段相伺候也

一諸裁判所ヨリ原籍問合ノ照會ヲ受ケ之ヲ應答スル事

一同所ヨリ人民呼出之照會ヲ受ケ之ヲ本人ニ達スル事

一同所ヨリ處刑宣告ノ通知ヲ受クル事

司法省指令　十二年一月二十一日

書面ノ趣承屆則其筋ニ相達置候事

司法省ヨリ大審院各裁判所ヘ通牒十二年二月五日

地方ノ事務郡區長ヘ委任ノ儀ニ付テハ福岡縣令伺ノ趣ニ依リ本年當省丁第四號御達ノ旨モ有之然ルニ右ハ昨十一年第三十二號公達府縣官職制中郡長職制第四項ノ趣モ有之ニ付爾後各府縣ヨリ追々本省ヘ上申ノ向モ有之候得トモ右同一ノ儀ニ付其時々各裁判所ヘ別段御達等不相成候條爲御心得此段及御通知置候也

庶務課議案十二年一月

明治十一年第三十二號公達府縣官職制改定ニ付郡長ヘ委任ノ條件ニ係ル諸文書ハ郡長ヨリ直ニ各裁判所ヘ可致照會趣別紙ノ通茨城山梨ノ兩縣ヨリ上申有之右ハ前書公達中郡長職制第四項（左ニ御參照）ノ趣モ有之ニ付自餘ノ府縣ニ於テモ追々上申可相成ト存候然ルニ其上申ノ都度一々御達相成候モ手數ノミニテ到底同樣ノ儀ニ有之依テ先般丁第四號（左ニ御參照）御達ニ基キ左ノ通各裁判所ヘ通牒致置可然哉仰高裁候也

函館裁判所ヨリ司法省ヘ請訓十二年五月二十七日

區裁判所長ヨリ各府縣等ヘ往復ノ義ニ付テハ孫テ成規モ有之候處先般府縣郡區改正戶籍上ノ件其他人民召喚等ノ往復郡區長ヘ委任候旨各所ヨリ通達ノ趣モ有之處右等ノ照會遞々本管廳ヲ經由候テハ事務淹滯ハ勿論隨テ官民ノ不便モ亦不尠就テハ自今以後右等ノ如キハ區裁判所長ヨリ直チニ郡長ヘ照會往復爲致不苦候哉此段相伺候條至急御內訓ヲ乞候也

司法省內訓　十二年六月五日

區裁判所長ヨリ各郡長江往復文書ノ儀ニ付別紙申請ノ趣ハ所長ノ見込ヲ以テ其權限內ニ係ル事件ハ直ニ往復爲致不苦候條此旨及內訓候事

伊豆七島裁判事務ヲ出張警部ニ委ス

十四年四月十九日大島警視出張所ヲ廢スルニ依リ裁判事務ノ委任ヲ解ク

同年十月布告第五十七號ヲ以テ該島吏ニ委ス

治罪法ノ內刑事裁判所ノ構成及ヒ權限

十四年七月布告第三十六號ヲ以テ十五年一月ヨリ施行ノ旨ヲ令ス

司法省伺十二年十月九日

東京裁判所管內伊豆國大島ヘ裁判官派出方ノ儀ニ付別紙ノ通中警視安藤則命ヨリ申出候處右ハ裁判官一時出張ノ儀ニ候ヘハ如何樣トモ繰合セ派出可爲致候ヘ𪜈何分該地ヘ區裁判所設置可致場合ハ當分難行屆都合ニ有之候就テハ別紙同官申出後項ノ通警視出張官員ヘ委任爲取扱候樣可致ト存候右ハ內務省ヘ及協議候處同省ニ於テモ異存無之旨申越候依テ此段相伺候條急速仰御指揮候也

指令　十二年十月二十日

伺ノ通

警視本署ヨリ司法省ヘ伺十二年九月十二日

伊豆國大島ノ人民中往々暴戾ノ徒之アリ戶長等ニ於テ取締行屆兼候旨別紙ノ通副戶長秋廣平六ヨリ申出候ニ付事實篤ト取調候處相違無之ニ付今般該島ヘ警視出張所ヲ設立警部巡査若干名ヲ派遣シ伊豆國七島警察事務ヲ執行致サセ候ニ付テハ犯罪人之アルニ際シ其輕重ヲ問ハス一々之ヲ東京ニ送致スル𪜈ハ往復不便ノ地ナルヲ以テ實際頗ル煩雜ナルノミナラス其費用モ亦尠カラス依テ貴省ヨリモ裁判官ヲ派遣セラレ出張ノ警部ニ於テハ本署第三課同一ノ權ヲ以テ直チニ其裁判官ニ求刑候樣致シ度若シ目下裁判官派遣セラレ難キ御都合ニモ候ハヽ出張官員ノ內檢事ノ事務ヲ兼掌セサル者ヘ特ニ裁判權御委任出張ノ警部ニ於テ前陳ノ手續ヲ以テ該員ニ求刑シ懲役三年以下ノ輕罪者ハ該員ニ於テ專決シ其五年以上十年以下ノ重罪者及ヒ懲役三年以下ト雖𪜈共犯狀煩雜ニシテ疑義ニ涉ル者ハ審案ヲ具シテ決ヲ東京裁判所長ニ取リ然ル後之ヲ決行シ死罪及ヒ懲役終身ノ者ノミ當署第三課ニ送致シ定規ノ手續ヲ以テ東京裁判所ニ求刑候樣相成度此段書類相副上申ニ及候條別紙之ヲ省ク至急御評決相成度候也

法制局議案十二年十月十六日

別紙司法省伺伊豆國七島裁判事務ノ儀審案候處其要領ハ該島中從前官署ノ設置ナク不良ノ島民取締不相立ニヨリ今回警視局ヨリ警部巡査ヲ派出シ該警部ヲシテ刑事裁判ノ事ヲモ行ハシメントスルニアリ右ハ隔絕ノ島地別ニ裁判官ノ派出モ難行屆無餘儀次第ト存候尤等シク警部ニハ候ヘ𪜈共檢事々務ト裁判事務トハ人ヲ異ニシテ擔任取扱候趣ニ付伺ノ通御裁可相成可然哉仰高裁候也

布告節錄（十三年七月十七日第三十七號）（全文ハ治罪門刑事證則ニ藏ス）

第二編　刑事裁判所ノ構成及ヒ權限

第一章　通則

第三十一條　通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁判所ニ屬ス

第三十二條　裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　裁判所ニハ檢察官一名又ハ數名ヲ置ク

第三十四條　刑事ニ付キ檢察官ノ職務左ノ如シ

一　犯罪ヲ搜査ス

二　犯罪ニ付取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官ニ請求ス

三　裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス

四　裁判所ニ於テ公益ヲ保護ス

第三十五條　檢察官一名ハ公廷ニ立會フ可シ

第三十六條　裁判所ニハ書記一名又ハ數名ヲ置ク

第三十七條　書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書公判始末書其他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ル可シ

又裁判言渡書其他一切ノ書類ヲ保存ス可シ

第三十八條　犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルヿ左ノ如シ

一　違警罪ハ違警罪裁判所

二　輕罪ハ輕罪裁判所

三　重罪ハ重罪裁判所

重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非スト雖モ上等ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第三十九條　左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

一　同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタル時

二　數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタル時

三　自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カルヽ爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時

第四十條　同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

犯罪ノ地分明ナラサル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第四十一條　數箇ノ裁判所ノ管轄地內ニ於テ同時ニ又ハ繼續シテ一箇ノ罪ヲ犯シタル時ハ其中ニテ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數罪俱發ノ場合ニ於テモ亦同シ

第四十二條　犯罪ノ地ニ非サル裁判所ノ管轄地內ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ最近ノ管轄裁判所ニ送致ス可シ

令狀ヲ以テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ其令狀ヲ發シタル裁判所ニ送致ス可シ

第四十三條　數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルヿ能ハス若クハ法律上逮捕スルヿヲ許サヽル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第四十四條　從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

高等法院及ヒ陸海軍裁判所ノ管轄ニ付キ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ本條ノ例ニ在ラス

第四十五條　外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ依リ處斷ス可キ者ニシテ內地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタル時ハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

闕席裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス其住所分明ナラサル時ハ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ

第四十六條　商船內ノ犯罪ニ付テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條　豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カラス前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ哀訴及ヒ闕席裁判ニ對スル故障ヲ除クノ外其上訴ノ裁判ニ干預ス可カラス此規則ニ背キタル時ハ其言渡ノ效ナカル可シ

第四十八條　裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ自ラ其管轄ナリヤ否ヲ判決スルノ權アリ其判決ニ付テ

ハ本案ノ事件終審ナル可キ場合ト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ檢察官其他訴訟關係人ヨリ上訴スルヿヲ得

第二章　違警罪裁判所

第四十九條　治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地內ニ於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス

第五十條　違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事之ヲ行フ

判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ

第五十一條　違警罪裁判所檢察官ノ職務ハ其裁判所所在ノ地ノ警部之ヲ行フ

第五十二條　違警罪裁判所檢察官ハ每月未決既決ノ事件表ヲ作リ輕罪裁判所檢事ニ差出ス可シ

事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第五十三條　違警罪裁判所書記ノ職務ハ治安裁判所書記之ヲ行フ

第三章　輕罪裁判所

第五十四條　始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地內ニ於テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス

又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ

又其管轄地內ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス

第五十五條　輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁判所判事一名又ハ數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヿヲ得

第五十六條　豫審判事ノ職務ハ司法卿ヨリ始審裁判所判事一名又ハ數名ニ滿一年間之ヲ命ス

又滿一年以上其職務ヲ繼續ス可キヿヲ命スルヿヲ得

第五十七條　判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職務ヲ行フ」判事補ハ豫審又ハ公判ニ立會ヒ意見ヲ述ルヿヲ得

第五十八條　輕罪裁判所檢察官ノ職務ハ始審裁判所檢事又ハ其指名シタル檢事補之ヲ行フ

第五十九條　輕罪裁判所書記ノ職務ハ始審裁判所書記之ヲ行フ

第六十條　東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ各其管轄地內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルニ付檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府長官ハ此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ第三編ニ定メタル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査ス可シ

一警視警部

二區長郡長

三治安判事

四警部ノ在ラサル地ノ戶長

第六十一條　司法警察官檢察官又ハ裁判官ハ他ノ司法警察官檢察官又ハ裁判官ヨリ犯罪取調ノ爲メ其管轄地內ニ於テ證憑其他事實參考ト爲ル可キ事物ヲ集取ス可キノ囑託ヲ受クルヿアル可シ

第六十二條　檢事ハ二月每ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作リ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ」

又違警罪裁判所檢察官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢事長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ」

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第四章　控訴裁判所

第六十三條　控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

第六十四條　刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヿヲ得

第六十五條　刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局判事ヲシテ其職務ヲ行ハシム

裁判所長ハ何時ニテモ裁判長ト爲ルヿヲ得

第六十六條　刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

第六十七條　檢事長ハ其裁判所ノ管轄地內ニ於テ輕罪裁判所檢事ニ屬スル司法警察及ヒ起訴ノ職務ヲ

十四年十月布告第五十五號ヲ以テ陪席判事ハ當分其裁判所長ノ臨時指定スル所ニ任ス治罪門ニ載ス

行ヒ又ハ其所屬ノ檢事ヲシテ之ヲ行ハシムルヿヲ得
又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地內ノ檢察官ニ告達スルヿアル可シ
檢事長ハ其管轄地內ノ檢察官及ヒ司法警察官ヲ監督ス
第六十八條　檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作リ司法卿ニ差出ス可シ
又輕罪裁判所檢事ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ司法卿ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
第六十九條　刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ

第五章　重罪裁判所

第七十條　重罪裁判所ハ其管轄地內ニ於テ犯シタル重罪ヲ裁判ス
第七十一條　重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク
若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ檢事長ヨリ司法卿ニ具申シ其許可ヲ得テ臨時開廳スルヿヲ得
第七十二條　重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク
第七十三條　重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ
一裁判長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之ヲ命ス
二陪席判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク時ハ其裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之ニ充ツ
第七十四條　重罪裁判所檢察官ノ職務ハ控訴裁判所檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ
始審裁判所ニ於テ開ク時ハ檢事長ヨリ始審裁判所檢事ヲシテ其職務ヲ行ハシムルヿヲ得
第七十五條　重罪裁判所書記ノ職務ハ開廳ス可キ裁判所ノ書記之ヲ行フ
第七十六條　控訴裁判所檢事長ハ閉廳ノ後既決事件表ヲ作リ司法卿ニ差出ス可シ
事件表ニハ控訴裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第六章　大審院

第七十七條　大審院ニ刑事局ヲ置キ左ノ條件ヲ裁判ス

十四年十月布告第五十五號ヲ以テ補充判事ハ當分院長ノ臨時指定スル所ニ任ス

十六年十二月布告第四十九號ヲ以テ第八十三條ニ記載スル事件ニ付高等法院ヲ開カサル時ハ逆當裁判所ニ於テ裁判スルヿヲ得セシム

一上告
二再審ノ訴
三裁判管轄ヲ定ムルノ訴
四公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴
第七十八條　刑事局ニ於テハ判事五名以上ニ非サレハ裁判ヲ爲ス可カラス
第七十九條　刑事局判事ノ職務ハ司法卿ノ奏請ニ因リ其院判事ニ之ヲ命ス
判事差支アル時ハ民事局判事授任ノ順序ニ從ヒ其職務ヲ行フ
第八十條　刑事局檢察官ノ職務ハ其院檢事長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ
第八十一條　刑事局書記ノ職務ハ其院書記之ヲ行フ
第八十二條　檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作リ司法卿ニ差出ス可シ
事件表ニハ院長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第七章　高等法院

第八十三條　高等法院ニ於テハ刑法第二編第一章第二章ニ記載シタル重罪ヲ裁判ス又皇族ノ犯シタル重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ヲ裁判ス
又勅任官ノ犯シタル重罪ヲ裁判ス
前二項ニ記載シタル者ノ正犯及ヒ從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス其院ニ於テ之ヲ裁判ス
第八十四條　高等法院ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ開ク其裁判ス可キ事件及ヒ開院ス可キ場所モ亦上裁ヲ以テ之ヲ定ム
第八十五條　高等法院ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ
一裁判長一名陪席裁判官六名但元老院議官大審院判事中ヨリ毎年豫メ上裁ヲ以テ之ヲ命ス
二豫備裁判官二名但前項ノ式ニ從ヒ之ヲ命ス
第八十六條　豫審判事ノ職務ハ上裁ヲ以テ大審院刑事局判事一名又ハ數名ニ之ヲ命ス

第八十七條　高等法院檢察官ノ職務ハ大審院檢事長又ハ司法卿ヨリ指名シタル檢事之ヲ行フ

第八十八條　高等法院書記ノ職務ハ大審院書記之ヲ行フ

第八十九條　高等法院ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ許サス但左ノ條件ニ於テハ其院ニ上訴スルヿヲ得

一闕席裁判アリタル場合ニ於テ故障

二第四百三十六條ト同一ノ場合ニ於テ哀訴

三第四百三十九條ト同一ノ場合ニ於テ再審ノ訴

第九十條　被告事件夥多ナル時又ハ再審ノ訴ヲ裁判スヿ可キ時ハ新ニ職員ヲ命スルヿアル可シ

第九十一條　高等法院ノ訴訟手續ハ通常ノ規則ニ從フ

小笠原島裁判事務ヲ東京府出張所官吏ニ委ス

十四年四月十二日東京府官吏ニ判事補ヲ兼シメ始審裁判所ノ權限ヲ付ス

司法省庶務課長ヨリ各局課ヘ通知　十三年十一月二十六日

先般小笠原島ヲ東京府ノ管轄ニ屬セラレ依テ該島内裁判事務之儀ニ付小花内務權少書記官始別紙寫ノ如ク御達相成候條爲御心得此段及御通報候也

司法省ヨリ在小笠原島内務權少書記官小花作助ヘ達　十三年十月二十八日

今般小笠原島ヲ東京府ノ管轄ニ屬セラレ候ニ付テハ島内裁判事務ノ儀當分東京府出張所ヘ致委任候條該事務同府出張ノ吏員ヘ可引渡此旨相達候事

司法省ヨリ東京府ヘ達　十三年十月二十八日

小笠原島裁判事務ノ儀當分其府出張所ヘ委任候條内務權少書記官小花作助ヨリ該事務可引受儀ト可相心得事

司法省ヨリ在小笠原島東京府一等屬兼判事補藤森圖高ヘ達　十三年十月二十八日

小笠原島裁判事務ノ儀ニ付本日別紙ノ通東京府ヘ相達候條曾テ内務權少書記官小花作助ヘ及指令置候通相心得事務可取扱此旨相達候事

司法省ヨリ大審院東京上等裁判所東京裁判所ヘ達　十三年十月二十八日

十二年三月ノ伺ハ同年五月布告第十七號東京上等裁判所管轄内ニ小笠原島ヲ加フル條ニ附ス裁判所ノ部ニ載ス

各控訴裁判所轄内ニ開ク重罪裁判所ヲ四部若クハ二部ニ分チ裁判長ヲ派出ス

今般小笠原島ヲ東京府ノ管轄ニ屬セラレ候就テハ東京府及ヒ同府一等屬兼判事補藤森圖高ヘ別紙ノ通相達候條此旨可相心得事

司法省伺　十三年十月二十三日

小笠原島ノ儀ハ是迄内務省ノ所轄ニシテ島内裁判事務ニ於ケルモ特ニ該島内務省出張所ニ付セラレ猶内務權少書記官小花作助ヘ判事兼任ノ心得ヲ以テ事務可取扱旨御達相成居候處今般該島ヲ東京府ノ管轄ニ屬セラレ就テハ當省ヨリ彼ノ地ヘ官吏ヲ派遣シ該事務可取扱筈ノ處目今諸裁判所構成等ノ都合ニ依リ差向難行屆候間當分ノ内該地ノ東京府出張所ヘ裁判事務委任致シ度其權限ノ如キハ昨十二年三月中伺濟ノ上右小花作助ヘ及指令置候例ニ依リ可爲取扱ト存候此段相伺候也

但シ小笠原島ノ儀ハ航路頗ル不便ヲ究メ最早本年ハ來十一月一日出帆ノ一便有之ノミニテ其後ハ明年ニ非サレハ便船無之趣ニ付本文至急御指令ヲ仰候也

指令　十三年十月二十六日

伺ノ通

司法部議案　十三年十月二十五日

別紙司法省伺小笠原島裁判事務ノ儀勘考候處事實不得止儀ニ付伺ノ通御聽許左ノ通御指令相成可然哉仰萬裁候也

司法省ヨリ東京控訴裁判所長ヘ達　十四年二月十日

其裁判所々轄内ニ開ク重罪裁判東京ヲ除キ其他ハ之ヲ四部ニ分チ甲部ハ横濱靜岡甲府トシ乙部ハ栃木水戸千葉トナシ丙部ハ浦和前橋丁部ハ松本新潟トナシ裁判長出張爲致候儀ト可心得此旨相達候事

但其際件數ノ多少ヲ計リ部數ヲ增減スルハ豫メ具狀致スヘク候事

司法省ヨリ大阪控訴裁判所長ヘ達　十四年二月十日

其裁判所所轄内ニテ開ク重罪裁判大阪ヲ除キ其他ハ之ヲ四部ニ分チ甲部ハ神戸姫路岡山トシ乙部ハ堺和歌山丙部ハ京都大津金澤丁部ハ德島高松松山高知トナシ裁判長出張爲致候儀ト可心得此旨相達候事

但前同文

司法省ヨリ長崎控訴裁判所長ヘ達　十四年二月十日

其裁判所所轄内ニテ開ク重罪裁判長崎ヲ除キ其他ハ之ヲ二部ニ分チ甲部ハ福岡大分トナシ乙部ハ熊本鹿兒島トナシ裁判長出張爲致沖繩縣管内重罪囚人ハ鹿兒島ヘ送致スル儀ト可心得此旨相達候事

大島警視出張所廢止ニ依リ裁判事務ノ委任ヲ解ク

十四年十月布告第五十七號ヲ以テ伊豆七島裁判事務取扱方ヲ定ム

但前同文

司法省ヨリ廣島控訴裁判所長ヘ達　十四年二月十日

其裁判所所轄内ニテ開ク重罪裁判廣島ヲ除キ其他ハ之ヲ二部ニ分チ甲部ハ山口トシ乙部ハ松江鳥取トシ裁判長出張爲致候儀ト可相心得此旨相達候事

但前同文

司法省ヨリ名古屋控訴裁判所長ヘ達　十四年二月十日

其裁判所所轄内ニテ開ク重罪裁判名古屋ヲ除キ其他ハ之ヲ二部ニ分チ甲部ハ安濃津乙部ハ岐阜トナシ裁判長出張爲致候儀ト可心得此旨相達候事

但前同文

司法省ヨリ宮城控訴裁判所長ヘ達　十四年二月十日

其裁判所所轄内ニテ開ク重罪裁判仙臺ヲ除キ其他ハ之ヲ二部ニ分チ甲部ハ福島山形トシ乙部ハ盛岡秋田トシ裁判長出張爲致候儀ト可心得此旨相達候事

但前同文

司法省ヨリ函館控訴裁判所長ヘ達　十四年二月十日

其裁判所所轄内ニテ開ク重罪裁判ハ弘前ヘ裁判長出張爲致開拓使札幌本廳根室支廳管内重罪囚人ハ其廳ニテ開クノ際送致サスル儀ト可心得此旨相達候事

司法省ヨリ各控訴裁判所檢事長ヘ達　十四年二月十日

其控訴裁判所長ヱ重罪裁判ニ付開廳順序ノ儀別紙ノ通相達候條爲心得此旨相達候事

司法省ヨリ東京裁判所ヘ達　十四年三月十一日

伊豆國七島裁判事務ノ儀大島警視出張所ヱ刑事懲役三年以下專決委任候旨明治十二年十月二十九日附ヲ以テ相達置候處今般該出張所引揚候趣警視總監樺山資紀ヨリ開申有之ニ付右委任相解裁判事務ハ其廳ヱ可引渡旨及指令置候條此旨相達候事

司法省ヨリ大審院同檢事局東京上等裁判所同檢事局東京裁判所檢事局ヘ達　十四年三月十一日

伊豆國七島裁判事務ノ儀大島警視出張所ヘ刑事懲役三年以下專決委任候旨明治十二年十月二十九日附ヲ以テ相達置候處今般該出張所引揚候趣警視總監樺山資紀ヨリ開申有之ニ付右委任相解裁判事務ハ東京裁判所ヱ可引渡旨及指令候條此旨爲心得相達候事

司法省上申　十四年三月十五日

伊豆國七島裁判事務ノ儀ハ明治十二年十月二十日經伺ノ上大島警視出張所ヘ刑事懲役三年以下專決委任致置候處今般該出張所引揚候趣警視總監樺山資紀ヨリ別紙ノ通開申有之候間右委任相解候此段上申候也

追テ本文ノ通委任相解候ニ付テハ該島ノ裁判事務ハ總テ東京裁判所ニ於テ爲取扱候猶將來該島ノ裁判事務ハ島吏ヘ委任ノ儀本年二月四日附ヲ以テ申奏致シ置候此段副申候也

指令　十四年四月十九日

上申ノ趣聞置候事

警視廳ヨリ司法省ヘ上申　十四年三月三日

伊豆七島警察事務ノ儀ニ付別紙寫ノ通內務卿ヘ伺濟ニ付今般大島警視出張所爲引揚可申候條此段上申候也

追テ本文ニ付テハ巡査副長伊藤重保判事補兼任ノ儀ハ自然御解キ可相成儀ト存候爲念此段モ申上候也

警視廳ヨリ內務省ヘ伺　十四年二月五日

伊豆七島警察事務ノ儀ハ曩ニ大島ヘ警視出張所ヲ設ケ諸島ヲ管セシメ候處諸島ヨリ大島ヘノ航路不便ニ付本廳直轄相成度旨戶長共ヨリ歎願申出事情無餘儀相聞候得共諸島ヘ出張所ヲ設クルハ實際施行シ難キ事ニ有之候就テハ正副戶長ヲシテ警察事務ヲ兼行セシメ時アリテハ當廳官員ヲ派遣シ監督爲致度且大島警視出張所モ特ニ設ケ置キ候程ノ事務モ無之ニ付此際爲引揚七島共一樣ニ致度東京府知事ヘモ協議ノ上此段相伺候也

內務省指令　十四年二月二十八日

伺之趣聞屆候事

司法部議案　十四年四月十四日

別紙司法省上申伊豆七島裁判事務云々ノ儀ハ左ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也

但追書ニ將來該島ノ裁判事務ハ島吏ヘ委任ノ儀本年二月四日附ヲ以テ申奏致シ置ト有之候ハ則チ民事ハ百圓以下幷勸解刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ該島總括ノ島吏ヘ委任ノ件ニ有之候

小笠原島諸東京府官吏ニ判事ヲ兼子シメ始審裁判所ノ職務ヲ附ス

十四年十月布告第五十四號ヲ以テ小笠原島裁判事務取扱方ヲ定ム

判事二名ニテ訟庭事件擔當ノ節席次署名ノ順次

熊谷裁判所本支廳ニ於テ輕罪重罪受理ノ區別方

司法省伺十四年二月四日

小笠原島裁判事務ノ儀ハ昨十三年十月伺ヲ經テ東京府該島詰官吏ヘ委任致シ有之候然ルニ今般裁判所構成改正致シ候トモ該島裁判事件僅少ニシテ未タ法衙ヲ設クル場合ニ至ラサル儀ト存候ニ付當分從前ノ通該島詰ノ官吏ニ判事補兼勤ノ上始審裁判所ノ權限ヲ附シ候樣致シ度此段相伺候也

指令

十四年四月十二日

司法部議案十四年三月二十八日

別紙司法省伺小笠原島裁判事務ノ儀勘考候處右ハ伺ノ通御聽許相成可然哉內務部法制部合議ノ上仰高裁候也

大阪上等裁判所ヨリ司法省ヘ伺十四年六月二十五日

當廳民事課ノ義一課毎ニ判事一名ヲ置キ專理致サセ候處詞訟ノ件數日ニ加リ頗ル多忙ニ相成自然裁判上粗漏ナキヲ保シ難ク依テ一課毎ニ判事二名ヲ置キ每件主副ヲ命シ候然ルニ訟庭ニ莅ムト裁決書ノ署名ニ於ケル順次ノ義ハ主副ヲ論セス平素ノ席次ニ因ルヘキモノナルヤ或ハ主任ハ平素ノ順次ニ拘ハラス上席致スヘキ儀ニ候哉決シ難ク候付此段相伺候至急何分ノ御指揮ヲ仰候也

司法省指令

十四年七月四日

伺ノ趣ハ主副ヲ論セス平素ノ席次ニ因ルヘキモノト可心得事

司法省ヨリ熊谷裁判所ヘ照會十四年八月九日

目今其裁判所本廳ニ於テハ輕罪以下ノ公訴ヲ受理シ其重罪事件ノ公訴ハ都テ浦和支廳ニ於テ受理相成候趣果シテ然レハ何年何月ノ頃ヨリ右樣ノ御取扱相成且御伺定等有之候儀哉其顚末至急承知致シ度此段及御照會候也

熊谷裁判所回答十四年八月十一日

當裁判所本廳ニ於テハ輕罪以下ノ公訴ヲ受理シ其重罪事件ノ公訴ハ都テ浦和支廳ニ於テ受理候儀ハ何年何月ノ頃ヨリ右樣ノ取扱且伺定等有之哉其顚末可及御報旨去九日付御照會ノ趣了承右ハ埼玉縣ヨリ別紙ノ通伺出其御指令ニ依リ同縣ヨリ常ニ當支廳ヘ求刑致來候儀ニテ當廳ヨリノ伺定等ハ一切無之候條此段御承知相成度別紙相添御回答及候也

追テ本文求刑ノ儀ニ付テハ該伺出ノ前屢々埼玉縣ト往復ノ次第モ有之趣ニ候ヘトモ右ハ渾テ本廳ニ藏置致シ當支廳ニハ別紙伺御指令寫ノミ有之候儀ニ付不取敢右寫差進候條猶往復書類御入用ニモ候ハヽ其旨御申越有之度候也

（別紙）

埼玉縣ヨリ司法省ヘ伺十二年七月十二日

輕罪ノ豫審ヲ照審セサルモノニ限リ治安裁判所ニ於テ其裁判ヲ爲スヿヲ得

十四年十月布告第五十三號各裁判所位置及管轄區畫ノ條ニ付スル伺文ヲ參看スヘシ裁判所ノ部ニ收ス

小笠原島裁判事務取扱方

二十一年五月勅令第三十五號ヲ以テ當分ノ內島廳官吏ヲシテ裁判官檢察官ノ職務ヲ行ハシム

盜賊罪裁判ハ當分三府五港ヲ除クノ外警察署ニ於テ裁判セシム

區裁判所權內ノ者ヲ便宜本支廳ヘ求刑スルモ妨ナキ御指令ハ御省指令錄中ニ散見致候處地方廳便宜ヲ以本廳管內ヨリ發スルモノヲ支廳ヘ又支廳管內ニ起ル者ヲ本廳ヘ求刑スルモ妨ナキ儀ト相心得可然哉必シモ其區畫ニ依リ本支區裁判所ト區別シテ求刑スルモノトスルトキハ多少ノ費用ト手數ヲ要シ分轄アル爲メニ却テ不便ヲ釀シ差支モ不尠候ニ付此段豫テ相伺候條速ニ御指揮有之度候也

司法省指令十二年八月四日

伺ノ通

布告

十四年九月二十日太政大臣三條實美署（治罪門刑事條則ニ廢ス）

第四十八號

刑法治罪法中違警罪裁判之儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ警察分署ニテ裁判可致候條此旨布告候事

司法省達

十四年九月二十二日

丙第十二號

今般第四十八號ヲ以テ違警罪裁判ハ當分三府五港市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ警察分署ニ於テ裁判可致旨御布告相成候ニ付テハ各警察署幷ニ警察分署所在名稱及ヒ管轄區畫左之雛形通取調可屆出此旨相達候事　雛形略ス

布告

十四年十月六日太政大臣三條實美署

第五十四號

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ內輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヿヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ場合ニ於テ訟庭內治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

布告

十四年十月七日太政大臣三條實美署

第五十六號

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所（即チ違警罪裁判所）始審裁判所（即チ輕罪裁判所）ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

伊豆七島ノ件ハ下ニ載ス

伊豆七島裁判事務取扱方

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

司法省上申十四年四月二十日

小笠原島東京府出張所ヘ輕罪裁判所ノ權限ヲ附與シ同伊豆七島ヶ吏ヘ民事百圓以下刑事逆警罪等委任ノ儀本月十二日御裁可相成候處右裁判管轄區域ノ儀別紙ノ通公布相成度且該島ハ先般申奏ノ通內地ト同視致レ難キ景狀アルノミナラス東京府出張所吏員幷島吏等ニテ治罪ノ手續キ法律ニ準據スヘキ人員無之ハ勿論ノ儀ニ付當分便宜取扱候樣是又公布相成度此段併セテ及申奏候也

司法部議案十四年九月二十八日

別紙司法省申奏小笠原島幷伊豆七島治罪手續ノ儀審案候處右ハ事實無餘儀次第ニ付御聽許相成可然哉法制部合議仰高裁候也（元老院檢視）

布告（第五十七號）十四年十月七日太政大臣三條實美署

伊豆七島裁判事務當分該島吏ヘ民事ハ百圓以下及勸解幷ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

司法省伺十四年二月四日

伊豆七島裁判事務ノ儀ニ付東京府知事松田道之ヨリ別紙ノ通上申候ニ付審案候處該七島ノ如キハ大洋中ニ散布シ大島ヘ始審裁判所ヲ設ケ之ヲ統括スルモ島民ノ不便ハ倒底脫ルヘキニアラス又各島ヘ裁衙ヲ設クヘキ情況ニモ無之ハ勿論ノ義ニ有之從前該七島ノ民刑件數ニ於テモ凡一ケ年一二件或ハ二三件不過依テハ東京府知事意見ノ通リ內地ト同視スヘカラサルヲ以テ別ニ方法ヲ設ケ該島總括ノ島吏ヘ民事ハ百圓以下幷勸解刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任致シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ヘ訴出候樣東京府ヘ相達度此段及申奏候條至急御裁定ヲ仰キ候也

指令十四年四月十二日

伺ノ通

東京府ヨリ司法省ヘ上申十三年十一月三十日

管下伊豆七島ノ儀本年六月中大島ヘ民事裁判官派出相成度段及上申候節委曲具陳致シ置候通人情風俗內地ト日ヲ同フシテ語ルヘカラサル義ニ付郡區ノ制ヲ立ツルニ至テモ一般ノ法ヲ以テ概行スル能ハス因テ編制法追加第七條ニ由リ總テ昔時（維新前）ノ制ニ復スルノ旨意ヲ以テ制度ヲ立ル見込ニ候處裁判事務ニ至テハ大島ニ限リ警部兼任ノ判事補派出相成居候得共其他ノ諸島ニ至テハ瑣細ノ事件ト雖モ一々內地ニ航シ管轄裁判所ニ訴フルノ外他ニ其道ナキヲ以テ大島若クハ其他便宜ノ島中ニ於テ裁判廳ヲ置キ各島ヲ統轄セシメラレ候共各島渡航ノ稀少ナル其有無相通スルノ物貨ニ乏キヨリ却テ東京ニ於ケルヨリ甚シク人民一層ノ不便ヲ感スヘク將タ各島ニ裁判官ヲ駐留セシムルトハ此不便ヲ除却スヘシト雖モ島中ノ人口寡キハ二百三十八多キモ八千百二十一ニ過キサルカ故ニ裁判所配置ノ大體ニ於テモ御施行難相成事ト存候抑該地方ノ如キハ人知開進ノ度所謂內地同一ノ比ニアラサレハ民事案件ニ至テハ隨テ僅少ナル事ト相考候得共若シ之レ曲直ノ刑判ヲ仰カントスル件ハ極テ瑣末ノ事件ト雖モ周歲數回ニ過キサルノ便船ヲ俟チ險難ノ海路ヲ航シ勞費少カラサルヲ以テ勢セ大事件ニアラサレハ訴フルヲ得ス直ヲ枉テ損害ヲ蒙リ竟ニ財產授受ノ間ニ影響ヲ來シ殊ニ貸借上ニ至テハ後來融通ノ道ヲ塞キ殖產ノ妨得トナル少小ナラスト存候且今般最輕ノ警察權ハ島吏ヘ委任相成度段內務卿ヘ及上申候ニ付テハ刑事ニ至テモ違式處分ノ如キ極テ輕易ナルモノハ併テ其權ヲ有セサレハ實効無之ト存候舊時ノ制（維新前）ノ處裁判以一島ヲ總括スルモノニ於テハ輕易ノ聽斷ハ其掌管スル所ニ付島民今日ノ如キ不便ヲ覺ヘサル義ノ處裁判所配置日々整頓ノ折柄特リ七島人民ニアリテハ却テ此不便ヲ受クル義ニ付過日島地ノ制施行ノ節ヨリ民事勸解及違式處分等ノ義更ニ一島ヲ總括スルモノヘ付屬セシメラレ候樣御詮議相成度此旨及上申候也

司法部議案十四年三月二十八日

別紙司法省伺伊豆七島裁判事務島吏ヘ委任ノ儀勘考候處右ハ伺ノ通御聽許相成可然哉內務部法制部合議ノ上仰高裁候也

司法省達十四年十月十八日

今般其裁判所長官ヲ命シ候處最早新法實施ノ餘日モ多カラサルニ付早々著手（赴任）ノ準備可致候此旨爲心得相達候事

控訴始審裁判所長官姓名

同　上席檢事官姓名（今般赴任ノ向ハ之ヲ除ク）

司法省指令十四年十一月二十九日

輕罪裁判所始審裁判所ハ各幷立スルモノニ付廳名ヲ記載スヘキ書類ハ固ヨリ區別スル儀ト心得ヘシ

松山外二始審裁判所ヨリ司法省ヘ伺節錄十四年十一月五日

治安裁判所ノ稱呼ハ何方始審裁判所管內何方治安裁判所ト稱スル儀ニ候哉

司法省指令十四年十一月二十九日

控訴始審裁判所長及上席檢事ニ新法施行ノ準備ヲ促ス

輕罪裁判所始審裁判所ノ聽名記載方

治安裁判所ハ單ニ某地治安裁判所ト稱シ始審聽ノ管內タルヲ所スニ及ハス

治安廳ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ其旨報輕罪裁判所ノ名稱ヲ用フ

始審及七治安裁判所ハ各獨立タリ其職制章程ハ十年二月定ル所ニ據ル

十四年布達第二號ハ從前公布中各裁判所名稱改正ノ心得方ナリ裁判所ノ部ニ載ス

單ニ某地名治安裁判所ト稱シ始審裁判所ノ管内タルコトヲ示スニ不及

司法省達 十四年十二月九日 大審院裁判所

本年第五十四號公布ニ依リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クトキハ其管轄輕罪裁判所ノ名稱ヲ用ヒ其印ヲ捺シ某治安裁判所ニ於テスルコトヲ附記スヘシ左ニ雛形相添ヘ此旨相達候事

書式雛形

於八王子治安裁判所

横濱輕罪裁判所

印章雛形

横濱輕罪
裁判所

安濃津始審裁判所ヨリ司法省ヘ伺 十四年十二月二十三日

地方裁判所ハ其組織之ヲ本支區ニ分チ本廳之ヲ統轄スルノ處來明治十五年一月始審治安裁判所等開廳ノ期ニ至リ候ハヽ自然各分離獨立ス可キ義ト相心得可然哉又ハ其管轄ニ屬スル即チ安濃津始審裁判所ニ在テハ四日市上野治安裁判所ノ如キハ安濃津始審裁判所ニ於テ從前之通リ本廳ノ支區廳ヲ統轄スル如キ相心得可然哉

是迄地方裁判所職制章程ニ依テ事務取扱來リタル處新法實施ニ際シ職制章程等未タ別段ノ御達シモ無之就テハ一般ノ通務ニ依リ所長廳務ヲ總轄シ適宜ニ其順序ヲ立テ取扱候儀ト相心得可然哉

右指迫リ候儀ニ付至急何分ノ御御指揮候也

司法省指令 十五年一月十日

第一條　始審幷治安裁判所ハ各獨立スヘキモノト心得ヘシ

第二條　明治十四年第二號布達ニ據リ會得スヘシ

相川以下十四所治安裁判所ニ於テハ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得

北海道及沖繩縣裁判治罪ノ手續

第五十三號布告ハ裁判所ノ部ニ載ス

北海道ノ項ハ十五年布告第十四號及第二十八號ヲ以テ消滅ス裁判所ノ部ニ載ス

十五年六月布告第三十號ヲ以テ札幌根室始審裁判所治罪ノ手續ヲ定ム

十五年七月布告第三十三號ヲ以テ沖繩縣管内重罪犯ノ處分方ヲ定ム

二十一年五月勅令第三十五號ヲ以テ當分ノ内沖繩縣廳官吏ヲシテ裁判官檢察官ノ職務ヲ行ハシム

司法省第二局議案 十五年一月七日

別紙安濃津始審裁判所長伺面第一條始審幷治安裁判所ハ從前地方裁判所ノ本支區廳ノ組織ニ異ナリ各獨立スヘキモノニ可有之其第二條職制章程ハ別ニ御制定無之モ昨年第二號ノ御布達有之上ハ明治十年二月被相定候地方裁判所ノ職制章程ニ據ルヘキ儀ト被存候間右ノ御指令案ヲ草シ仰高裁候

布告 十四年十二月二十八日太政大臣三條實美署司法卿大木喬任副署 第七十七號

本年十月第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ

但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續等ハ本年第五十四號布告但書ノ通タルヘシ

右奉　勅旨布告候事

○司法省伺書ハ十四年十二月布告第七十六號相川以下十四所ノ始審裁判所廢止ノ條ニ見ユ裁判所ノ部ニ載ス

布告 十四年十二月二十八日太政大臣三條實美署司法卿大木喬任副署 第七十九號

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年十月第五十三號ヲ以テ布告候處北海道函館始審裁判所管内ヲ除ク幷ニ沖繩縣ノ儀ハ當分從前ノ通其所轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ

但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉　勅旨布告候事

司法省上申 十四年十月二十日

開拓使管内函館支廳管内ノ縣ク裁判所設置ノ件ニ付テハ追々申奏致置候處今日ニ際シ假令該地ノ裁判事務當省ヘ可引受都合ニ相成候共内地ト共便否ヲ殊ニシテ輙ク裁判所開設ノ都合ニ難運到底刑法治罪法實施ノ期日ニ可差間ハ顯然ノ儀ト思考致シ候且先般沖繩縣ヘモ裁判區劃ノ儀取調方相達置未タ何等申出無之候ヘ共是亦治罪法實施ノ手續キニ於テハ開拓使同樣ト思料致シ候ニ付先以テ開拓使沖繩縣トモ裁判事務ノ儀左案ノ通御布告相成度此段申奏候也

司法省追申 十四年十一月二十五日

去月二十日付ヲ以テ開拓使幷沖繩縣管内裁判事務ノ儀及申奏候處今般沖繩縣令ヨリ該縣民事裁判控訴

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限

ハ郵便船ノ都合ヲ以テ大阪上等裁判所ニ屬セラレ有之候ヘ共明治十五年一月一日ヨリ新法實施相成候ニ付テハ長崎控訴裁判所ヘ屬セラレ度旨申出候依テ先般申奏ノ御布告案但書該縣ノ控訴ハ長崎控訴裁判所管轄ニ御改正相成候樣致度此段及追申候也 六日

別紙司法省申奏開拓使并ニ沖繩縣管内裁判事務ノ件及同省追申沖繩縣裁判事件控訴管轄ノ件審査スル處左ノ如シ

北海道并沖繩縣ノ即今俄ニ適法ノ裁判所ヲ設置スヘキ運ヒニ至ラサルハ申牒ニ具スルカ如シ依テ之カ布告アランコヲ要トス

右ニ由リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也 元老院檢査

布告 十四年十二月二十八日太政大臣三條實美署司法卿大木喬任副署 第八十三號

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

第一條　治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條　治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條　治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルヿヲ得ス

第四條　始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上并ニ第三條ニ揭ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條　始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

司法省上申 十四年十二月十四日

今般裁判所構成改正相成候ニ付テハ民事裁判所權限控訴上告手續及ヒ民事ニ關スル布告規則中民事裁判所ノ名稱等モ隨テ改正致サヽルヿニ候分別紙ノ通改正セラレ度御布告案相添此段及申奏候也

參事院議案 十四年十二月二十八日

別紙司法省申奏民事裁判所權限等ノ件審査スル處左ノ如シ

第一　布告案第一章第五條中三ケ月ノ控訴期限ヲ二ケ月ニ改タムル義ハ新法實施ニ關係無之ニ付目下改正ヲ要セサル可シ第一章第二條ハ過般上申致候趣モ有之當分ノ内刑事ハ控訴ヲ許サヽルヿニ御決定相成候得者刪除スヘカラス又第四章ハ治罪法施行ノ上ハ勿論消滅ニ歸スヘシ由テハ該布告案ハ御採用不相成方然ルヘシ

第三　布告案裁判所名稱ノ儀ハ本年第五十三號布告ノ趣モ有之別段布告ヲ要スル程ノ儀ニ無之ニ付御布達相成然ルヘシ

右ニ由リ布告布達案左ノ通ニテ可然哉上申候也 元老院檢査

司法省達 十五年一月二十三日 第十號 控訴裁判所始審裁判所

客年第八十三號布告ヲ以テ治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限相定メラレ候ニ付テハ治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ハ始審裁判所ニ於テ受理スヘキハ勿論ニ候處右布告ヲ知得サル前ニ於テ舊區裁判所若クハ治安裁判所ノ裁判ニシテ始審裁判所ニ控訴スヘキモノニ對シ控訴裁判所ニ控訴スル者ハ控訴裁判所ニ於テ之ヲ受理シ管轄裁判所ニ引繼クヘキ儀ト心得ヘシ此旨爲念相達候事

（參考）酒田始審裁判所ヨリ司法省ヘ伺 十五年一月日限

始審裁判所内ニ設立シタル治安裁判所ハ訴件ヲ審判セス勸解ノミ取扱可然哉至急御指揮ヲ乞フ

司法省指令 十五年一月四日

始審裁判所内ニ設立シタル治安裁判所ト雖モ百圓未滿ノ訴件ヲ審判スル儀ナリ

大垣治安裁判所ヨリ司法省ヘ伺 十五年一月四日

事務章程未タ御達シ無シ如何心得可然哉至急御指揮ヲ仰ク

司法省指令 十五年一月十一日

事務章程ハ未タ達シ無之ニ付昨年第八十三號布告ニ據リ事務取扱フヘシ

第二局議案 十五年一月六日

別紙大垣治安裁判所長伺面事務章程ノ儀ハ未タ御達無之候得共既ニ昨年第八十三號ヲ以テ民事ノ權限布告相成候ニ付左之通

司法省ヨリ治安裁判所ヘ達 十五年一月七日

其裁判所ヨリ本省ヘ差出ス書面ハ可成丈其管轄地ノ始審裁判所ヲ經由スヘシ此旨相達候事

司法省ヨリ始審裁判所ヘ達 十五年一月七日

治安裁判所事務章程ハ治安裁判所民事ノ權限ニ拘ラシム

十四年十二月布告第八十三號前ニ見ユ

治安裁判所ヨリ進達ノ書面故ル可キ丈管轄始審裁判所ヲ經由セシム

十四年十二月布達第二號ヲ以テ裁判所名稱改正心得方ヲ令ス裁判所ノ部ニ載ス

西郷以下十四所治安裁判所ニ於テ民事ノ訴訟ハ始審裁判所ノ權限ヲ以テ裁判ス

十四年十二月八日ノ申奏ハ布告第七十六號相用以下十四所始審裁判所廢止ノ布告ニ附ス裁判所ノ部ニ載ス

同月十四日ノ申奏ハ布告第八十三號治安并始審裁判所權限ノ件ニ附ス前ニ見ユ

治安裁判所ニ別紙ノ通相達候條此旨爲心得相達候事

司法省第二局議案十四年十二月二十八日

治安裁判所ハ其裁判權ニ於テハ固ヨリ獨立ノ儀ニ有之候ヘトモ共行政部分ニ屬スル事務ハ八繰ノ儀モ始審裁判所長ニ御委任ノ姿ニ相成會計上ノ取扱モ始審裁判所ノ會計ニテ取纏メ方御申奏中ニ付テハ該裁判所ヨリ本省ニ向ケ差出ス書面モ可成丈始審廳ヲ經由致スヘキ旨左案ノ通御達可相成哉若シ治安裁判所ヨリ直ニ本省ニ向ケ差出サセ候ニ於テハ司法卿ニ面述ヲ要スル件アリトテ出京伺出ルニ付テハ御裁可相成ヘキ迄ニモ相成且本省ト直接ニ關渉スルニ於テハ百八十箇所ノ治安裁判所ニシテ廳內治安ヲ除クモ猶百三箇所アリ其事件夥多ニシテ自然本省ノ事務モ相嵩ミ同一ノ事件各自ニ指令ヲ附スルノ手數不少之ヲシテ始審裁判所ヲ經由セシムルニ於テハ自ヲ始審裁判所長ニテ解說スル件モ有之本省ノ手數ヲ省キ備便ニ可相迎儀ト存候依テ御達案取調仰高裁候也

布告（十五年一月二十八日太政大臣三條實美署司法卿大木喬任副署）第五號

明治十四年十二月第八十三號ヲ以テ民事裁判權限ノ儀布告候處當分ノ內西郷相川豐岡洲本田邊脇町高山平戸福江嚴原天草大曲八戸大島治安裁判所ニ於テ民事ノ訴訟ハ始審裁判所ノ權限ヲ以テ裁判スヘシ

但請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ件ニ關スル控訴ハ管轄始審裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

右奉　勅旨布告候事

司法省上申十四年十二月二十二日

本年本月八日附ヲ以テ西郷治安裁判所外十三箇所刑事裁判權限ノ儀及申奏候處本月十四日付ヲ以テ民事裁判所權限ノ儀申奏致シ候ニ付テハ右御布告ノ上ハ前文ノ十四箇所治安裁判所中西郷嚴原等ハ從來支廳ノ名稱ナルヲ以テ地方裁判所ト同一ノ權限ヲ以テ裁判事務爲取扱有之此際治安裁判所ト爲シ民事裁判ノ權限ヲ短縮致シ候テハ人民ノ不便不少依テ刑事ト同樣始審裁判所ノ權限ヲ付與シ裁判爲致候ハヽ人民便宜ヲ得ル儀ト存候且其民事裁判ノ控訴ニ付請求金高百圓未滿ノ件ハ其管轄始審裁判所ヘ出訴ノ儀御布告相成候樣致シ度此段及申奏候也

參事院議案十五年一月十九日

別紙司法省申奏西郷治安裁判所外十三箇所ニ於テハ始審裁判所ノ權限ヲ以テ民事裁判ノ控訴ニ付請求金高百圓未滿ノ件ハ其管轄始審裁判所ヘ出訴儀布告案審査スル處左ノ如シ

西郷外十三箇所治安裁判所ノ如キハ概ヲ大洋中ノ孤島又ハ連山環繞ノ絕域ナレハ隨テ裁判事件モ僅少ナリ故ニ客歲第七十六號公布ヲ以テ裁判事件モ僅ヲ以テ該治安裁判所ニ於テハ始審裁判所ノ名稱ヲ削除セラレ而シテ更ニ第七十七號定メラレタルニ由リ民事裁判ノ如キモ亦該所ニ於テ其權限ヲ擴張セントスルハ事實不得已ニ出ルモノトス

右ニ由リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也

布告（十五年三月三日太政大臣三條實美署司法卿大木喬任副署）第十六號

樺戸集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉　勅旨布告候事

司法省伺十五年一月十一日

北海道集治監中ノ囚人又犯罪裁判ノ儀ニ付別紙ノ通內務省ヨリ照會有之實際不得止事情ニ付集治監書記ニ判事補檢事補兼任セシムヘク候ヘトモ其裁判所ノ管轄ヲ定メサレハ法律ニ觸ル場合不少依テハ該監囚人ノ犯罪ハ函館輕罪裁判所ノ管轄ト相定メ兼任ノ判事補檢事補ハ函館輕罪裁判所詰ヲ命シ置候樣致シ度御布告案相添此段及申奏候也

內務省ヨリ司法省ヘ協議十四年十二月二十七日

本年第七十號公達ヲ以テ開拓使管下石狩國樺戸郡ヘ集治監ヲ設置セラレ漸次押送シタル終身刑ノ囚徒計五百人ヲ本監ニ拘禁スルニ至ル就テハ其拘禁ノ囚徒中又犯罪スレハ之カ審判ヲ地方ノ裁判所ニ求メサル可カラス然ルニ本監ト札幌ト相距ル二十餘里其間榛莽叢生殆ト未タ道路開ケサルカ如キ不便極ルノ地ニ有之斯ル難路ヲ經テ札幌ニ在ル開拓使ノ裁判所ニ護送セサレハ他ニ審判ヲ求ムルノ途無之此ノ如クスレハ冗費ヲ來スノミナラス實際不便ノ事項尠カラス因テハ他日相當ノ裁判所設置セラレ候迄同監書記ノ內ヲ以テ判事補檢事補各二名兼任爲致候ヘハ至極便宜ト被存候御意見無之ハ右兩補官兼任セシムヘキ人名取調可申進ト存候此段及御協議候也

參事院議案十五年二月二十一日

別紙司法省伺北海道集治監囚人犯罪裁判ノ件審査スル處左ノ如シ

中牒ニ依レハ北海道集治監囚人犯罪裁判ノ者ハ該監書記ニ判事補ヲ兼任セシメ其裁判ヲ爲サシメントスルニ在リ右ハ伊豆諸島ノ裁判ニ於ケルカ如ク事實已ムヲ得サルニ出ルノ便法ナリトス而シテ其公布案ニ函館輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スト云々夫レ輕罪以下ハ司獄官吏ヲシテ裁判セシムルノ特別法ヲ示ストキハ輕罪裁判所ノ管轄ヲ定ムルヲ要セス其重罪ニ係ル處分ニ至テハ却テ明瞭ヲ闕ク且ツ該犯治罪ノ手續ハ便宜法ヲ用ヒシムルニ及ハスト認定ス

負ハシムルニ非サレハ實際行ハレ難ク司獄官吏ニ判事補檢事補ノ名稱ヲ

樺戸集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者司獄官吏ヲシテ裁判セシム

十八年十月布告第三十三號ヲ以テ札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ明ク

右ニ由リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也

北海道重罪裁判ノ區畫等心得方

十四年十二月布告第七十九號ハ北海道及沖繩縣裁判治罪ノ手續ナリ前ニ戴ス

十四年十二月布告第八十三號ハ治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限ナリ前ニ戴ス

十四年十二月布告ハ第七十八號ハ重罪裁判所管轄區畫ナリ裁判所ノ部ニ戴ス

函館控訴裁判所ヨリ司法省ヘ上申十五年三月八日

明治十四年第七十九號布告ハ其以前同年第五十三號布告ニ北海道函館始審裁判所管内ヲ除ク幷ニ沖繩縣ノ裁判區畫等定メソキヲ以テ特ニ其所轄ト處分トヲ示サレシ者ニテ重罪裁判區畫ハ別ニ明治十四年第七十八號布告ヲ以テ定メラレタルニ付右七十九號布告ニ關セス舊開拓使札幌根室本支廳所轄地方ノ重罪ハ函館重罪裁判所ニ於テ裁判スヘキ義ト信認致シ居候處右札幌根室本支廳所轄地方ノ重罪ハ開拓使ニ於テ裁判スヘキ旨御省ヘ照知濟ノ由ヲ以テ別紙甲號ノ通札幌開拓本廳刑法課ヨリ申通シ有之候ニ付當廳ヨリモ丁號ノ通申遣シ候處開拓使ニ於テ更ニ御省ヘ伺出タル處丙號之通御指令相成候ニ付念ノ爲メ乙號ノ通伺出タル處同使ト當廳トノ見込同シカラサレトモ右ノ次第ニテハ第七十八號ノ布告ニ違ヒ函館重罪裁判所ノ權限ニ侵蝕ヲ受ケ裁判ノ信用ヲ失ヒ共關係少ナカラサル義ニ相心得候條右開拓使著手中ノ重罪事件ハ當廳ニモ何等御達相成候義モ可有之トハ存シ候ヘトモ職權上一日モ難捨置殊ニ檢事長ノ立場ニ在リテハ差向キ相當ノ處置ヲ爲サヽルヲ得サル義ニ有之候條御詮議ノ向キニ依テハ電信ニテモ右開拓使著手中ナル重罪事件裁判ノ義御差止メ相成併テ當廳ヘモ何分ノ御達相成候樣致シ度候依テ此段及上申候也

司法省指令 十五年三月二十四日

書面舊開拓使札幌根室本支廳所轄ノ地方重罪裁判ノ區畫ハ其裁判所ノ管轄ニ屬スト雖モ明治十四年第七十九號公布ノ趣モ有之ニ付追テ何分ノ儀公布相成候迄ハ舊開拓使通牒面ノ通心得ヘシ

（甲號）

札幌本廳刑法課ヨリ函館控訴裁判所ヘ通牒十五年二月四日

明治十四年十二月二十八日第七十九號布告ヲ以テ本使及ヒ沖繩縣管内治罪ノ權限被相定候ニ付差向キ電信ニテ司法省ヘ照會別紙寫ノ通ニ有之ニ就テハ貴所ヘモ司法省ヨリ何分ノ御通達有之候儀トハ存候得共御通知旁此段申進候也

開拓使本廳刑法課ヨリ司法省ヘ伺十五年一月四日

十四年十二月二十八日第七十九號布告アリタル上ハ重罪ヲ當廳ニテ裁判シ其他治罪ノ手續キハ勿論追々布令アル諸規則等ノ如キモ便宜取計不苦コトトハ存シタレトモ電信ニテ大至急返事賴ム

司法省指令十五年一月十二日

（乙號）

十四年第七十九號布告ノ件ニ付御問合ノ趣ハ御見込ノ通

函館控訴裁判所ヨリ司法省ヘ伺十五年二月十五日

十四年第七十九號布告ニ北海道沖繩ナキ故ニ其所轄ト處分トヲ示サレシ者ニテ重罪裁判所區畫ハ別ニ第七十八號ニテ定マリタレハ札幌根室ハ函館重罪裁判所ノ管轄ト心得可然哉爲念伺フ

（丙號）

司法省指令十五年二月十八日

北海道重罪裁判所ノ區畫ハ伺之通

（丁號）

函館控訴裁判所ヨリ舊札幌本廳刑法課ヘ通牒十五年二月二十日

本月四日付書第一〇七號ヲ以テ重罪裁判ノ義ニ付本省ヘノ御往復文寫相添御申通シ相成致承知候右ニ付當廳ニ於テモ別紙甲印ノ通リ電信ヲ以テ本省ヘ伺出候處乙印ノ通指令相成候間爲御承知此段申進候也甲乙號ハ前ノ乙丙號ナリ

（戊號）

舊札幌本廳刑法課ヨリ函館控訴裁判所ヘ通牒十五年三月二日

重罪裁判ノ儀ニ付曩ニ書第一〇七號ヲ以テ申進候件ニ付仍ホ貴所ヨリ司法省ヘ伺濟寫相添第七號ヲ以テ御通知ノ趣致了承候然ルニ右司法省指令ノ趣ハ曩ニ當廳ヘ回答ノ旨トハ大ニ齟齬致候次第ニ付仍ホ別紙寫ノ通同省ヘ及照會候ニ付右回答有之迄ハ從前之通重罪裁判ヲモ當廳限取扱候外有之間敷ト存候ニ付爲念此段申進候也

舊札幌本廳刑法課ヨリ司法省ヘ上申十五年二月二十七日

昨年十二月第七十九號布告ノ義ニ付去ル一月四日附ヲ以テ重罪ヲモ當廳ニテ裁判シ可然哉電信ヲ以テ及御問合候處同一月十二日附ヲ以テ右見込ノ通ト御回答有之候ニ付其趣函館控訴裁判所ヘ通知候處同裁判所ニ於テ仍ホ別紙寫ノ通御省伺相濟候旨ヲ以テ今回申來候得共目今重罪ノ者公訴ニ係リ裁判著手中ノ分モ有之就テハ函館控訴裁判所ノ通知有之候共御省御回答候旨ヲ措キ右通知通リ取扱譯ニハ至兼候尤モ當廳ヘノ御回答ト函館控訴裁判所ヘノ御指令トハ大ニ齟齬致候ニ付右控訴裁判所ヘ御指令ノ精神ハ全ク重罪裁判ノ區畫ハ伺ノ通ト雖モ實際ノ取扱ハ當廳ヘ御回答ノ通トノ御旨意ト信認候ニ付若シ又同裁判所ヘ御指令ノ如ク御改議相成其義ニ候ハヽ何分ノ御通知相成候樣致度尤モ右御通知相成候迄ハ最前電信御回答之通リ重罪ヲモ當廳限リ裁判致可然儀ト存候此段申進候也

京都始審裁判所長請訓十五年三月二十五日

重罪裁判所事件公判相濟既ニ閉廳公告ノ後右事件上告及ヒ刑ノ執行ニ係ル諸事務幷ニ倍償追徵等ノ處分ハ某常置始審裁判所書記局ノ名義ヲ以テスル乎將タ共一期重罪ニ係ルモノハ重罪裁判所ノ名義ニ據ル乎疑義有之候條至急仰內訓候也

司法省內訓 十五年四月六日

重罪裁判所閉廳後某事務取扱方ノ義ニ付別紙請訓之趣ハ前段見込ノ通始審裁判所書記局ノ名義ヲ用ユ

重罪裁判所閉廳後ノ諸事務ハ始審廳書記局ノ名ヲ以テ處分ス

可キ事

札幌根室始審裁判所治罪ノ手續

布告 十五年六月二十日太政大臣三條實美署司法卿大木喬任副署 第三十號

十八年十月布告第三十三號ヲ以テ札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ明カシム

札幌根室ノ各始審裁判所ニ於テハ當分ノ内治罪ノ手續便宜取計且重罪犯ハ之ヲ審訊シ證憑擬律案ヲ具ヘ函館控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○司法省上申ハ十五年六月布告第二十九號重罪裁判管轄區畫中改正ノ條ニ附ス裁判所ノ部ニ載ス

沖繩縣管内重罪犯處分ノ手續

布告 十五年七月八日太政大臣三條實美署司法卿大木喬任副署 第三十三號

明治十四年十二月第七十八號ヲ以テ重罪裁判所管轄區畫布告候處沖繩縣管内重罪犯處分ノ儀ハ當分ノ内同縣ニ於テ審訊シ證憑擬律案ヲ具ヘ長崎控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘシ治罪ノ手續ハ便宜ノ取計ヲ爲スコトヲ得

右奉　勅旨布告候事

司法省上申十五年五月二十五日

沖繩縣重罪犯ノ義ハ明治十四年第七十八號布告ニヨリ鹿兒島重罪裁判所ニ於テ審判ス可キ義ニ候得トモ沖繩縣ノ如キハ海路遙隔セル絶島ニシテ實ニ囚徒護送ノ困難ヲ極メ從テ費用ヲ要スル少ナカラス去トテ亦彼地ニ重罪裁判長ヲ派遣スヘキ程ノ件數モ之レナク依テ本年三月十八日付ヲ以テ札幌根室兩縣重罪犯處分ノ義ニ付及申奏置候通沖繩縣ニ於テモ當分ノ内重罪事件審問ノ上證憑擬律案ヲ具ヘ長崎控訴裁判所ノ批可ヲ請ヒ宣告候樣被相定度別紙御布告案相添此段及申奏候也

別紙司法省申奏沖繩縣重罪犯處分ノ件審査スル處左ノ如シ

沖繩縣重罪犯處分ノ義ハ襲ニ允裁成リシ札幌根室兩縣ノ處分ニ於ルト同樣ノ事實ナルニ因リ其例ニ倣ヒ申奏ノ如ク裁可相成可然モノト視認ス

右ニ由リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也

空知集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者司獄官吏ヲシテ裁判セシム

布告 十五年八月十二日太政大臣三條實美署司法卿大木喬任副署 第四十一號

十八年十月布告第三十三號ヲ以テ札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ明ク

空知集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉　勅旨布告候事

司法省上申十五年六月八日

今般札幌縣下石狩國空知郡市來知村ヘ集治監設置ノ儀内務卿ヨリ申奏相成候趣就テハ該集治監ニ於テモ本年第十六號公布ノ如ク司獄官吏ヘ裁判權付與セラレ度旨内務卿ヨリ協議有之候處別ニ意見無之候因テ左ニ御布告案相添此段申奏候也

參事院議案十五年七月十一日

別紙司法省申奏空知集治監司獄官吏ヘ裁判權付與ノ件審査スル處左ノ如シ

札幌縣下石狩國空知集治監囚人ノ輕罪以下司獄官吏ニ於テ裁判セシムルノ儀ハ襲ニ允裁ナリシ樺戸集治監ニ同樣ノ事實ニ付本案申奏ノ通布告アランヿヲ要ス

右ニ由リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也

重罪裁判所開廳期限ヲ四期ニ分チ隨時開廷スルヲ得

司法省内訓 十六年一月十一日控訴裁判所長同檢事長始審裁判所長同檢事 第七十一號

重罪裁判所開廳ノ期限ハ是迄各地區々ニ渉リ現ニ豫審結了ノ被告人ト雖モ開廳期限ノ爲自然數日間滯監セシムル儀モ有之候處自今一年ヲ四期ニ分チ一月ヨリ三月迄ヲ第一期ノ開廳時間トシ隨時開廷シ第二期以下三箇月毎ニ分チ一月ヨリ三月迄ヲ第一期ノ開廳時間トシ隨時開廷スルヲ得ヘキ儀ト有之右ハ一月ヨリ三月迄ノ間ニ開廳期限ノ儀ト心得ヘシ此旨及内訓候事

但前期ノ審理後期ニ及フモ仍ホ前期ノ事件トシテ審判結了スヘシ

大阪控訴裁判所長請訓十六年七月十二日

重罪裁判所開廳期限ノ儀ニ付本年一月十一日第七一號ヲ以テ御内訓相成候處該御内訓書ニ自今一年ヲ四期ニ分チ一月ヨリ三月迄ヲ第一期ノ開廳時間トシ隨時開廷シ第二期以下三箇月毎ニ之ニ準シ開廳開廷スルヲ得ヘキ儀ト有之右ハ一月ヨリ三月迄ノ間重罪被告無之ニ依リ開廳セス四月ヨリ六月迄ノ間ニ始テ開廳スル時ハ第一期ニ係ラス第二期ト稱シ三期四期トモ之ニ準シ候儀ト存候得共或ハ只被告人滯監ノ患ナカラシムル爲メ開廳ノ時間ヲ御定メ相成候迄ニテ一月ヨリ三月迄ノ間重罪被告無之ヲ以テ開廳セス四月ヨリ六月迄ノ間始テ開廳スルトキハ第一期ト稱シ候儀ニモ候哉心得度儀有之候間至急何分ノ御内訓ヲ仰候也

司法省内訓十六年七月二十三日

重罪裁判所開廳名稱ノ儀ニ付別紙請訓ノ趣ハ書面前段見込ノ通此旨及内訓候事

始審本支廳治安廳廢置改稱ニ付所長及ヒ廳詰ノ區別

司法省達（職第二九號十六年一月十二日始審裁判所治安裁判所）

本月十日第二號布告始審裁判所幷治安裁判所ニシテ支廳ト改稱ノ裁判所其所長奏任官ナレハ支廳長其他ハ總テ支廳詰ト相心得又始審裁判所ヲ廢セラレ治安裁判所ノミ存在ノ裁判所ハ總テ其治安廳詰ト心得ヘシ此旨相達候事

福島始審裁判所ヨリ司法省ヘ伺十六年二月六日

本年第二號御布告ヲ以テ裁判所區畫御改定相成候ニ付テハ若松白河平ノ三始審裁判所ハ廢セラレ更ニ當廳ノ支廳ヲ被置候筋ニ相見エ候然レハ是迄右三始審裁判所ニ於テ採用相成居候雇員ノ儀ハ各其廳名ヲ以テ命シ之アル儀ニ付共ニ廢止セラレ候譯合ニ有之付テハ右雇員ノ儀ハ此際更ニ福島始審裁判所ノ名義ヲ以テ命スヘキ儀ト相心得可然哉此段相伺候也

司法省指令十六年二月十六日

伺ノ趣本年一月十二日職第二九號達ノ通可心得候事

司法省第一局議案十六年二月十四日

別紙福島始審裁判所長神崎判事伺ハ本年第二號御布告ニ依リ支廳ト改稱ノ廳ニ於テハ從前ノ雇員ヘ更ニ始審裁判所ノ名義ニテ雇命スヘキヤノ疑義ニ係ル右ハ本年一月十二日職第二九號ヲ以テ御達相成（別紙）（參照）居候ニ付左案ノ通御指令可相成哉仰高裁候也

重罪裁判所開廳場所等心得方

司法省内訓（十六年一月二十五日大審院控訴裁判所管轄廳府縣東京府ヲ除ク）

始審裁判所管内支廳ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク儀ニ付始審裁判所ヘ別紙ノ通及内訓候條爲心得此旨及内訓候事

司法省内訓（十六年一月二十五日始審裁判所在地訴訟裁判所ヲ除ク所）

支廳管内ニ起ル重罪事件ハ成ルヘク本廳ニ移シテ審判シ其被告人ノ送致其他ノ都合ニ據リ不得止支廳ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ始審裁判所長該廳ヘ出張審判スヘキ儀ト心得ヘシ此旨及内訓候事

大阪控訴裁判所長請訓十六年三月六日

松山始審裁判所高松支廳ニ於テ第一期重罪裁判所ヲ開同重罪裁判長ノ儀ニ付愛媛重罪裁判長ヨリ別紙ノ通申出候處本年第五八七號ノ御内訓ハ該重罪裁判長事故差支ノ場合代員ヲ命スルノ儀ニ有之然ルニ右申出ノ趣ニテハ現今愛媛重罪裁判所開廳事務取扱居候折柄猶又高松支廳ニ於テ重罪裁判相開候儀ニテ同時愛媛重罪裁判長兩名ニ相成隨テ一ノ重罪裁判所ヲ兩地ニ開候筋ニ相成不都合ト存候ヘ共一應何分ノ御指揮ヲ蒙リ度至急御内訓ヲ仰キ候也

司法省ヨリ大阪控訴裁判所長ヘ内訓十六年三月十五日

一ノ重罪裁判所ヲ同時兩地ニ開ク儀ニ付別紙請訓ノ趣ハ書面見込ノ通ニ候條成ヘク本年一月二十五日第三五二號内訓ノ旨趣ニ從ヒ本廳ヘ纏メテ之ヲ審判シ猶不得止支廳ニ於テ開廳スルヲ要スル節ハ前後何レカ便宜ニ據リ一方閉廳ノ後開廳スヘキ樣愛媛重罪裁判長ヘ相示スヘシ此旨及内訓候事

司法書記官ヨリ大審院控訴裁判所始審裁判所ヘ通牒十六年三月十五日

一ノ重罪裁判所ヲ同時兩地ニ開廳ノ件ニ關シ大阪控訴裁判所長ノ請訓ニ對シ別紙ノ通御内訓相成候條爲御心得此段及御通知候也

始審本支廳長及治安所長ハ裁判ノ適否ニ就キ責任ヲ免レサルヲ以テ各所長便宜協理セシム

司法省内訓（十六年二月二日始審裁判所治安裁判所）

始審裁判所本支廳長及ヒ治安裁判所長ハ其所轄内裁判ノ適否ニ付自ラ其責任ヲ免カレサル儀ニ候條民事刑事ヲ論セス重要ノ事件ハ成ヘク各所長ニ於テ便宜勘査協理スヘシ此旨及内訓候事

支廳長并治安裁判所長ハ其所轄内裁判ノ適否ニ付自ラ其責任ヲ免カレサル儀ニ候條民事刑事ヲ論セス重要ノ事件ハ成ヘク各所長ニ於テ便宜勘査協理スヘシ此旨及内訓候事

司法省内訓（十六年二月二日始審裁判所治安裁判所）

支廳長并治安裁判所長ハ總テノ事務上ニ付始審裁判所長ヨリ指揮アル時ハ其旨ニ從フヘキハ勿論ノ儀ト心得ヘシ此旨及内訓候事

支廳長并治安裁判所長ハ事務上始審所長ノ指揮アル時ハ其旨ニ從フモノトス

司法省内諭（十六年八月六日）

各始審廳管内ノ支廳ハ節易ヲ主トシ便宜ノ取扱ヲ爲サシム

木更津支廳　千葉始審裁判所長　同檢事
田邊支廳　和歌山始審裁判所長　同檢事
高山支廳　岐阜始審裁判所長　同檢事
赤間關支廳　山口始審裁判所長　同檢事

勸解略則

本年第二十號公布ヲ以テ其裁判所管內（茲ニ頭書ノ支廳名ヲ記入ス）支廳ヲ被置候處該廳ノ儀ハ人員ノ如キモ可成增員ヲ要セサル樣注意シ精々簡易ヲ主トシ自然人員ニ關係シテ法律上差支ヲ生スヘキ事件アル時ハ本廳ニ移サシムル等便宜ノ取扱ヲ爲サシメ不苦候條豫テ此旨趣厚ク心懸地方官ヘモ關係スル儀ハ夫々打合置不都合無之樣取計ヘシ此旨內諭候事

司法書記官通牒（十六年八月六日　某始審裁判所長同檢事）

本日第何號御內諭ノ旨趣ハ某支廳ノ開廳ハ精々簡易ヲ主トシ人員ノ如キモ可成省略セラルヘキ御內議ニ付事務上ニ於テモ豫審ヲ要スル件又ハ故障ノ判決ニ付會議局ヲ開クヘキ等ノ事件ハ本廳ヘ移サシムルノ便宜ニ從フヘキトノ旨趣ニ有之候條此旨長官ノ命ニ據リ及御通知置候也

平戸　福江支廳　長崎始審裁判所長　同檢事
大島支廳　鹿兒島始審裁判所長　同檢事
石卷支廳　仙臺始審裁判所長　同檢事
大曲支廳　秋田始審裁判所長　同檢事

司法省達（十七年六月二十四日　第二十三號　始審裁判所治安裁判所）

勸解略則左ノ通相定候條此旨相達候事

勸解略則

第一條　治安裁判所ニ勸解掛ヲ置キ專ラ訴訟事件ヲ勸解セシム

第二條　勸解掛ハ判事補二名ヲ以テ之ニ充ツヘシ
但治安裁判所長ハ隨時勸解掛トナリ勸解ヲ爲スコトヲ得

第三條　勸解掛ハ年齡三十以上ノ者ニ非レハ之ニ充ツルコトヲ得ス

第四條　第二條ノ人員ニ不足アル時又ハ其人員ニテ不足スル時ハ他ノ判事判事補又ハ出仕ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第五條　勸解ヲ爲スニハ勉テ願人被願人ノ實情ヲ得ルニ注意シ双方ヲ勸誘調和セシムルヲ主トスヘシ

第六條　勸解ノ手續ハ從前ノ通タルヘシ

司法卿ヨリ始審裁判所長ヘ內達（十七年六月二十六日）

今般丁第二十三號ヲ以テ勸解略則相達候ニ付テハ其施行方左ノ通心得ヘシ

勸解略則施行心得

第一項　略則第二條ノ勸解掛ハ現任ノ判事補中性質篤實ニシテ勸解ニ熟練セル者一名幷ニ第五項ノ手續ニ依リ任用セシ判事補一名ヲ以テ之ニ充ツヘシ
但未タ第五項ノ場合ニ至ラサル裁判所ニ於テハ其判事補ノ任用アル迄二名トモ現任ノ判事補ヲ以テ之ニ充テ置クヘシ

第二項　略則第三條ノ年齡ニ適スル判事補ナキ裁判所ニ限リ當分ノ內判事補中年長ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三項　勸解事件ノ寡少ニシテ二名ノ專掌勸解掛ヲ要セサル裁判所ニ於テハ第一項ノ判事補ヲシテ民刑事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得
但第五項ノ手續ニ依リ任用セシ者ハ此限ニアラス

第四項　略則第四條ノ勸解掛ハ現任ノ判事判事補又ハ出仕中ヨリ勸解ニ熟練セル者ヲ選ミ之ニ充ツヘシ
但判事ヲ以テ充ツル時ハ本省ノ認可ヲ受クヘシ

第五項　第一項ノ勸解掛中其一名ハ本省ヨリ特ニ選擧ヲ命スル時又ハ爾後判事補中ニ缺員ヲ生シタル時ニ於テ府知事縣令ト協議ノ上左ノ條件ニ適シタル者ヲ選ミ任用ヲ請フヘシ
一　年齡三十以上ノ者
二　性質篤實ニシテ相當ノ資產ヲ有シ在勤スヘキ治安裁判所又ハ其所屬始審裁判所ノ管內ニ住居シ德望アリテ風俗習慣ヲ熟知セシ者
三　故意ノ犯罪ニ由リ刑ヲ受ケタルコトナキ者

札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク

四　身代限ノ處分ヲ受ケサル者

右内達候事

司法省第一局第三局第九局議案十七年六月十八日

治安裁判所ヘ勘解掛設置ノ儀審案候處現在ノ治安裁判所百八十七廳ヘ盡ク一員ノ判事補ヲ增置スル時ハ一員ノ月俸四十圓ヲ以テ之ヲ算スルモ一年ノ支出ハ總計金八萬九千七百六十圓ノ額ニ上リ今日本省ノ定額中ヨリ一時ニ其支出ヲナスハ會計上甚タ困難ナルヘク故ニ先ツ勘解事件ノ多數ナル治安裁判所ノミニ之ヲ設置シ而シテ次第ニ全國ニ漸及スル方可然ト思考シ各廳勘解事件ノ多寡ヲ通觀スルニ始審裁判所々在地ニ在ル治安裁判所ハ事件概子多數ナルヲ以テ此中ニ就キ件數ノ一年一萬以上ニ及フモノヲ擇フニ其數二十一廳ニ過キサレハ此廳ノミニ勘解掛ヲ置ク時ハ其俸給ノ增額モ一萬〇〇八十圓ヲ以テ之ヲ支フ可ク其他ノ治安裁判所ハ廳中ニ欠員アルニ臨ミ漸次之ヲ補フニ於テハ更ニ俸給額ノ增加ヲ要セサルノ理ナルヲ以テ隨テ會計上ノ支障ヲ生セサルヘクト考量候ニ付左ノ通御達案ヲ草シ仰高裁

布告　第三十八號　十年十月二十二日　太政大臣三條實美署司法卿山田顯義副署

自今札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク但治罪ノ手續ハ當分ノ内便宜取計フヘシ

右奉　勅旨布告候事

司法省伺十八年七月二十二日

明治十五年第三拾號布告ヲ以テ札幌根室兩始審裁判所ニ於テハ當分ノ内重罪犯ハ證憑擬律案ヲ具ヘ函館控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘキ事ニ定メラレタル者ハ蓋シ重罪開廳ノ際控訴裁判所ヨリ之カ裁判長ヲ派遣セシムルニハ路程遠隔多期積雪等ノ困難アルカ爲メナル可シ故ニ明治十六年第三號布告ヲ以テ各始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ始審裁判所長ヲ以テ其裁判長ト爲スヲ得ルヿニ定メラレタル上ハ札幌根室兩始審裁判所ニ於テモ所長ヲ以テ重罪裁判長トナシ控訴裁判所ノ批可ヲ請ハス重罪犯ヲ處分セシメラルヽモ別ニ妨ケナカルヘシ然ルニ但書ヲ以テ沖繩縣札幌縣根室縣ノ義ハ從前ノ通タル可キ旨ヲ示サレタルヲ以テ尚ホ批可ヲ請ヒ處分致シ來リシカ其裁判所ノ構成權限他ノ始審裁判所ニ異ナラス沖繩縣下裁判事務ノ如ク牧民官カ攝行スル者トハ固ヨリ相同カラサルニ因リ今日ノ實際ニ由テ之ヲ觀ルモ別ニ批可ヲ請ハス他ノ始審裁判所ト同ク處分セシムルヿニ定メラルヽ方可然儀ト思量候ニ付別紙布告案ヲ草シ及中奏候條至急何分ノ御詮議相成度候也

別紙司法省中奏札幌根室兩始審裁判所ニ於テ開ク重罪裁判所ノ件審査スル處左ノ如シ

明治十五年第三十號布告ニ據リ札幌根室兩始審裁判所ニ於テハ當分ノ内重罪犯ハ證據擬律案ヲ具シ函館控訴裁判所ノ批可ヲ得テ宣告スル成規ノ處明治十六年第三號布告ヲ以テ各始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クトキハ始審裁判所長ヲ以テ其裁判長ト爲スヲ得ルコトニ定メラレタル上ハ右兩裁判所ニ於テモ之ニ準スヘキハ適當ノ義ニ有之候ニ付司法省上申布告案中不穩ノ文字ヲ修正シ其他上申ノ通リ裁可セラレ可然ト認定ス

右ニ由リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也

釧路集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ヲシテ裁判セシム

布告第十六號及第四十一號ハ樺戸空知兩集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者司獄官吏ニテ裁判セシムルノ件ナリ前ニ見ユ布告三十三號ハ裁判所ノ部ニ職ス

登記所ハ始審裁判所本廳ノ直管ニシテ其事務監督ノ權モ本廳長ニ屬ス

布告　第十八年十二月十七日　太政大臣三條實美署司法卿山田顯義副署　第四十二號

釧路集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

右奉　勅旨布告候事

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

司法省中奏十八年十一月四日

本年第五十二號ヲ以テ釧路集治監設置ノ儀御達相成候付テハ該監拘禁中ニ係ル囚徒ノ犯罪ニシテ輕罪以下ニ該ル者ハ該監囚獄官吏ニ於テ處分シ得ルノ權限ヲ與ヘラレ度キ旨今般内務卿ヨリ協議有之候右ハ實際ノ便宜ニ依リ不得止モノト思量候條明治十五年第十六號同第四十一號公布ノ例ニ依リ該處分權ヲ與ヘラレ度尤其地方重罪管轄ノ儀ハ今般第三十三號布告ヲ以テ御改正相成候ニ付別紙ノ通布告案起草致シ候此段及中奏候也

別紙司法卿中奏釧路集治監ヘ裁判權付與ノ件審査スルヿ左ノ如シ

根室縣下釧路國釧路集治監囚人ノ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判セシムルノ儀ハ明治十五年第十六號布告同年第四十一號布告樺戸空知兩集治監同樣ノ事實ニ付中奏ノ通裁可相成然ルヘシト視認ス

右ニ依リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也　元老院檢視

司法省訓令　二十年四月二十九日　民第六二一號裁判所

登記所ノ儀ハ始審裁判所本廳ノ直轄スル所ニシテ其事務監督ノ權ハ本廳長ノミニ屬スルモノナレハ明治十九年當省令丙第八號裁判所處務規程附則第四十二條ニ從ヒ支廳上席判事ニ於テ代理ヲ爲スノ限リニアラス依テ登記件數表其他登記所ヨリ差出ス質疑等モ始審裁判所本廳長ニ於テ之ヲ受クヘキモノト心得可シ

右訓令ス

司法省ヘ達　四年八月十八日

捕亡囚獄之事務自今總テ地方官ヘ被任候ニ付東京府ヘ可引渡事

東京府ヘ達　同日

聽訟斷獄事務自今總テ司法省ヘ被任候ニ付同省ヘ可引渡事

東京府ヘ達　同日

府中捕亡囚獄徒場之事務等自今總テ被任候事

但臨時捕亡罪囚出入行刑等司法省ノ指揮ヲ可受事

東京府達　四年八月二十九日　監々中添年寄共

當府聽訟斷獄之事務自今總テ司法省ヘ被任囚獄捕亡之儀ハ當府ヘ御委任相成候間其段可心得事

（參考）

捕亡事務ノ沿革ハ元年閏四月二十一日刑法官ニ捕亡司ヲ置キ二年七月八日刑部省ヲ置クニ及シテ捕亡司ヲ廢シ同年十一月五日逮部司ヲ置キ四年七月九日司法省ヲ置キ逮部司ヲ廢シ此ニ至リ捕亡事務ヲ地方官ニ屬ス蓋シ捕亡司逮部司ニ於テ逮捕ノ事ヲ管セシハ府下ニ止マリ其他ハ素ヨリ地方官吏ノ掌管スル所ナリ此後六年八月三日司法職務定制ヲ定メ捕亡ノ事務檢事ノ所轄ニ屬スト雖モ未タ之ヲ實際ニ施行セス六年ニ至リ裁判所ニ檢事ヲ派出シ始テ之ヲ掌管ス七年一月二十八日檢事職制司法警察規則ヲ改定シテ又地方官ニ屬ス猶捕亡ノ事ハ警察門司法警察ノ目ト參看スルヲ要ス

囚獄ノ事務ハ二年十二月二日刑部省ニ囚獄司ヲ置キ東京府ノ囚獄ヲ管ス各地方ハ亦地方官ノ管スル所此ニ至リ囚獄司ヲ廢シ囚獄事務ヲ東京府ニ屬ス但裁判所ニ屬スル監倉ハ司法省ノ所轄ニシテ九年二月三日ニ至リ內務省ニ屬ス猶囚獄ノ事ハ治罪門監獄ノ目ト參看スルヲ要ス

東京府ヘ達　四年十二月日闕

元刑部省付キ逮部ノ筋其府ノ管轄ニ相成居候處司法省ニ於テ罪囚ノ出入其他火急ニ指揮ス可キ事件有之其向ノ者一切無之テハ不便利ノ由ニ付捕亡手ノ內常ニ彼省ヘ交番致候樣可取計事

捕亡囚獄ノ事務ヲ地方官ニ委シ東京府聽訟斷獄ノ事務ヲ司法省ニ屬ス

五年九月二十五日大藏省ヘ指令ヲ以テ聽斷及未決囚事務ハ裁判所ニ囚獄幷既決捕亡事務ハ地方官ノ管掌トス

東京府ノ捕亡手ヲ司法省ニ交番セシム

但人員ノ多少ハ司法省ヘ可聞合事

司法省伺　四年十二月二日

捕亡ノ儀ハ地方官ノ職掌ト相成居候處當省ニ於テモ火急ニ指揮不致テハ時機ニ後レ候儀モ有之候間當ニ地方捕手ノ內交番ニシテ當省ヘ相詰候樣致度此旨東京府ヘ御達有之度別紙御達書草案相添此段相伺候也

指令

伺ノ通東京府ヘ相達候事

大藏省伺　五年九月七日

今般神奈川縣共外十一縣ヘ裁判所被置候ニ付テハ從前取扱候聽訟ノ一課ハ以來縣官擔任不相及儀可有之依テハ右事務幷場所等至ルマテ一切司法省派出ノ官員ヘ引渡分掌ノ官員ハ總テ免官申渡入用ノ分ハ更ニ同省ヨリ命レ換候手續ニ相運可然カ尤捕亡囚獄ノ分ハ打追縣官ニテ擔當イタシ所決濟ノ上入徒致シ候者驅役方幷ニ禁獄人取扱等ハ同省ノ所轄ニ相屬シ可然カ右職掌ノ區掛官員交代ノ都合ニ於テハ同省ヨリ相伺既ニ右邊判然御差圖ニモ相成居可申儀ト存候就テ現下縣官ヨリ伺出候向モ有之指令方差支候間當省ヘモ至急御達相成候樣イタシ度此段相伺候也

指令　五年九月二十五日

聽訟ノ儀ハ伺ノ通囚獄幷既決者捕亡等ハ地方官ニ於テ可取扱未決者ハ司法省ニ於テ所轄致シ候事

司法省回答　五年九月日闕

今般神奈川縣共外十一縣ヘ裁判所被置候ニ付テハ從前取扱候聽訟ノ一課ハ以來縣官擔任ニ不相及以下云々ノ段大藏省ヨリ伺出候旨ヲ以テ御下問ノ趣承知イタシ候當省官員諸縣ヘ派出相成候上ハ聽訟ノ一課ノミナラス斷獄トモ總テ裁判上ノ事務ハ縣官ヨリ引渡シ是マテ縣中分掌ノ官員ハ更ニ當省官員ニ命シ換ヘ候儀ハ勿論ノ事ニ御座候囚獄ノ儀ハ辛未八月中元刑部省中被置候囚獄司ハ被廢右事務總テ地方官ヘ被任候旨御達相成候節ヨリ東京府所轄ニ屬シ各地方ニ於テモ同樣ノ儀ニ御座候尤モ當三月中監獄則伺濟ノ通往々御施行相成候上ハ未決者既決者共監獄中一體ニ連帶致シ候モノニシテ既決中輕役ノ者ハ未決ノ病者藥餌及ヒ日給ノ食糧等炊烹其他諸般ノ事ニ使役シ以テ費用ヲ省クノ方法ニ有之候間未決既決トモ地方官ノ所轄ニ屬スヘキ筈ニ候ヘトモ目今ノ所監獄未タ御建造相成ラス候ニ付テハ未決者一時裁判上便利ノ爲メ司法ノ監倉ニ入置候分ハ司法ノ所轄ニ屬シ其他ハ既決同樣地方ノ所轄ニ有之候且又捕亡ノ儀ハ司法職務定制御達相成候第二十二條第三十四條ノ通檢事ノ所轄ニ有之候ヘトモ各地方一般ニ其體裁ニ相成候マテハ從前ノ振ニ據置不申候テハ捕亡ノ事務現地差支候間地方官ノ所轄ニ可有之候ヘトモ新治裁判所ヨリ司法省ヘ伺五年九月二日

聽斷及未決囚事務ハ裁判所囚獄幷既決捕亡事務ハ地方官ノ管掌トス

神奈川縣外十一縣裁判所ノ設置ハ裁判所ノ部ニ載ス

六年二月十九日捕亡事務ヲ裁判所ニ屬ス

九年二月四日監倉ヲ內務省管掌トナス

五年八月三日職務定制ヲ定ム

今般新治裁判所被置候ニ付テハ囚獄幷ニ死流徒杖笞等ノ行刑且捕亡進退之儀ハ從前ノ通リ於其縣取扱可申旨御達シ無之而ハ定額官員其外取扱向ニ付不都合有之趣尤之儀ニ相聞候間右之段改而當縣ヘ御達シ相成候樣致度候也

尚以司法職務定制之内地方官ニ於テ承知無之テハ差支ヘ候儀モ相見ヘ候間此類御取調ノ上前同樣至急御達シ方有之候樣致度也

御用狀御請當縣請取渡ノ儀モ今便認方間ニ合不申後便ニ可申上候

司法省ヨリ新治裁判所ヘ回答五年九月日闕

一今般裁判所被置候ニ付テハ囚獄幷死流杖笞等之行刑且捕亡等之儀從前之通取扱候樣地方官ヱ相達候半テハ彼是不都合有之候段御申越之趣致承知候右囚獄幷行刑等之儀ハ無論地方官ノ任ニ有之捕亡進退等ハ檢事ノ任ニ有之候得共未タ其官員出張無之中ハ是又從前之通地方官ニオイテ取扱候儀勿論ノ事ニ候間別段當省ヨリ相達ニ不及矢張其段貴殿ヨリ御通達有之可然候事

一司法職務定制中地方官ニオイテ承知無之テハ差支之儀モ相見候段御尤ノ事ニ候右ハ現今餘分無之ニ付追テ摺立次第製木ヲ以テ相渡可申候間夫迄ノ儀ハ不都合等無之樣其裁判所相渡居候ヲ以テ御示談有之度候事

一檢事檢部人選ノ義ニ付最前及御掛合候末名書ヲ以御申越ノ趣委細承知致シ候右ハ尙又可及評議候尤解部兼任之儀者素ヨリ不相叶事ニ候間左樣御承知有之度候事

右廉々御回答オヨヒ候也

追テ囚獄幷處刑等之儀ニ付當省ヨリ返答幷大藏省ヨリノ伺書寫シ相添御廻申候間右ヲ以テ地方官ヱ御談合可有之此段爲念申添候也

神奈川裁判所ヨリ司法省ヘ伺五年十一月十二日

當裁判所構内ニ有之候假牢一箇所是迄地方所管ノ儘ニシテ戸部町ニ有之囚獄ト等シク地方巡卒ヨリ看守致シ食料諸賄等モ都ヘテ地方官ニテ受持取計ヒ來候然ルニ各裁判所ノ監倉ハ檢事ノ所管ニ屬スト職務定制ニ有之儀ニ付何レニ裁判所内ノ假牢ハ地方官ノ手ヲ離レ裁判所ニテ受持不申テハ相成間敷依テ左之通見込相立候ニ付早々御評決有之候樣致シ度候也

但戸部町ノ囚獄ハ從前ノ儘地方ノ受持ニ致シ置候事

見込

一假牢　以來拘留所ト相唱候事

四人

番人

但一昼夜二人宛詰切

右者等外三等見坐新規ニ可申付候事

下小使　四人

但雇入

醫員　一人　一日一度必ズ出頭

右者等外三等ニ可申付事

司法省指令

一假牢之事監倉ト相唱可然候

一番人ノ事守卒ト轉シ等外三等ニテ可然候

一醫員ノ事御雇ニテ月金　圓ツヽ賜候テ可然候

司法省伺　六年二月十五日

今般伺定ノ上別紙十一縣裁判所ヱ檢事檢部派出爲致候間捕亡ノ事務等引渡シ候樣地方官ヱ至急御達シ相成度此段相伺候也

（別紙）

十一縣裁判所

群馬　埼玉　宇都宮　栃木　茨城　入間

新治　木更津　足柄　印幡　山梨

（此分取消シ相成候事）

司法省申立六年二月十九日

十一縣裁判所ヘ檢事檢部派出ニ付捕亡事務引渡候樣地方官ヘ御達和成度旨及御掛合候末捕亡吏假借ニテ差支有之間敷旨御談示有之候處右ノ通達和成度旨及御掛合候末捕亡事務ハ不引渡候共捕亡吏假借ニテ差支有之間敷旨御談示有之候處右ノ通ニテハ元來司法一省ノ權限ヲ以テ大藏省官員ヲ借用候譯ニテ共發縱指使ニ應セサルハ論ヲ�£ス此儀甚シキ差支ニ有之且先般東京府ヨリ訟獄事務受取候節捕亡事務共一切當省ヘ受取居候處何ヲ以テ外地方ニ限リ東京府ト各別ニ御處分有之候哉條理ニ於テ不貫徹ノ儀ト被存候仍テハ前文捕亡事務引渡方ノ儀至急ニ御達和成度此段猶又及御掛合候也（司法卿參朝口頭ニテ相決スト云フ）

（參考）

木更津裁判所ヨリ司法省ヘ屆六年三月三十日

今般檢事檢部出張相成候ニ付テハ木更津縣ヱ掛合ノ上同縣捕亡掛請所之儀當裁判所ヘ請取申候依之此段申上置候以上

司法省ヨリ大阪裁判所ヘ回答抄錄六年二月二十八日

警保頭出張遷卒受取方ノ儀ハ今般共取設ノ方法相立從前ノ體裁ト格別相替候ニ付夫々全備ノ上官員派出可致候先以此節ハ關八州裁判所ヘ捕亡事務受取方相決シ既ニ昨日檢事出張致シ候付追々官員ノ都合次第共地方ヘモ同樣ノ取扱可和成候

司法省ヨリ大阪裁判所ヘ照會六年三月十九日

右三名今般大阪府捕亡探索ノ事務受取方トシテ共表出張致候ニ付參著ノ上ハ萬端御打合宜敷御取計可

裁判所ニ檢事派出シ捕亡事務ヲ管ス

五年八月三日職務定制ニ依リ捕亡事務ヲ檢事ニ屬ス同月二十三日東京府ノ遷卒ヲ司法省ニ屬ス

有之候此段及御掛合候也
司法省ヨリ京都裁判所ヘ通牒六年三月十九日

權中檢事　澄川元環
權中檢部　多賀叢生

右兩名今般京都府捕亡探索ノ事務請取方トシテ其表出張致候ニ付參著ノ上ハ諸事御打合宜敷御取計可有之候此段及御掛合候也
京都府居六年四月八日

澄川權中檢事當地裁判所ヘ致出張候間從來當府捕亡探索ノ事務且其人員書類等悉皆可引渡旨右廳ヨリ掛合有之候付今八日引渡申候依之致御屆候也
兵庫裁判所ヨリ司法省ヘ上申六年四月五日

一本月二日上山少檢事到著ニ付即日兵庫縣ニ打合置昨四日從前ノ捕亡掛及附屬共別紙名前書ノ通當裁判所ニ出仕申付名義相改檢事局中逃部課ヲ取設夫々据付申候
一從前縣廳ニテ捕亡長并副長ト唱判任官四人有之右ハ囚獄徒場逃卒取締等兼務ニ付難引渡旨示談有之ニ付其分ハ引殘申候
一捕亡定額金モ悉皆可受取旨縣廳ニ引合示談行屆申候
一於縣廳捕亡吏附屬ト唱候者ハ總人員十六人有之候處笞杖取扱囚人送迎等ニ差支候趣ニ付十人丈引繼六人ハ殘シ置申候
一西宮區裁判所ヘハ逃部掛一人御用掛二人差向出張申付候猶此上事務上ニヲヒテ人員不足イタシ候得ハ委細取調候上猶相伺候樣可致此段申進候也
司法省伺六年十月二十五日

昨壬申七月當省伺定候職務定制中ニ有之通犯罪ノ探索捕亡ハ檢事ノ職權ニテ地方官ニ於テハ全ク部內施政上ノ探索取締ヲ爲ス而已ニ有之皆ト被存候依テ壬申十月來裁判所被置候地方ニ於テハ右事務一切受取扱來候處縣治條例中犯罪ノモノヲ逃捕スル事ト有之候ヨリ往々檢事ノ職ト地方ノ職ト共權限ヲ誤認シ或ハ相冒侵シ或ハ拮抗シ終ニ爭議ヲ生シ依テ目下ノ急務ヲ滯滯セシムルコト時ニ有之其障礙不少右警察規則ノ儀ハ既ニ伺中ニモ有之候ニ付詳細ノ儀ハ追テ御指令可相待候得共差向キ犯罪ノ探索捕亡ハ檢事ノ職務タル旨ヲ以テ縣治條例中右廉々御取消シ相成候樣裁判所被置縣々ヘ至急御達相成度此段相伺候也

四年十一月二十七日縣治條例ヲ定ム地方官制ニ載ス

檢事檢部裁判所ヘ出張ニ付心得方

安藤中檢事外一名伺六年二月十八日

今般地方捕亡探索吏等都テ出張檢事ヘ引受候上ハ左ノ通辭令書御渡シ相成可然哉
但月給ハ是迄通

捕亡　歟
探索　歟

一今般檢事檢部出張ニ付捕亡探索ノ事務管督致候條以來其指揮ヲ可受事　又ハ何々
明治ゝゝ　司法省

二一右引受候上ハ名義相改メ進退黜陟等ハ課長ニ御委任相成度事
三一同上引受候上ハ警察ノ事務モ兼勤致シ候儀ニ付出張ノ檢事檢部ヘ警視警部兼任被仰付可然哉
四一地方官ヨリ引受候捕亡探索吏ノ內ヨリ人選致シ兩三名ヅヽ出張檢事局ニ常詰申付可然哉
五一捕亡探索入費金其外臨時入用金有之節ハ其地裁判所ヨリ假請取致シ勘定ノ義ハ別紙案文ノ通其時々堅固ニ取計候テ可然哉
六一檢部而已出張ノ場所ハ檢事ノ職務當分ノ內兼勤可仰付哉
七一聽斷ノ事務モ不可忽儀候ヘ共當分ノ中探索捕亡ノ儀專務ニ可致哉
八一裁判所支廳有之場所ヘハ今般引受候探索捕亡吏ノ內可然人物兩三名爲相詰置折々檢事ノ內一人ヅヽ巡廻爲致可申哉
但シ一箇月三度位ノ見込尤臨時ノ儀ハ格別ノ事
九一各裁判所ノ監倉ハ檢事引受入費金裁判所出納課ヨリ仕拂爲致可然哉
右箇條ノ通御差支無之候ハヽ其筋ヘ至急御達方有之候樣致シ度此段相伺候也

司法省指令

一伺ノ通尤中檢事引揚ノ後ハ其人員ヲ增シ或ハ減シ候等ノ義ハ可伺出事
二評議中ニ付追テ可及差圖事
三無餘儀內用ノ外可成丈ケ地方捕亡備金ノ內ヲ請取可相用事
四兼勤トハ申付難シ當分代理可致事

附紙ノ他ハ伺ノ通

水野中檢事外三名伺六年三月

一此節檢事出張被命候儀ニテハ素ヨリ捕亡探索ノ事務ヲ專一ト可致候得共章程ニ比準シ自カラ檢事課ノ部ヲヽノ選舉ノ取計不取計シテハ事務取扱運方難出來相見込事（檢部ノ下恐ク脫字アリ）
一體裁ヲ成候樣可致儀ニ候哉
二但本文ノ通リニ候ヘハ出張先現地事務ノ繁簡ニ依リ人員增減ハ可有之候得共出張先ニ於テ急速ニ檢
一右檢部選舉ノ取計手續如何可致哉
三一捕亡探索事務受取候得ハ右定額ノ備金モ受取可申哉
但先方ニ於テ備金渡方不承知ノ節ハ捕亡給金諸入費モ先方ニ於テ渡方有之候樣打合可申哉
四一捕亡ノ者逃部課ニ申付可然哉
但右申付候ニ付テハ從前ノ月給ニ比照シ等外各等ニ申付候樣致シ度事
右ノ外ハ杉本安藤中檢事巡廻ノ節伺御付紙ノ通相心得可申哉ノ事

司法省指令

一上 伺ノ通

二下 見込ノ通リ可取計事

三 例ノ通リ可取計事

四 伺ノ通リ

伺ノ通リ

但シ等外各等ニ比照シ難キ薄給ノ者ハ御用掛リノ名目ヲ以テ使用イタスヘキ事

司法省達 六年四月十日 府縣裁判所長

各府縣裁判所出張檢事局分課今般別紙之通相定候間右ニ照準シ可取扱候此段相達候也

追テ人員不足ノ分ハ追々出張爲致候間此段申添候也

（別紙）

各府縣裁判所出張檢事局分課

檢事　一員

一一切ノ本務ヲ總攝ス

檢部　一員

一諸文書ヲ受付シ及庶務ヲ掌ル

檢部　二員

一罪犯ヲ探索捕亡スルヿヲ掌リ逮部出張所ヲ巡回シ逮部以下ノ勤怠ヲ監視ス

檢部　二員

一裁判所ニ出張シ裁判ノ當否ヲ監視ス

逮部或ハ御用掛リ　從五員至八員

一罪犯ヲ探索捕亡ス

檢事局逮部ノ等差ヲ定ム

區裁判所出張檢事局分課

檢部　二員

一裁判ノ當否及ヒ探索捕亡等ノ事務ヲ總提ス

逮部或ハ御用掛リ　從四員至七員

一職掌上ニ同シ

逮部出張所

逮部出張所ハ地方ノ廣狹便宜ニ因リ其管內ニ數個ヲ置キ事務ノ緩急ニ便ナラシム

檢部　一員

但シ少檢部權少檢部或ハ等外一等ノ內ニテ之ニ充ツ

一探索捕亡ヲ掌ル

逮部或ハ御用掛リ　從四員至七員

一職掌上ニ同シ

一凡檢事以下ノ人員ヲ預定スルト雖モ各地方事務ノ繁簡ニ循ヒ增減スルヿヲ得ヘシ

司法省達 六年四月十二日

逮部等差別紙之通決定相成候ニ付此段相達候也

一檢事局逮部ノ等差之ヲ四等ニ分ツ左ノ如シ

一等逮部課　月給十圓

二等逮部課　同　八圓

三等逮部課　同　七圓

四等逮部課　同　六圓

但進退黜陟ハ本省ノ決ヲ取ヘシ

一逮部ノ下ニ在テ探索捕亡ノ用ニ役スル者之ヲ四等ニ分ツ左ノ如シ

逮部課　一等附屬　月給五圓
逮部課　二等附屬　同四圓五十錢
逮部課　三等附屬　同三圓五十錢
逮部課　四等附屬　同二圓五十錢

但進退黜陟ハ長局長之ヲ專決シ後本省ニ屆出ヘシ

（參考）
木更津裁判所ヨリ司法省ヘ回答六年五月十二日
去月二十七日同二十九日本月二日轉免職取計候名前御屆申上候內逮部課ニ申付候者ノ儀ニ付御了解難被成逮部課ハ課目ニ有之云々御申越之趣委細致承知候右逮部課ハ等外出仕申付候上其課可申達旨等別段御達無之ニ付捕亡探索監督云々等之儀檢事局限リ達シ方取計居候處去月二十三日杉木中檢事ヨリ別紙戊印之書狀差越シ御本省ヨリモ已印ノ御達有之候ニ付同局ヘ打合右御達ノ逮部等差御決定ニ何等逮部課月何圓ト有之上ハ更ニ右ノ唱ヘ被設候儀ニモ可有之トノ衆議ヲ採リ何等逮部課ト相達候儀ニ御坐候然ル處今般ノ御達ニ而ハ等外何等出仕可申付儀ニテ逮部課ハ課目ニ有之候旨御申越有之就テハ逮部課相達置候モノ共更ニ等外出仕申付最前相達候儀ハ逮部課ノ等差ヲ相達シ候儀ト心得候樣相達シ可申哉別紙檢事局派出以來ノ取計順序書類御見合ニ差進申候右ニテ御承知否至急御報有之度候也

司法省ヨリ各地裁判所出張檢事ヘ達　六年四月二十日

中檢事引揚ノ後ハ等外吏員ノ增減等本省ヘ可伺出旨指令ニ及置候處當分ノ內權宜ヲ以御委任ニ相成候尤辭令等ハ一々裁判所長示談ノ上ニテ取扱ヒ追テ其段可屆出候事

足柄裁判所ヨリ司法省ヘ伺六年五月七日
先般逮部增減當分ノ內御委任相成候間諸事打合取計可申旨御達シ相成候ニ付テハ選任可仕哉左候得ハ別紙振合ヲ以辭令相渡共時々御屆申上可然哉至急御指令御座候樣仕度此段奉伺候也

（別紙）
辭令案

足柄裁判所檢事局等外何等出仕申付候事
年　月　日

何之誰
司法省

各裁判所檢事ニ等外吏員ノ進退ヲ委ス

司法省回答六年五月八日

逮部課等外員ノ義ハ御伺出ノ通當分御委任ノ義ニ付御選用ノ上如例御屆可相成詞令認方ノ儀ハ別紙雛形ニ照シ相認候樣致度此段及御報候也

辭令雛形

苗氏名

等外何等出仕申付候事
明治六年何月何日

司法省

逮部課　苗氏名

新治裁判所ヨリ司法省ヘ通牒六年九月三十日

別紙ノ通逮部課附申付相成候旨檢事局ヨリ申出候間即御廻シ申候此段申入候也

司法省ヨリ新治裁判所ヘ回答六年十月二日

伊藤長右衞門外二名逮部課附屬御申付ノ屆書御廻シ致承知候然ニ右詞令ノ達シ或ハ任解屆等ハ總テ裁判所長ニテ取扱檢事ニテ詞令等可相渡筋ニ無之候條爾後御心得迄兼而此段申入置候也

司法省沿革略誌抄錄　六年五月二十二日

裁判所設置ノ府縣捕亡吏ヲシテ本省ニ隸屬セシム

裁判所設置ノ府縣捕亡吏ヲシテ本省ニ隸屬セシム

各裁判所検事局ノ諸伺屆ハ本局ヲ經テ本省ヘ進達セシム

司法省達 六年八月二十七日 各検事局

各裁判所検事局ヨリ諸伺屆等差出方區々ニ相成不都合ニ候條以來都テ検事本局ヘ差出本局ニ於テ一々検印ノ上本省ヘ可差出候條此段爲心得相達候事

検事出張假規則

検事出張假規則 六年月日 殿

第一條　三府及ヒ開港場ヲ除キ各縣裁判所ニ其管轄内十萬石ニ一人宛ノ見積リヲ以テ検部ヲ置ク可シ
但シ十萬石ヨリ十五萬石ニ至ル迄ハ十萬石ノ例トス十五萬石以上二十萬石ニ至ル迄ハ二十萬石ノ例トス以下之ニ倣フ

第二條　縣裁判所ニ検職本局ヲ置キ各區裁判所ニ支局ヲ置ク可シ
但シ其支局ヨリ遠隔ノ地方從前取締所等ノ設アル所ハ検職臨時出張所ト爲スコトアル可シ
〔其支局又ハ取締所ノ設ケナキ所ハ凡十萬石ニ一ノ出張所ヲ設クルヲ限トス〕

第三條　凡ソ一萬石ニ逮部附屬二人宛ノ積ヲ以テ之ヲ置ク可シ但シ一萬石ノ地ヲ一部分トシ附屬ハ其部内ノ者ヨリ選擧シ平常其部内ニ在テ探索捕亡ノ事ヲ爲サシム

第四條　管轄内本局ノ直隷ノ部ト支局受持ノ部トヲ適宜ニ定ム可シ

第五條　本局
検事一人
本局ニ在テ其支局ヲ管攝ス其他掌ル所司法省職制ニ照ス可シ
検部五人
検事ノ指揮ニ從ヒ二人ヲ以テ本局ノ庶務ヲ掌ラシメ三人ヲ以テ其本務ヲ掌ラシム
逮部五人
探索捕亡ノ事ヲ爲サシム

第六條　支局幷臨時出張所
検部一人
支局ニ在テ逮部以下ヲ督視ス其他掌ル所司法省職制ニ照スヘシ
逮部二人
検部ノ指令ニ從ヒ探索捕亡ノ事ヲ爲ス

第七條　検職ヨリ召捕狀ヲ出ス時ハ左ノ文式ニ從フ可シ

召捕狀文式

召捕狀
住所職業
氏　名
右吟味ノ次第有之ニ付可召捕事
月　日　検職氏名印

第八條　逮部竝ニ逮部附屬犯人ヲ召捕ル爲メ助勢ヲ乞フ時ハ其召捕狀ヲ其地ノ戸長ニ示シ助勢人ヲ求可シ

第九條　現行ノ犯人ハ直チニ之ヲ捕縛シ又現行ニ非ル者ハ之ヲ検職ニ報告シテ其指令ヲ受ク可シ
但シ證據明確ナル時ハ臨機捕縛スルコトヲ得可シ

逮部及逮部附屬心得

一検事検部ノ命ニ循ヒ各地ニ派出シ罪犯ヲ探索捕亡スル事
一機密ノ事ハ勿論凡ソ職務ニ關シタルコトハ一家親戚ト雖モ必ス他言ス可カラサル事
一職務ニ關スル事ハ同僚互ニ告言見聞ヲ廣クシ事情ヲ盡クシテ探索捕亡ノ便ヲ得可キ事
一一切ノ指令ハ遺漏ナク簿帳ヘ記シ置キ又事務施行ノ件々ハ竝ニ之ヲ日記ニ載セ置キ便宜ニ循ヒ検職ノ一覽ヲ經可キ事

檢事探索捕亡ノ職限ヲ示ス

一受持ノ部分ハ地理及ヒ町名村名等ヲ兼テ詳知シ置可キ事
一盜賊亂暴人等ヲ捕縛スル時兇器ヲ持シ拒捕スルト雖モ成ル可キ丈ケ折傷セスシテ捕縛スルコトヲ要ス可キ事
　但シ止ムヲ得サル場合ニ於テハ適宜處分スルヲ得可シ
一聞込ノ事件ハ其情ヲ探リ證ヲ得テ之ヲ檢職ニ報告シ尤重大ノ事件ハ證ヲ得スト雖モ速ニ報知ス可キ事
一捕縛シタル犯人ハ其罪狀ヲ具書シテ犯人ト共ニ速カニ其部分受持ノ檢職ニ送致シ其指揮ヲ受ク可キ事
　但シ犯人ヲ支局ニ送致シタル時ハ其罪狀書ノ寫ヲ支局ヨリ本局ニ具送ス可シ
一犯人ヲ捕縛シタル時ハ戶長副戶長立會ノ上犯人ノ贓物及ヒ其他ノ物品ヲ取調ヘ之ヲ詳細ニ記シ贓物等ト共ニ其檢職ニ送致ス可キ事
一探索捕亡ノ爲メ出張スル時ハ總テノ費用ヲ詳記シ證書ヲ取置キ其精算ヲ立可キ事
一犯人他ノ部內ニ在ル時ハ互ニ協應シ追捕スヘキ事
　但シ同管轄中甲ノ部內ノ逮部附屬乙ノ部內ニ於テ犯人ヲ追捕シタル時ハ之ヲ甲ノ部內受持ノ檢職ヘ護送ス可キ事
一犯人ノ他管ニ在ルヲ追捕スル時ハ他管ノ逮部及ヒ逮部附屬之ニ叶應シ捕縛ノ上ハ必ス本管中其受持ノ檢職ニ護送ス可キ事

司法省檢事局上申六年八月二十四日
別紙ノ通各裁判所檢事局ヘ御布達有之度候也

司法省達 六年十一月日 甲第三十五號

探索捕亡ノ儀兼テ御裁可相成候當省職務定制中第二十二條第二款ニ揭載有之候通檢事ノ職ハ未發ヲ警察スルノ權ハ全ク無之現行犯罪及ヒ人民ノ告發報知ヲ待テ始メテ捕縛又ハ探索可致筈ニ候處往々無其儀未發ノモノヲ探索或ハ捕縛致候向モ有之哉ニ相聞候右樣ノ義有之候テハ職務上不都合ノ事ニ候條已來別テ嚴密注意シ職限不相踰樣可致此段更ニ相達候事

諸縣裁判所出張檢事局捕亡課假規則

諸縣裁判所出張檢事局捕亡課假規則 六年月日調

檢事章程改正ニ付司法警察事務ヲ府縣ニ引渡方

○檢事ハ當ニ本局ニアツテ當職ノ事務ヲ總管指揮スヘシ本局ノ人員事ノ繁閑ニヨツテ增減アリト雖凡

檢事		一人
檢部		四人
內一人	庶務ヲ掌ル	
二人	本局捕亡ノ事ヲ擔當シ且諸屯所ヲ巡廻シテ正邪勤怠ヲ戒ム	
一人	裁判當否ヲ鑒スルコトヲ擔當ス	
捕亡或ハ御用掛リ		八九人

○區裁判所檢部捕亡ヲ配置スヘシ其人員凡

檢部		二人
裁判當否捕亡事務ヲ掌ラシムヘシ		
捕亡或御用掛リ		六七人

○各所其管內ヘ數箇ノ捕亡出張所ヲ設ケ寬急事ニ辨ナラシムヘシ其人員凡

捕亡出張所		
檢部	十四五等ヨリ等外一等マテ	一人
捕亡或ハ御用掛		六七人

○區裁判所竝捕亡屯所常務ノ外總テ本局檢事ノ指令ヲ受クヘシ本局檢事ハ其權限ヲ越ユヘカラス配置ノ人員繁閑ニ仍テ增減アルヘシ

橡木裁判所檢事局ヨリ司法省ヘ伺七年二月二十八日
今般檢事章程御改正司法警察ノ職務行政警察ニテ兼務致シ候儀ニ付縣令ヘ掛合ニ及ヒ候處諸檢事出張

所幷ニ附屬ノ官吏共悉皆引渡呉候様申來愈引繼候節ハ司法警察行政警察共引繼候出張所ニ於テ取扱候由然ルトキハ司法警察ノ事務モ是迄通ニテ更ニ差支候儀無之見込ニ付出張所其外共別紙ノ通縣廳ヘ交付シ御改正章程通事務取扱仕度此段奉伺候也

追テ縣廳ニテモ至急引繼呉候様申開且又逮部幷附屬共御改正ニ付縣廳ヘ引繼ニ相成候哉又ハ御廢止ニ相成候事哉疑惑モ不尠候間却テ至急交付シ章程ノ通取扱候方事務延滯無之事ト見込候間至急御指令被下度候也

（別紙）

天明出張所
宇都宮出張所
真岡出張所
小山出張所
今市出張所

但シ司法警察ニ關渉ノ書類幷諸道具共以下略之

開市場裁判所ニ警視廳官吏出張ニ付同所檢事ヲ召還ス

檢事職制改正ニ付其事務ヲ地方官ニ交付方

樣木裁判所ヨリ司法省ヘ照會七年三月二十五日

今般檢事章程御改正司法行政警察兼務云々ニ付別紙寫ノ通リ檢事局ヨリ相伺御指圖ニ相成候處下ケ札ハ宇都宮出張所耳ニ關リ候儀ニ付同所ト認候靡ヘ貼付可致ヲ誤テ前件ノ通リ相成趣就テハ其他出張所ノ諸道具ハ共儘不引渡相當ノ代價地方官ヨリ取立候方當然ナル可キ旨當出納課ヨリ申立候ニ付猶檢事局トモ相議候處此度右場所縣廳ヘ引渡ト雖トモ其官吏ハ司法警察ヲモ相兼候義ニテ全ク檢事ノ方手放レ候譯ニモ無之旁檢事前議ノ如ク矢張其儘引渡候方可然ト存候得共顯然下ケ紙ノ廉相違モ有之候ニ付爲念申上候間若御異存モ有之候ハヽ承知致度此段申進候也

司法省指令

其儘引渡可申事

司法省ヨリ開市場裁判所檢事局ヘ達 七年四月二日

今般警視廳官吏其裁判所ヘ出張候ニ付出張次第事務引渡歸局可致此旨相達候事

大阪府ヘ達 七年五月四日

檢事職制章程改正候ニ付テハ其地裁判所ヨリ檢事事務速ニ可受取此旨相達候事

司法省伺七年四月二十日

檢事職制章程御改正相成候ニ付テハ右事務速ニ地方官江可引渡候處大阪府ニ於テハ右入費金額等之儀ニテ內務省ヘ伺出之廉有之旨ヲ以テ引受無之去リトテ其儘廢閑候而ハ上下之爲メ差支可有之ト存無止先般京都府同事件ニ付致上申候振合ヲ以一時從前之通取扱居候得共最早時日頗ル遷延ニ及ヒ不都合ニ有之本月ヲ限リ府廳江可引渡旨同裁判所檢事江可相達候間無異儀引受候樣同府江御達相成度此段相伺候也

指令七年五月四日

伺之趣別紙之通大阪府ヘ相達候事

司法省ヨリ大阪裁判所ヘ通牒七年五月五日

檢事々務引渡ノ儀ニ付伺ノ末別紙ノ通大阪府ヘ御達ニ相成候段御沙汰ニ候條速ニ事務御引渡可有之此段申入候也

司法省達 七年七月二日 甲第十一號 各裁判所長

今般別紙ノ通檢事局ヘ相達候條此旨可相心得候事

司法省達 七年七月二日 檢事局

各裁判所派出ノ檢官兼テ相達置候儀モ候處今後諸警察上ニ渉ルノ公文ハ所長ヲ經ス直チニ往復致シ不苦候條此旨可相達候事

但諸省使察ニ往復スル者ハ本局ヲ經由シ本省ニ可差出事

各裁判所檢事警察上ニ渉ル公文ハ所長ヲ經ス直ニ往復セシム

司法省ヨリ檢事局ヘ達 七年七月三十一日

各府縣裁判所派出檢事定員別紙之通相定候條此旨相達候事

但配賦進退等之儀ハ其時々可伺出事

檢事局ヨリ本省ヘ上申七年七月八日

各府縣裁判所派出ノ檢事等級定則無之ヨリ往々差支筋有之依テ今般別紙ノ通凡定則相立將來右ヲ目標トシ配賦進退候樣仕度尤即今直ニ實際施行難相成事情モ可有之候條漸次定規ニ引直候樣仕度依テ別紙見込書相添此段具申仕候也

各府縣裁判所派出檢事定員

府

本局詰
奏任
正權少檢事　一員
一等出仕　一員
十一等出仕　一員
十三等出仕　一員
十四等出仕　一員
十五等出仕　一員
但東京府ハ此限ニ非ス
支局詰
十等出仕　一員
十四等出仕　一員
縣
本局詰
奏任
正權少檢事　一員
十二等出仕　一員
十五等出仕　一員
但支局設置ノ地ハ十五等一員ヲ減ス
支局詰
十等出仕　一員
十五等出仕　一員
但開港場アル縣ハ定額府ニ同シ

司法警察事務ヲ姑ク使府縣ニ委ス

七年一月達第十四號ヲ以テ檢事職制章程司法警察規則ヲ改ム
八年一月達第九號參看
十三年九月達第四十六號ヲ以テ檢事ヲ派シ地方官ニ委任ノ警察事務ヲ管セシム

達　七年十月三日（警察門司法警察ヲ府縣ニ委任ス）
第百三十二號　開拓使　府縣

司法警察事務當分使府縣ヘ委任可致旨別紙之通司法省ヘ相達候條此旨可相心得事

（別紙）

御詮議ノ次第有之候條司法警察事務當分使府縣ヘ委任可致此旨相達候事
但其省章程中ニ抵觸候分ハ施行不致儀ニ候事

司法省上申　七年九月二日

司法省

檢事派出ヲ廢スルニ依リ吟味願罪犯受取方等斷獄課コレヲ處理ス

時宜ニ依リ司法省檢事局ヨリ直ニ派出地方警察官吏ヲ指揮セシム

八年五月十日檢事章程ヲ定ム

檢事派出マテ府縣ニ於テ重大ノ罪犯及國事犯等取計方

九年九月布告第百十四號ヲ以テ府縣裁判所ヲ改メ地方裁判所ヲ置ク
十三年九月達第四十六號ヲ以テ各地ニ檢事ヲ派遣ス

東京裁判所ニ檢事派出シ事務ヲ執行ス

去ル明治六年司法職制被定續テ檢事章程御渡ニ相成右章程ニ準據シ夫々施行致候所動モスレハ地方官ト論議ヲ起シ其間事實障碍ヲ生シ候儀モ有之畢竟法律全備セサルヨリ右等ノ不都合ヲ招キ候次第ニ付依テ當分ノ所地方出張ノ檢事ヲ止メ司法警察ノ事務地方官ヘ委任致度此段御評決ノ上其旨本省ヘ御達有之度候也

司法省達　七年十月四日
各府縣裁判所

今般派出檢事相止候ニ付而者是迄檢事局ヘ差出來リ候吟味願又者罪犯受取方等總而斷獄課ニ而取扱可申事

樣木裁判所ヨリ司法省ヘ屆　七年十月八日

今般司法警察事務當分使府縣ヘ御委任相成裁判所檢事局被相止候趣云々御達ニ付本日同局事務幷書類等一切當廳ヘ引繼受候條此段御屆申上候也

達　八年一月十五日（警察門司法警察ヲ府縣ニ委ス）
第九號　使廳府縣

司法警察事務當分使府縣ヘ委任候旨明治七年十月第百三十二號ヲ以テ相達置候處罪犯ノ都合ニヨリ司法省檢事局ヨリ直チニ派出地方警察官吏ヘ致指揮候儀モ可有之候條不都合無之樣可取計此旨爲心得相達候事

司法省達　八年十月十日
達第三十三號　府縣

本年第九號ヲ以テ罪犯ノ都合ニヨリ司法省檢事局ヨリ直チニ派出云々御達ノ旨モ候處先般章程御改正ニ付テハ以來右等ノ節ハ當省ヨリ檢事ヲ派出爲致候儀ト可相心得此段更ニ相達候事

司法省達　八年十月二十七日
達第三十五號　府縣

檢事派出候迄ハ重大ノ罪犯（兇徒聚衆及ヒ國事犯及ヒ內外交涉ノ重犯有之時檢事章程第六條ニ因リ取計ヒ候ハ勿論ニ候得共其節上等裁判所檢事ヘモ報告可致此旨相達候事

司法省屆　八年十一月十九日

今般東京裁判所ヘ檢事致派出來ル二十二日ヨリ右事務爲取扱申候此段致上申候也

司法省ヨリ東京裁判所ヘ達 八年十一月十九日

其裁判所ヘ檢事派出ノ儀過日相達置候處來ル二十二日ヨリ右事務取扱候條爲心得此段相達候事

司法省ヨリ警視廳ヘ達 八年十一月十九日

今般東京裁判所ヘ檢事ヲ派出シ來ル二十二日ヨリ右事務爲取扱候條此旨相達候事

司法省達 八年十二月十九日 達第四十四號裁判所ヲ置サル各縣

先般司法警察事務當分地方官ヘ御委任相成迫而無檢事ノ地方ハ警察官之ニ代ルヲ得ノ旨公布モ有之候上ハ地方警察官ハ直チニ檢事ノ務ヲ行フ者ト相心得事務可取扱此旨相達候事

司法省伺 八年十一月二十五日

司法警察事務當分地方官ヘ御委任相成ル旨昨年十月御達有之追テ本年五月ヲ以テ控訴上告手續被相定刑事上告檢事ナキノ地方ハ警察官之ニ代ルヲ得ルノ旨公布相成候右前後御達ノ趣ニテハ地方警察官ハ直チニ檢事ノ勤ヲ行フ者ト見做シ勿論ノ儀ト存候ヘ共爲念相伺候至急御差圖ヲ奉仰候也

伺ノ通

法制局議案 八年十二月三日

別紙司法省伺地方警察官ノ儀調査候處無論ノ儀ト存候ニ付左ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也

司法丞ヨリ各縣ヘ通牒 八年十二月十九日

司法警察事務當分地方官ヘ御委任相成ル旨昨年十月御達相成追而本年五月控訴上告手續被相定刑事上告檢事ナキノ地方ハ警察官之ニ代ルヲ得ルノ旨公布相成候ニ付地方警察官吏ハ直チニ檢事ノ事務ヲ行フモノト見做スヘキ哉ノ旨相伺今般伺之通御指令相成候ニ付別紙達第四十四號達相成候儀ニ有之候仍テ右ニ矛盾スル從前指令等ハ總テ取消候儀ト御心得有之度此段及御通達候也

司法省達 九年一月二十二日 第十一號 各裁判所各府縣

昨八年當省達第四十四號ヲ以裁判所ヲ置サル各縣ヘ相達置候儀モ候處裁判所有之府縣ト雖モ迫テ檢事派出候迄ハ一般同斷ニ可相心得此旨更ニ相達候事

司法省ヨリ開拓使ヘ通達 九年二月十日 甲第十四號

司法警察事務之儀ニ付昨八年達第四十四號ヲ以テ別紙ノ通相達候條其御使於テモ同樣御心得可有之此段及御達候也

追而本文及御達候ニ付テハ第百八十一號ヲ以御照會之趣別段御回答不及候也

開拓使ヨリ司法省ヘ問合 九年二月八日

警察官心得方ノ義昨八年御省四十四號ヲ以テ裁判所不置府縣ヘ御達相成候趣同年十二月十九日附ヲ以テ右達書爲心得被差廻候處當使管內ニモ函館裁判所所轄外ノ地方有之候ニ付別段御達可有之義ト存候條否御報答有之度此段及御問合候也

司法省ヨリ東京裁判所檢事局ヘ達 九年二月八日

新聞紙檢閲方之儀是迄本省檢務課ニ於テ取扱來候處自今其局於テ檢閲致シ律例犯觸之者檢舉候ハヽ其節々直ニ可申出此旨相達候事

司法省ヨリ大阪長崎裁判所檢事局ヘ達 九年二月十二日

今般大阪長崎裁判所ニ檢事局ヲ置候間其局ヨリ兼務右事務可取扱候條此旨相達候事 大阪長崎上等裁判所及大阪長崎裁判所ヘ心得達アリ省ク

司法省ヨリ大阪府長崎縣ヘ達 九年二月十二日

今般其地方裁判所ニ檢事局ヲ置其上等裁判所同局官員兼務候ニ付此旨相心得右之趣管下ニ布達方可取計候條此旨相達候事

司法省ヨリ大阪府長崎ヘ達 九年三月八日

今般其府裁判所ヘ檢事局差置不日派出可相成付テハ右開局當日迄ハ從前ノ通警察課ニ於テ右事務取扱候樣可致此旨相達候事

司法省ヨリ長崎裁判所ヘ達 九年三月十二日

檢事不在ノ地方ハ警察官直ニ檢事ノ職務ヲ執行ス

司法警察事務ヲ地方官ニ委セシハ七年十月第百三十二號達アリ前ニ戚ス檢事無キノ地方ハ警察官之ニ代ルヲ得ハ八年五月布告第九十三號控訴上告手續第二十九條ニ見ユ治罪法刑事諸則ニ戚ス十三年九月達第四十六號ヲ以テ警察事務ヲ檢事ニ屬ス

裁判所設置ノ府縣モ檢事派出マテハ警察官直ニ檢事ノ職務ヲ執行ス十三年九月達第四十六號ヲ以テ漸次各地ニ檢事ヲ置ク

檢務課所管ノ新聞紙檢閲ヲ東京裁判所檢事局ニ屬ス

大阪長崎兩裁判所ニ檢事局ヲ置ク十三年十二月十七日司法省達ヲ以テ兼務ヲ解ク

今般其裁判所ヘ檢事局相設上等裁判所詰檢事ヨリ兼務候ニ付テハ廳内ニ於テ便宜別席假設候樣可取計此段相達候事

司法省ヨリ長崎裁判所出張錄ヘ達　九年三月十二日

今般其裁判所ヘ檢事局相設上等裁判所詰檢事ヨリ兼務候ニ付テハ同局ニ備フヘキ一切物品其他局務ニ關スル經費ハ以來其課ヨリ支給候樣可取計此段相達候事

司法省ヨリ長崎上等裁判所長崎裁判所ヘ達　九年三月十二日

今般長崎裁判所ヘ檢事局相設同所上等裁判所詰檢事ヨリ兼務候ニ付テハ以來同局ニ於テ內外交涉事件等ニテ譯官ヲ要スル儀モ有之候節ハ其兩裁判所現員之內ヲ以テ隨時其求メニ應シ局務不差閊樣可取計此段相達候事

司法省ヨリ大阪裁判所ヘ達　九年三月十四日

今般其裁判所ヘ檢事局相設上等裁判所詰檢事ヨリ兼務候ニ付テハ其裁判所區域內ヘ本局幷取調所等差向其廳內ニ於テ便宜別席假設候樣協議可取計此段相達候事

司法省ヨリ大阪裁判所出張錄ヘ達　九年三月十四日

今般其裁判所ヘ檢事局相設上等裁判所詰檢事ヨリ兼務候ニ付テハ同局ニ備フヘキ一切物品其他局務ニ關スル經費ハ以來其課ヨリ支給候樣可取計此段相達候事

司法省ヨリ大阪上等裁判所大阪裁判所ヘ達　九年三月十四日

今般大阪裁判所ヘ檢事局相設同所上等裁判所詰檢事ヨリ兼務候ニ付テハ以來同局ニ於テ內外交涉事件等ニテ譯官ヲ要スル儀モ有之候節ハ其兩裁判所現員ノ內ヲ以テ隨時其求メニ應シ局務不差閊樣可取計此段相達候事

司法省ヨリ長崎裁判所ヘ達　九年三月十二日

長崎上等裁判所詰杉本中檢事共裁判所檢事兼務候ニ付左ノ通伺出朱書ノ通指令ニ及置候條爲心得此旨相達候事

長崎上等裁判所詰杉本中檢事伺

等外吏三名小使二名給仕二名ヲ限リ局務ノ繁閑ニ依テ增減シ一時檢事局ニテ申付置其旨本省ヘ御屆迄ニテ可然哉

指令　九年三月十日

等外吏ハ申立ノ通小使以下ハ在勤錄ノ協議ニ及フヘキ事

大阪裁判所長ヨリ司法省ヘ上申　九年三月二十九日

今般當裁判所ヘ檢事局被設上等裁判所詰檢事ヨリ兼務候ニ付テハ云々當廳內ニ於テ便宜別席假設候樣可及協議旨本月十四日附ヲ以御達相成則橋口中檢事等及協議候處何分狹隘ニテ頗ル混雜致シ候得共差懸ル儀ニ付當分ノ中如何樣共操合セ候事ニ申談候得共到底御建增不相成テハ顯然差支候儀ニ付追テ取調相伺可申此段前以及上申置候也

司法省檢務課ヨリ本省ヘ伺　九年三月三日

地方警察官檢事ノ務ヲ行フニ付テハ左ノ三條何レニ據リ可然哉御評決被下度

一警察官ハ常ニ裁判所エ相詰メ檢事ノ務ヲ行ヒ候儀ニ候哉果シテ然ラハ裁判所內ニ於テ別段警察官ノ詰所幷ニ罪犯取調所ヲ設ケ候儀ニ候哉且又右ニ付營繕入費其外硯墨紙筆机椅子等共總テ裁判所定額金ノ仕拂ニ相立可然哉

一警察官ハ地方廳ヨリ時ニ裁判所ヘ出頭シテ檢事ノ務ヲ行ヒ候儀ニ候哉然ル時ハ入費ハ總テ地方廳ヨリ支給ニ相成可然哉

一前兩條ハ各地方ノ適宜ニ因リ或ハ裁判所內ニ於テ別段警察官ノ詰所幷ニ罪犯取調所ヲ設ケ或ハ地方廳ヨリ時々裁判所ヘ出頭シ可然哉

司法省指令

警察事務地方官エ御委任ニ候上ハ其平常裁判所ニ相詰メ候モ又ハ隨時裁判所ニ出頭スルモ地方官ノ都合ニ可有之且右ニ係ル入費ハ勿論地方廳ノ支給タル可シ

司法省達　九年三月二十四日　達第三十四號　裁判所ヲ置サル各縣

地方官ニ於テ檢事ヶ務可取扱旨昨明治八年十二月中相達置候處判事兼任之向ハ檢事ノ職務ヲ擧行セサル儀ト可相心得候條此旨相達候事

司法省伺　八年十二月十七日

先般司法警察事務地方官ヘ御委任相成追テ上告手續ニ檢事ナキノ地方ハ警察官之ニ代ルヲ得ルノ旨公布有之右前後御達ノ趣ニテハ地方警察官ハ直チニ檢事ノ務ヲ行フ者ト見做可然哉ノ段過ル十一月二十

地方警察官檢事ノ務ヲ行フニ當リ裁判所ニ常候シ或ハ臨時出張スル其便宜ニ任ス

地方官判事ヲ兼任スル者ハ檢事ノ職務ヲ行ハス

九年九月布告第百十四號ヲ以テ府縣裁判所ヲ改メ地方裁判所ヲ置ク裁判所ノ部ニ屬ス

九年一月司法省達第四十七號ヲ以テ糾問判事職務假規則ヲ定ム職制ノ部ニ載ス

宮城裁判所ニ檢事局ヲ置ク

十三年十二月十七日司法省達ヲ以テ廢務ヲ解ク

五日相伺候處伺ノ通御指令相成候ニ付テハ尚熟慮候處方今人民未タ開明ノ域ニ至ラス所謂法律ノ何物タルヲ知ラス問マ寃枉アルモ告ル所ヲ知ラサル者比々皆是ナリ加之法律未タ全ク備ハラス裁判官ト雖トモ其裁判ノ一々當ヲ失ハサルハ固ヨリ亦保チ難シ況ンヤ今章程上ニ在テ事ノ疑難アルヲ以テ裁判ヲ中止シ伺出ヘキノ地ナシ是レ今日ノ急務ハ大ニ檢事上告ノ途ヲ開クニ如クハナシ然ルニ所謂地方官ハ既ニ檢事ノ務ヲ兼テ又判事ニ兼任シ一身ニシテ兩務ヲ通兼スルハ固ヨリ其難キ所且其勢ヒ已レ自カラ之ヲ裁判シ已レ自カラ之ヲ上告スルヲ得ル者ノ如シ是レ又到底實際行ハル可カラサル筋ニ候尤即今章程ニ據リ多ク檢事ヲ設ケ之ヲ各所ニ布置セント欲スレハ一時濫選ノ患ヒナキヲ保タス且過多ノ費用ニ渉リ却テ不都合ノ筋モ可有之依テハ差向キ裁判所不被置地方奏任官ノ内ニ就テ甲ハ兼任判事ノ務ヲ擔當シ乙ハ檢事ノ務ヲ兼任シ萬一甲ノ裁判不當ナルアルハ乙ノ檢事之ヲ上告シ無知ノ小民モ空シク寃枉ヲ抱クノ患ヒ無カラシメ候樣致シ度左候ヘハ自然今般山科生幹裁判ノ如キ不都合モ有之間敷哉ト被存候附テハ先般伺置候糾問判事規程ノ儀モ尚速カニ御裁下相成度此段相伺候也

指令　九年一月二十日

伺ノ通ダルヘキ事

法制局議案八年十二月二十七日

別紙司法省伺地方官判事檢事區分ノ儀審案候處申陳ノ趣尤ニ候間御聽許相成可然哉御指令案相添仰高裁候也

司法省伺　九年二月九日

裁判所不被置地方奏任官ノ内ニ就テ判事檢事區分ノ儀昨年十二月十七日相伺去月二十日ヲ以テ伺之通ダルヘキ旨御指令相成候依テハ右御指令通判事檢事分任ノ儀至急夫々ヘ御達相成候樣致度此段尚又上申ニ及候也

指令　九年三月十九日

伺ノ趣地方官判事兼任ノ者ハ檢事ノ職務ヲ擧行セサル儀ト心得ヘキ旨其省ヨリ相達置ヘキ事

法制局議案九年三月十四日

別紙司法省伺判事檢事分任ノ儀熟致仕候處度會縣其他數縣ノ如キハ奏任官皆判事ヲ兼任ス然ルヲ今又檢事ヲ兼任セシメントスル件ハ必ス其一人ヲ免シテ更ニ之ヲ命セサルヲ得ス從來地方官ハ總テ司法警察ノ任ヲ帶ヒ檢事ノ職務ヲ兼行スヘキモノナレハ即今判事ヲ免シ檢事ヲ命スルニモ及間敷他日各縣裁判所ノ體裁較々備ハルノ日ヲ待テ夫々檢事布置相成候テ不晩儀ト存候ニ付右分任ノ儀ハ該省ヨリ爲心得各地方官ヘ相達置可然哉御指令案調査仰高裁候也

司法省ヨリ宮城裁判所ヘ達　九年三月七日

今般其裁判所ニ檢事局ヲ置其上等裁判所同局ヨリ兼務候條此旨爲心得相達候事

司法省ヨリ宮城上等裁判所檢事局ヘ達　九年三月七日

京都裁判所ニ檢事局ヲ置ク

今般宮城裁判所被置候ニ付同所ニ檢事局ヲ置候間其局ヨリ兼務右事務可取扱此旨相達候事

但裁判所開廳事務請渡相濟候迄ハ從前之通可相心得候事

司法省ヨリ宮城上等裁判所ヘ達　九年三月七日

今般宮城裁判所被置候ニ付同所ニ檢事局ヲ置其裁判所同局ヨリ兼務候條此旨爲心得相達候事

司法省ヨリ宮城縣ヘ達　九年三月七日

今般其地方裁判所ヘ檢事局ヲ置其上等裁判所同局ヨリ兼務候ニ付此旨相心得右之趣管下ニ布達方可取計此旨相達候事

但迫テ事務受渡相濟候迄ハ從前之通可相心得候事

司法省ヨリ宮城裁判所ヘ達　九年三月十八日

今般其裁判所ヘ檢事局相設上等裁判所詰川崎權中檢事兼務候ニ付等外吏撰用之義同人申出則同局ニテ申付迫テ可屆出旨指令ニ及置候條爲心得此段相達候事

司法省ヨリ宮城裁判所出張錄ヘ達　九年四月十一日

今般其裁判所ヘ檢事局相設上等裁判所詰檢事ヨリ兼務候ニ付テハ同局一切ノ物品並平常臨時ノ諸經費共其課ヨリ支給候樣可取計此旨相達候事

司法省ヨリ京都裁判所ヘ達　九年七月八日

今般其裁判所ヘ檢事局ヲ置キ候條此旨相達候事

但同局取設場所等ノ儀ハ協議可取計事

司法省ヨリ京都裁判所詰錄ヘ達　九年七月八日

今般其裁判所ヘ檢事局相設候ニ付テハ同局ニ備フ可キ一切ノ物品其他局務ニ關スル經費ハ其課ヨリ支給候樣可取計此段相達候事

司法省ヨリ京都府ヘ達　九年七月八日

今般其地裁判所ヘ檢事局ヲ置キ候條右官員派出ノ上事務可引渡此旨相達候事

但事務受渡相濟候マテハ從前之通可相心得事

司法省ヨリ大阪上等裁判所及大阪上等裁判所詰檢事ヘ達 九年七月八日

今般京都裁判所ヘ檢事局ヲ置キ候條爲心得此旨相達候事

高知裁判所出張ノ檢事ヲ召還ス

司法省ヨリ高知裁判所出張檢事ヘ達 九年八月十九日

今般詮議之筋有之一同歸京申付候條事務引渡方地方官ヘ遂協議差支無之樣可取計候此旨相達候事

司法省ヨリ高知縣ヘ達 九年八月十九日

先般其地裁判所エ檢事出張爲致置候處今般詮議ノ筋有之一同歸京相達候條事務受取方差支無之樣可取計候此旨相達候事

鹿兒島裁判所ニ檢事局ヲ置ク

司法省ヨリ鹿兒島縣ヘ達 九年九月二十五日

今般鹿兒島裁判所ヘ檢事局ヲ置候條爲心得此旨相達候事

司法省ヨリ鹿兒島裁判所ヘ達 九年九月二十五日

今般其裁判所ヘ檢事局ヲ置候條爲心得此段相達候事

鹿兒島裁判所ニ檢事派出ヲ止ム

司法省ヨリ鹿兒島裁判所ヘ達 十年四月十二日

其裁判所詰檢事ノ儀都合有之當分派出不爲致候條此旨相達候事

司法省ヨリ鹿兒島縣ヘ達 十年四月十二日

其地裁判所詰檢事ノ儀都合有之當分派出不爲致候條此旨相達候事

司法省ヨリ長崎上等裁判所詰檢事ヘ達 十年四月十二日

鹿兒島裁判所詰檢事ノ儀都合有之當分派出不爲致候條爲心得此旨相達候事

大審院原裁判ヲ破毀シ他ノ裁判所ニ移スニ當テ檢察事務取扱方

司法省達 十一年三月八日 大審院諸裁判所各檢事（檢事補）各縣

檢事ノ上告ニ係リ大審院ニ於テ原裁判ヲ破毀シ他ノ裁判所ニ移シテ判決セシムルトキ檢察事務取扱方ノ義是迄區々相成居候處自今凡テ事件ヲ移サレタル裁判所所在ノ地ノ檢察官ニ於テ取扱フ義ト可心得此旨相達候事

國事犯ノ已決ニ係ル事務ハ檢事局之ヲ管掌ス

司法省ヨリ檢事局ヘ達 十二年一月二十一日

國事犯ニシテ已決囚ニ係ル事務ハ總テ其局ニ於テ可取扱此旨相達候事

但過ル九年熊本其他ノ賊徒處分濟ニ係ルモノ幷ニ十年九州地方賊徒處分濟ニ係ルモノ及ヒ其他刑法課ニ於テ取扱掛リノ分トモ總テ其掛エ協議ノ上可受取事

司法省ヨリ刑法課ヘ達 十二年一月二十一日

國事犯ニシテ已決囚ニ係ル事務ハ總テ檢事局ニ於テ爲取扱候條從前其課取調掛ノ分ハ同局ヘ協議ノ上可引渡此旨相達候事

代言人ニ關スル事務ヲ檢事及ヒ檢事ノ職務ヲ攝行スル者ニ委ス

司法省ヨリ九州臨時裁判殘務掛ヘ達 十二年一月二十一日

國事犯ニシテ已決囚ニ係ル事務ハ總テ檢事局ニ於テ爲取扱候條從前取調掛リノ分ハ同局ヘ協議ノ上可引渡此旨相達候事

司法省庶務課議案 十二年一月日 閣

過般太政官エ御上申相成候熊本其他ノ賊徒殘務取扱方ノ儀今般別紙朱書ノ通御裁下相成候然ルニ從前右事務ハ隨行官ニテ取扱ヒ又十年九州地方賊徒殘務ハ岸良檢事長其外エ被命其他ノ國事犯ハ刑法課ニテ取扱來リ右樣三科ニ跨リ候ヨリ往々議案區々ニ相成不都合ノ儀モ不少候就テハ向後國事犯取扱ノ儀ハ一切何レノ課ヘ歟單一ニ被附議案一途ニ相成候方可然ト存候尤モ國事犯ノ儀ハ總テ特典ニ出テ候モノニ付本省章程第三項恩赦ノ特典ヲ奉行スルノ取扱ハ檢事局ノ主務ニ候得ハ右國事犯取扱ノ儀モ同局エ被附候テ如何哉仰高裁候也

司法省達 十三年五月十三日 大審院諸裁判所檢事（檢事補）府縣

今般甲第一號ヲ以テ代言人規則改正相成候ニ付テハ右ニ關スル事務ハ一切其府縣ヲ管轄スル地方裁判

所ノ檢事ヘ引渡可申此旨相達候事
但檢事無之地方ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者ニ於テ可取扱儀ト可相心得事

司法省ヘ達　十三年九月十五日

漸次各地ニ檢事ヲ置キ地方官ニ委セシ所ノ警察事務ヲ管ス

司法警察ノ事務當分使府縣ヘ可致委任旨明治七年十月三日相達候處自今其省ノ部合ニ依リ漸次各地ニ檢事ヲ置キ檢事ニ屬スル事務追々地方官ヨリ引受候樣可取計此旨相達候事

達　十三年九月十五日第四十六號使縣長官ヲ除ク

司法警察事務ノ儀ニ付明治七年十月第百三十二號ヲ以テ相達候趣モ有之候處今般別紙ノ通司法省ヘ相達候條此旨可相心得事別紙ハ前ノ達ナリ

司法省上申十三年八月十一日

大阪長崎宮城上等裁判所檢事ヲ設ク

現今檢事設置ノ地方ハ三府兩縣（長崎宮城）ニ止リ其他ノ地方ハ明治七年十月三日當省ヘ御達ノ趣ニ據リ檢事ノ事務總テ地方官ヘ委任有之候然ルニ治罪法實施ノ期ニ至テ檢事ヲ各地方ニ設置スルハ勿論ノ儀ニ有之候得共其際一時ニ設置スルカ如キハ多少ノ紛雜モ可有之ニ付自今當省ノ便宜ニ依リ漸次各地ニ設置シ該事務追々地方官ヨリ引受候得ハ將來ノ爲大ニ都合ヲ得ルノ舉ト存候就テハ別紙立案ノ振合ヲ以テ夫々御達相成度此段上申候也

法制部議案十三年八月三十日

別紙司法省上申漸次ニ檢事ヲ設置スルノ儀ハ將來紛雜ヲ生セス大ニ便益ノ儀ニ付上申ノ通御聽許相成可然哉司法部ヘ合議ノ上仰高裁候也

司法省ヨリ大阪長崎宮城上等裁判所檢事ヘ達　十三年十二月十七日

大阪長崎仙臺裁判所檢事事務兼務ノ儀自今相解候條此旨相達候事

司法省ヨリ大阪長崎仙臺裁判所ヘ達　十三年十二月十七日

其裁判所檢事々務是迄大阪長崎宮城上等裁判所詰檢事ニ於テ兼務候處自今右兼務相解候條此旨爲心得相達候事

司法省ヨリ大阪長崎宮城上等裁判所ヘ達　十三年十二月十七日

大阪長崎仙臺裁判所檢事事務是迄其裁判所詰檢事ニ於テ兼務候處自今右兼務相解候條爲心得此旨相達候事

司法省ヨリ大阪府長崎縣宮城縣ヘ達　十三年十二月十七日

大阪長崎仙臺裁判所檢事事務ノ儀是迄大阪長崎宮城上等裁判所檢事ニ於テ兼務候處自今右兼務相解候條爲心得此旨相達候事

司法省ヨリ大阪長崎宮城上等裁判所檢事ヘ達　十三年十二月十七日

大阪長崎仙臺裁判所檢事事務兼務ノ儀今般相解候ニ付テハ總テ同所詰檢事ヘ協議ノ上事務可引渡尤引渡相濟候迄ハ從前ノ通事務可取扱此旨相達候事

司法省ヨリ大阪長崎仙臺裁判所詰檢事ヘ達　十三年十二月十七日

大阪長崎仙臺裁判所檢事事務引渡方ノ儀ニ付大阪長崎宮城上等裁判所檢事ヘ別紙ノ通相達候條爲心得此旨相達候事

司法省ヨリ横濱裁判所ヘ達　十三年十二月四日

今般其裁判所ニ檢事ヲ置候條此旨相達候事

司法省ヨリ神奈川縣ヘ達　十三年十二月四日

今般横濱裁判所ニ檢事ヲ置候條自今司法警察事務ノ儀ハ右檢事ノ指揮ヲ受候樣可取計此旨相達候事

司法省ヨリ大審院同檢事東京上等裁判所同檢事ヘ達　十三年十二月四日

今般横濱裁判所ニ檢事ヲ置候條爲心得此旨相達候事

司法省ヨリ外務省ヘ照會　十三年十二月四日

今般横濱裁判所ニ檢事ヲ置候就テハ內外國人干涉ノ刑事幷刑事附帶ノ民事詞訟是迄神奈川縣令ニ於テ取扱來候件々自今檢事ヲシテ取扱ハシメ候條此旨各國公使ニ御通報相成度此段及御照會候也

横濱以下五裁判所ニ檢事ヲ置ク

追テ本文ノ外諸開港場裁判所モ逐次檢事ヲ置ク可キ見込ニ付御含迄此段申副候也

司法省ヨリ神戸裁判所ヘ達　十四年一月二十五日

今般其裁判所エ檢事局設置候條此旨相達候事
但兵庫縣ヘ別紙ノ通相達置候事
司法省ヨリ兵庫縣ヘ達 十四年一月二十五日
今般神戸裁判所ヘ檢事局設置候條檢事赴任ノ上ハ司法警察ノ事務都テ右檢事ノ指揮ヲ受ケ候樣可取計
此旨相達候事
但神戸裁判所支廳管內ニ起ル司法警察事務ノ儀ハ當分從前ノ通可相心得事
司法省ヨリ大審院同檢事大阪上等裁判所同檢事ヘ達 十四年一月二十五日
今般神戸裁判所ヘ檢事局設置候條此旨相達候事
司法省ヨリ外務省ヘ照會十四年一月二十五日
今般神戸裁判所ヘ檢事局設置候就テハ內外國人干涉ノ刑事幷刑事附帶ノ民事詞訟是迄兵庫縣令ニ於テ取扱來リ候件々自今檢事ヲシテ取扱ハシメ候條此旨各國公使ヘ御通報相成度此段及御照會候也
司法省ヨリ新潟裁判所ヘ達 十四年一月二十四日
今般其裁判所ヘ檢事局設置候條此旨相達候事
但新潟縣ヘ別紙ノ通相達置候事
司法省ヨリ新潟縣ヘ達 十四年一月二十四日
今般新潟裁判所ヘ檢事局設置候條檢事赴任ノ上ハ司法警察事務ノ儀都テ右檢事ノ指揮ヲ受候樣可取計
此旨相達候事
但新潟裁判所各支廳ノ管內ニ起ル司法警察事務ノ儀ハ當分從前ノ通可相心得事
司法省ヨリ大審院同檢事東京上等裁判所同檢事ヘ達 十四年一月二十四日
今般新潟裁判所ヘ檢事局設置候條爲心得此旨相達候事
司法省ヨリ外務省ヘ照會十四年一月二十四日
今般新潟裁判所ヘ檢事局設置致シ候就テハ內外國人干涉ノ刑事幷刑事附帶ノ民事詞訟是迄新潟縣令ニ於テ取扱來リ候件々自今檢事ヲシテ取扱ハシメ候條此旨各國公使ヘ御通報相成度此段及御照會候也
司法省ヨリ函館裁判所ヘ達 十四年一月二十九日

今般其裁判所ヘ檢事局設置候條此旨相達候事
但開拓長官エ別紙寫ノ如ク及照會置候事
司法省ヨリ大審院同檢事宮城上等裁判所同檢事ヘ達 十四年一月二十九日
今般函館裁判所ヘ檢事局設置候條爲心得此旨相達候事
司法省ヨリ開拓使ヘ照會十四年一月二十九日
今般函館裁判所ヘ檢事局設置候條檢事赴任ノ上ハ司法警察ノ事務都テ右檢事ノ指揮ヲ受ケ候樣可取計旨御使函館支廳ヘ御達相成度此段及御照會候也
追テ福山江刺壽都ノ各區裁判所管內ニシテ該區裁判所ノ處分ニ歸ス可キ司法警察ノ事務ハ當分從前ノ通御心得有之度候也
付箋 福山江刺壽都ノ三區廳ハ目今區裁判所假規則ノ通刑事懲役三年以下民事金額百圓以下ノ事件ヲ裁決ス
司法省ヨリ外務省ヘ照會十四年一月二十九日
今般函館裁判所エ檢事局設置候就テハ內外國人干涉ノ刑事幷刑事附帶ノ民事詞訟是迄開拓使函館支廳ニ於テ取扱來リ候件々自今檢事ヲシテ取扱ハシメ候條此旨各國公使ヘ御通報相成度此段及御照會候也
司法省ヨリ金澤裁判所ヘ達 十四年四月二十八日
今般其裁判所エ檢事局設置候條此旨相達候事
但石川福井兩縣エ別紙ノ通相達置候事
司法省ヨリ石川福井兩縣ヘ達 十四年四月二十八日
今般金澤裁判所エ檢事局設置候條檢事赴任ノ上ハ司法警察ノ事務都テ右檢事ノ指揮ヲ受ケ候樣可取計
此旨相達候事
但金澤裁判所支廳管內ニ起ル司法警察事務ノ儀ハ當分從前ノ通可相心得事
司法省ヨリ大審院同檢事大阪上等裁判所同檢事ヘ達 十四年四月二十八日
今般金澤裁判所エ檢事局設置候條此旨相達候事
司法省達 十四年五月六日第八號各裁判所各檢事警視廳府縣
橫濱裁判所神戸裁判所新潟裁判所函館裁判所金澤裁判所ヘ檢事ヲ置候條此旨爲心得相達候事

名古屋以下十三裁判所ニ檢事ヲ置ク

司法省達（十四年五月十七日名古屋裁判所・静岡裁判所・高知裁判所・熊谷裁判所・熊本裁判所・松本裁判所・福島裁判所・松山裁判所・廣島裁判所・鹿兒島裁判所・水戸裁判所・松江裁判所・弘前裁判所）

今般其裁判所ニ檢事ヲ置候條此旨相達候事

但何縣ニ別紙ノ通相達置候事

司法省達　十四年五月十七日

名古屋（愛知縣・三重縣・岐阜縣）　熊谷（埼玉縣・群馬縣）
松山（愛媛縣）　松本（長野縣）
水戸（茨城縣・栃木縣）　廣島（廣島縣・山口縣）
弘前（青森縣・秋田縣）　松江（島根縣）
高知（高知縣・德島縣）　靜岡（靜岡縣・山梨縣）
福島（福島縣・山形縣）　熊本（熊本縣・大分縣）
鹿兒島（鹿兒島縣）

今般何裁判所ニ檢事ヲ置候條檢事赴任ノ上ハ司法警察ノ事務都テ右檢事ノ指揮ヲ受ケ候樣可取計此旨相達候事

但何裁判所支廳管内ニ起ル司法警察事務ノ儀ハ當分從前ノ通可相心得事

司法省達（十四年五月十七日丙第九號大審院諸裁判所各檢事・警視廳・府縣）

今般左ノ各裁判所ヘ檢事ヲ置候條此旨爲心得相達候事

名古屋裁判所　熊谷裁判所　松本裁判所　松山裁判所
廣島裁判所　水戸裁判所　松江裁判所　弘前裁判所
靜岡裁判所　高知裁判所　熊本裁判所　福島裁判所
鹿兒島裁判所

檢事裁判所ヘ派出ニ付心得方

靜岡熊本兩裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺十四年五月二十八日

今般小官等地方裁判所詰被命候就テハ左ノ條々爲心得相伺候

第一條　地方警部ヲ檢事補ニ兼任ノ義ハ該縣令ヘ協議ヲ遂ケ人選上申可仕ハ勿論ノ事ニ候得共創設ノ際右等ノ手順ヲ盡シ候テハ時日ヲ經過シ實際事務上差支モ可有之仍テ此度限リ一兩名ハ直ニ假辭令渡方取計置追テ共旨上申更ニ辭令書授與相成候樣仕度候

但事務ノ都合ニ依リ本文ノ外增員ヲ要スルトキハ其都度具申可仕候

第二條　各裁判所ヘ檢事ヲ被置支廳管内ニ起ル司法警察ノ義ハ當分從前ノ通可相心得旨地方廳ヘ御達相成候處右管内ノ義ハ事件ノ輕重ニ拘ハラス素ヨリ關係不致候テ可然ハ勿論ナレトモ本廳ニ屬スル區裁判所管内ノ義ハ如何相心得可然哉

第三條　罪囚及ヒ贓物ノ受授等總テ雜務ヲ管掌スル屬官及ヒ等外吏等ハ裁判所長ト協議ノ上互ニ流用致シ候儀ト相心得可然哉

第四條　總テ探偵ヲ要スル事件有之候節ハ地方警部ヲシテ之ヲ爲サシムルハ勿論ナレトモ時宜ニ依リテハ警部ニ移牒スル能ハサル場合無之トモ保シ難シ然ル時ハ臨時適應ノ者ヲ相傭使用致シ不苦候哉

第五條　檢事補以下親病氣看護等至急ヲ要スヘキ事故有之歸省出願ノ節ハ檢事ニ於テ聞屆ケ置キ追テ共旨御屆致シ可然哉

第六條　改正刑法創定治罪法實施モ遲キニ可有之先ツ夫迄ハ諸事從前之通リ取扱可申ハ勿論ニ候ヘトモ治罪手續等ハ裁判所長及ヒ該縣令ヘ協議ノ上實施前ト雖モ可成新法ニ準據改正候樣可仕哉

右差掛リ候義ニ付至急何分ノ御指令有之度候也

司法省指令　十四年六月六日

第一條　此際ニ限リ聞屆候事

第二條　本廳ノ直轄スル各區裁判所（本廳内ニ設置カ）管内ニ起ル事件ニシテ該區裁判所ノ權限内ニ屬スル事件ハ當分從前ノ通其他ハ都テ引受候儀ト心得ヘシ

第三條　伺之通

第四條　總テ警部ヲシテ擔當セシムヘキ事

第五條　伺之通

第六條　現行法律ニ觸レス費用ニ差響キ無之件ハ伺之通

各地方裁判所支廳ニ檢事ヲ置ク

十四年十月布告第五十三號ヲ以テ地方裁判所ヲ始審裁判所ト爲ス裁判所ノ部ニ收ス

司法省達　十四年八月二十二日

東京裁判所　千葉支廳　千葉縣
水戸裁判所　栃木支廳　栃木縣
熊谷裁判所　各支廳　埼玉縣　群馬縣
名古屋裁判所　各支廳　岐阜縣　知多縣　三重縣
松本裁判所　各支廳　長野縣
新潟裁判所　各支廳　新潟縣
靜岡裁判所　各支廳　靜岡縣　山梨縣
京都裁判所　各支廳　京都府　滋賀縣
大阪裁判所　各支廳　大阪府　和歌山縣
神戸裁判所　各支廳　兵庫縣　岡山縣
金澤裁判所　各支廳　石川縣　福井縣
松山裁判所　各支廳　愛媛縣
高知裁判所　德島支廳　德島縣
松江裁判所　各支廳　島根縣
廣島裁判所　山口支廳　山口縣
弘前裁判所　秋田支廳　秋田縣
仙臺裁判所　盛岡支廳　岩手縣
福島裁判所　各支廳　福島縣　山形縣
長崎裁判所　各支廳　長崎縣　福岡縣
熊本裁判所　各支廳　大分縣
鹿兒島裁判所　宮崎支廳　鹿兒島縣

今般其裁判所各何支廳ニ檢事ヲ置候條此旨相達候事

但何縣ニ別紙ノ通相達置候事

司法省達　十四年八月二十二日

千葉縣　東京裁判所千葉支廳
栃木縣　水戸裁判所栃木支廳
埼玉縣　熊谷裁判所浦和支廳
群馬縣　名古屋裁判所前橋支廳
三重縣　名古屋裁判所安濃津支廳
岐阜縣　名古屋裁判所岐阜支廳
愛知縣　名古屋裁判所岡崎支廳
長野縣　松本裁判所各支廳
新潟縣　新潟裁判所各支廳
靜岡縣　靜岡裁判所濱松支廳
山梨縣　靜岡裁判所甲府支廳
滋賀縣　京都裁判所各支廳
京都府　京都裁判所各支廳
和歌山縣　大阪裁判所各支廳
大阪府　大阪裁判所各支廳
兵庫縣　神戸裁判所各支廳
岡山縣　神戸裁判所各支廳
石川縣　金澤裁判所各支廳
福井縣　金澤裁判所各支廳

愛媛縣　松山裁判所各支廳
德島縣　高知裁判所德島支廳
島根縣　松江裁判所各支廳
山口縣　廣島裁判所山口支廳
秋田縣　弘前裁判所秋田支廳
岩手縣　仙臺裁判所盛岡支廳
福島縣　福島裁判所各支廳
山形縣　福島裁判所各支廳
長崎縣　長崎裁判所各支廳
福岡縣　長崎裁判所各支廳
大分縣　熊本裁判所各支廳
鹿兒島縣　鹿兒島裁判所宮崎支廳

今般何裁判所各支廳ヘ檢事ヲ置候何條檢事赴任ノ上ハ該支廳管內司法警察ノ事務都テ右檢事ノ指揮ヲ受候樣可取計此旨相達候事

司法省達十四年八月二十二日大審院裁判所警視廳府縣丁第十一號

今般地方裁判所各支廳ヘ檢事ヲ置候條此旨爲心得相達候事

司法省達十四年十月十日甲第五號

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

司法省達十四年十月十日丙第十三號警視廳府縣ヲ除ク東京府

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦

新法施行ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシム

十六年二月司法省丁第九號ヲ以テ警部代理ノ巡査ハ裁判事務上ニテ警部ニ準ス

候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡査ノ姓名ハ豫シメ其地方輕罪幷違警罪裁判所ヘ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

司法省達十四年十月十日丁第十七號大審院裁判所

司法警察事務上時宜ニ依リ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ候儀本年當省丙第十三號ヲ以テ相達候條此旨可相心得事

司法省伺十四年一月二十八日

治罪法第六十條ニ於テ警視警部區長郡長治安判事警部在ラサル地ノ戶長ヲ除クノ外ハ司法警察官ノ職務ヲ行フヿヲ得ルモノ無之然ルニ巡査ノ如キハ素ヨリ所謂公力者ナルヲ以テ警察官タルヲ得サルハ無論ニ候ヘ共方今各府縣警察事務上ニテ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル向モ有之ニ付不得已場合ニ於テハ右警部代理ノ巡査ヲシテ司法警察ノ職務ヲ行ハシメ度此段相伺候也

指令十四年三月四日

伺ノ通

司法部議案十四年二月十七日

別紙司法省伺司法警察事務ニ付巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムルノ義勘考候處右ハ方今各地方警部ノ職員充備セサルヨリ一等若クハ二等巡査ヲシテ警部ノ職務ヲ執ラシムルモノ往々有之事實無余儀次第ナリ既ニ巡査ヲシテ警部ノ代理タラシムル上ハ則チ名ハ巡査ナルモ實ハ警部ニ等シキモノニ付伺ノ通爲取扱敢テ差支無之儀ト存候依テ左ノ通御指令相成可然哉內務部法制部合議ノ上仰高裁候也

司法省達十四年十一月十五日

東京裁判所　木更津
京都裁判所　園部
大阪裁判所　奈良　田邊
神戶裁判所　豐浦　洲本　津山
長崎裁判所　平戶　福江
水戶裁判所　宇都宮　土浦
名古屋裁判所　高山　山田

區裁判所ニ檢事ヲ置ク十四年十月布告第五十三號ヲ以テ區裁判所ヲ治安裁判所ト爲ス裁判所ノ部ニ載ス

弘前裁判所　八戸　大曲
仙臺裁判所　岩井
福島裁判所　白川
松江裁判所　米子
高知裁判所　中村　脇町
廣島裁判所　尾道
熊本裁判所　天草

今般其裁判所管內何區裁判所ニ檢事ヲ置候條此旨相達候事

但何縣ニ別紙ノ通相達置候事

司法省達　十四年十一月十五日

千葉縣　東京裁判所管內木更津
京都府　京都裁判所管內園部
大阪府　大阪裁判所管內奈良
茨城縣　水戸裁判所管內土浦
栃木縣　水戸裁判所管內宇都宮
兵庫縣　神戸裁判所管內豐岡洲本
岡山縣　神戸裁判所管內津山
和歌山縣　大阪裁判所管內田邊
高知縣　高知裁判所管內中村
德島縣　高知裁判所管內脇町
鳥取縣　松江裁判所管內米子
長崎縣　長崎裁判所管內平戸福江

熊本縣　熊本裁判所管內天草
三重縣　名古屋裁判所管內山田
岐阜縣　名古屋裁判所管內高山
廣島縣　廣島裁判所管內尾道
福島縣　福島裁判所管內白川
岩手縣　仙臺裁判所管內岩井
秋田縣　弘前裁判所管內大曲
青森縣　弘前裁判所管內八戸

今般何裁判所管內何區裁判所ニ檢事ヲ置候條檢事赴任ノ上ハ該區裁判所管內司法警察ノ事務總テ右檢事ノ指揮ヲ受候樣可取計此旨相達候事

司法省達　十四年十一月十五日

今般何裁判所竝何縣ヘ別紙ノ通相達候ニ付早々赴任事務ノ引繼ヲ受候樣可致此旨相達候

別紙ハ明年ヨリ始審裁判所ニ改設ス可キ區裁判所ニ檢事ヲ置クノ達ナリ

司法省達　十四年十一月十六日　第十四號大審院裁判所管轄府縣

今般左ノ各裁判所管內區裁判所ヘ檢事ヲ置候條此旨爲心得相達候事

東京裁判所　京都裁判所
木更津區裁判所　園部區裁判所
大阪裁判所
奈良區裁判所　田邊區裁判所
神戸裁判所
豐岡區裁判所　津山區裁判所

洲本區裁判所
長崎裁判所
平戸區裁判所
弘前裁判所
八戸區裁判所
仙臺裁判所
磐井區裁判所
名古屋裁判所
山田區裁判所
松江裁判所
米子區裁判所
高知裁判所
中村區裁判所
熊本裁判所
天草區裁判所
水戸裁判所
土浦區裁判所
福江區裁判所
大曲區裁判所
福島裁判所
白河區裁判所
高山區裁判所
廣島裁判所
尾道區裁判所
脇町區裁判所
宇都宮區裁判所

治安裁判所ニ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ其地ノ警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム

十九年五月勅令第四十號ヲ以テ裁判所ノ官制ヲ定ム

布告 第十四年十二月二十八日太政大臣三條實美參議司法卿大木喬任副署

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ內其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム

右奉 勅旨布告候事

司法省上申十四年十一月九日

本年第五十四號ヲ以テ檢察官ニ於テ輕罪ノ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ裁判ヲ爲スヲ得ヘキ旨御布告相成候處右檢察官ノ職務ハ檢事之ヲ行フ相當ナリト雖モ各治安裁判所ニ檢事ヲ派出セシムルヿヲ得ス因テ當分ノ間其地ノ警部ニ代理セシメ候樣致度御布告案相添此段及申奏候也

參事院議案十四年十二月二十二日

別紙司法省申奏治安裁判所ニ於テ開ク輕罪裁判所檢察官ノ件審査スル處左ノ如シ

檢察官ニ於テ輕罪ノ豫審ヲ要セスト見込モノニ限リ治安裁判所ニテ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ必ス檢事ヲ派出セシメハ許多ノ費用其他不便少カラサルヘシ因テ其地ノ警部ヲシテ檢察官ノ職務ヲ執ラシムルハ事實不得已ノヿナリトス

右ニ由リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也

和歌山縣ヨリ司法省ヘ伺節錄十五年一月十二日

第四條　明治十四年第七十一號御布告末文ニ警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシムトアリ右警部トハ警部補モ總稱スル儀ト可相心得哉

司法省指令十五年一月二十五日

伺之通

長野縣ヨリ司法省ヘ上申十五年二月十六日

輕罪犯ニシテ豫審ヲ不要見込之者十四年御省甲第五號御布達ニ依リ警部補代理巡査ヲシテ上諏訪治安裁判所ヘ被告事件公訴セシメ候處別紙寫之如ク之ヲ排斥セリ抑モ明治十四年第五十四號及第七十一號公布ハ專ラ官民ノ便利ヲ得セシメントノ御趣意ニレテ亦不得止ニ出タルモノト推考セラル加之該公布ハ警部ノ等級存在ノ日則第百十一號達以前既ニ御治定相成タルモノニテ自ラ警部補モ包括シタルモノト思料セシモ如何セン該第七十一號公布中警部以下ノ明文無之又警察費額ニ定限アリテ各警察署ヘ警部派出爲致難クヨリ爲ニ官民ノ不便ナルモ之ヲ始審裁判所檢事ヘ送致セサルヲ得ス是レ便法ヲ處スルニ不便ヲ加フルニ似タリ到底御趣意ニ相反スル義ト被存候條警部補ハ勿論實際不得止トキハ代理巡査ニテ差支無之樣其筋ヘ御達相成度此段上申候也

司法省指令十五年三月四日

上申ノ趣別紙上諏訪治安裁判所ヘ內訓之通心得ヘシ但明治十四年當省丙第十三號達ハ司法警察事務上ニ限リタル儀ニシテ檢事ノ職務ヲ代理スヘキ場合ニ及ホス可キ者ニアラス

司法省ヨリ上諏訪治安裁判所ヘ內訓十五年三月四日

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ內其所在地ノ警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム可キ旨明治十四年第七十一號ヲ以テ公布有之候處警部補モ警部同樣代理スルヿヲ得可キ儀ト心得ヘシ但巡査ヲシテ其代理ヲナサシムル儀ハ不相成此旨及內訓候也

司法省ヨリ長野縣ヘ達十五年五月五日

本年二月十六日附其縣開申ノ趣ニ付同三月四日附指令左ノ通改正候條此旨相達候事

改正指令

書面警部補ハ檢察事務爲取扱且實際不得止差支アル時ハ警部補代理ノ巡査ヲシテ檢察事務爲取扱不苦候事

但本文ノ趣上諏訪治安裁判所ヘ相達置候事

司法省ヨリ上諏訪治安裁判所ヘ內訓十五年五月五日

本年三月四日附內訓左ノ通改正候條此旨及內訓候事

改正內訓

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ內其所在地ノ警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシムヘキ旨明治十四年第七十一號ヲ以テ公布有之候處警部補モ警部同樣代理スルコトヲ得且時宜ニ依リ不得止差支有之時ハ警部補代理ノ巡査ヲシテ檢察事務爲取扱不苦儀ト心得ヘシ此旨及內訓候事

大阪上等裁判所ヨリ司法省ヘ屆十四年十二月二十八日

大阪控訴裁判所檢事職務內則

大阪控訴裁判所檢事職務內則別冊ノ通假ニ相定候間供電覽候也

（別冊）

大阪控訴裁判所檢事職務內則

第一條　檢事長ハ所屬檢事ヲ統率シ其職權內ニアル百般ノ事務ヲ管理ス

檢事長疾病事故アル時ハ次席ノ檢事總テ檢事長ノ事ヲ代理ス

第二條　檢事長ハ總テ訴訟事件ヲ一閱シ自ラ主任トナリテ其事ニ從ヒ或ハ檢事一名ヲ指名シテ主任トナシ之ヲシテ其事ヲ擔當セシム主任檢事若シ疾病事故アルトキハ檢事長若クハ其臨時指定シタル檢事之ヲ行フ

第三條　所屬檢事其職務ヲ行フハ檢事長ノ指揮ニ從フヘシト雖モ檢事長ヨリ指名委任セラレタル後ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第四條　告達書、豫審公判ノ事件表、其他庶務ニ係ル往復文書ハ檢事長若クハ（其疾病事故ノ時ハ代理檢事ノ名ヲ以テスヘシ

但シ代理檢事ノ名ヲ以テスル時ハ檢事長何某代理檢事何某ト記スヘシ

公訴狀ハ治罪法第三百七十三條ノ區別ニ從ヒ檢事長若クハ所屬檢事ノ名ヲ以テスヘシ

赦典請求書署名モ亦前項ト其區別ヲ同フス

第五條　控訴ニ關スル書類ヲ檢事長ヨリ受取リタル時ハ主任檢事三日內ニ之ヲ查閱シ原裁判ノ當否ヲ論シタル意見書ヲ作リ其書類ト共ニ書記局ニ還付スヘシ

第六條　重罪ニ關スル書類ヲ檢事長ヨリ受取リタル時ハ主任檢事之ヲ查閱シ重罪裁判所ヲ開ク時ヲ待テ公訴狀ト共ニ書記局ニ送付スヘシ

第七條　控訴事件若シ控訴ヲ爲シ得ヘキ原由ナキ時ハ檢事長若クハ主任檢事控訴受理スヘカラサルノ意見書ヲ作リ訴訟書類ト共ニ書記局ヘ送付スヘシ

第八條　訴訟事件迅速ヲ要スルモノト思量シタル時ハ訴訟書類ヲ書記局ヘ還付スル時公判ノ順序ヲ變更スル請求書ヲ併セテ送付スヘシ

第九條　檢事長及ヒ所屬檢事附帶ノ控訴ヲ爲ス時ハ公廷ニ於テ直ニ之ヲ申立ルコトヲ得ト雖トモ成ルヘク其意見書ヲ豫メ書記局ニ送付スヘシ

第十條　檢事ノ控訴又ハ檢事長若クハ主任檢事附帶ノ控訴アリタル場合ニ於テ其事件重罪ナリトスルモ未タ豫審ヲ受ケサル者アルヲ發見シタル時ハ檢事長若クハ主任檢事ヨリ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシムル請求書ヲ書記局ヘ送付スヘシ

第十一條　書記局ヨリ被告人出廷ノ日時ニ至リ其出廷シタル旨ヲ通知アレハ主任檢事公廷ヘ出席スヘシ

第十二條　告訴告發掛ノ書記及庶務掛ノ書記ヲ置キ其事務ヲ擔當セシム

第十三條　告訴告發掛ノ書記ハ告訴狀告發狀ヲ受取リタルトキ之ヲ查閱シ其已ニ豫審ヲ經タルモノハ直チニ之ヲ却下シ其未タ地方檢事ノ手ヲ經サルモノハ之ヲ該檢事ニ出スヘキコトヲ指圖シ已ニ地方檢事ノ手ヲ經タルモノ及ヒ裁判官檢察官又ハ司法警察官ヲ被告トシタルモノハ一應其大意ヲ檢閱シテ番號ヲ付シ之ヲ檢事長ニ呈スヘシ

告訴告發件名簿ヲ作リ件名番號幷ニ主任檢事ノ氏名及ヒ其取捨等ヲ記スヘシ

第十四條　庶務掛ノ書記ハ豫審公判事件表其他檢事ノ職務ニ關スル往復文書ノ草案ヲ起シ又訴訟書類其他詰所ニ備フル所ノ文書ヲ整頓保存スヘシ

各檢事事務配當表ヲ作リテ檢事長ニ呈スヘシ

控訴件名簿重罪件名簿ヲ作リ其件名番號主任檢事ノ氏名訴訟關係人ノ氏名住所及原裁判所ノ廳名等ヲ記載スヘシ

第十五條　等外吏雇員ハ文書ノ受付ヲナシ又ハ時機ニ應シテ書記ノ事ヲ助ケ又ハ檢事書記ノ命ヲ受ケテ謄寫ノ事ニ從フヘシ

始審裁判所檢察官ニ民事ニ關セサルヲ以テ輕罪裁判所詰ノ者ヲ用ヒシム

警部ニシテ檢事補ヲ兼ル者ハ警部ノ際ヲ除ク外務ヲ本務ニ從事セシム

檢事ニ附屬セル等外吏以下ノ進退ハ裁判所長ト協議ノ上處分セシム

宇和島始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺十五年一月九日

治罪法第五十八條ノ法意ヲ繹ヌルニ非ス民事ニ關スル檢察官トシテ始審裁判所檢事補トノ名稱アリ又本職等ノ辭令等モ同樣ニ候處當時未タ檢察官ノ民事ニ關スル法章無之ニ付勿論關係無之ト存候然ラハ該辭令ノ如キハ即輕罪裁判所詰ノ譯ニ有之候哉果然ジハ告訴人ヘ渡ス證書等ヲ始メ諸往復ノ節ハ總テ輕罪裁判所檢事ト記載スル筋ニ候哉別紙舊宇和島支廳伺ヘ御指令之趣モ有之右ハ裁判官ニ於テハ一同ノ判事ニ於テ民刑ニ關スルヲ以テ廳名區別アルハ當然ニ候得共檢察官ノ如キ今日明カニ民事ニ關涉セシシテ法律又ハ辭令書等ニモ始審裁判所檢事ト有之ニ付聊疑義ヲ免カレス因テ至急伺御指示候也

司法省達　十五年三月一日　始審裁判所檢事

伺ノ趣輕罪裁判所ノ名稱ヲ用ユルコト當然ノ儀ト心得ヘシ

司法省達　十五年七月七日

檢察官ハ可成本務ニ從事爲致候樣注意可有之此旨爲念相達候事

除キ其他ハ可成丈本務ニ從事爲致候樣注意可有之此旨爲念相達候事

警部ニテ檢事補兼任ノ向キ兼務都テ專任ノ姿ニ相成本務上差支ニ有之趣ニ相聞候ニ付事務繁忙ノ際ヲ

横濱輕罪裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺十五年七月七日

檢事ニ付屬シテ書記其他ノ雜務ヲ取扱ハシムル等外又ハ雇吏ノ儀ハ事務ノ繁閑ニ依リ其當初豫メ所長ニ議シテ其定員ヲ極メ而シテ進退黜陟或ハ補欠等ノ時ニ當テハ其時々之レヲ所長ニ稟議シテ其處置ヲ求メ來リタル慣例ニ有之然レトモ檢事ノ事務ハ所長ノ預リ關セサル儀ニ付自然其事務ノ繁劇如何ニ痛

第十局設置ニ付檢事心得方

痒ヲ感セサル者ノ如ク附屬員ノ補欠等ヲ謀ルモ因循之レニ應セス看スヽヽ檢事ニ屬スル事務ヲ取扱ハセ其勤怠ヲモ檢事之レヲ監督シナカラ進退黜陟又ハ欠員補塡等ノ場合ニ於テ其處分ヲ時々所長ニ求メ候テハ前陳スル如ク所長ハ其事務ノ如何ニ痛痒ヲ抱カサレハ或ハ度外視スル者ノ如キ情況ナキヲ保セス實際右等ノ情況アルトキハ附屬吏員ニ於テモ孰レカ其附隨スル處ヲ辨セス遂ニ奬勵上ニモ影響ヲ來タスニ至レリ又補欠ヲ要スル場合等屢之レヲ所長ニ謀ルモ恬トシテ因循ニ付スレハ檢事自ラ其處置ヲ爲スヲ得サルヲ以テ徒ラニ之レヲ請求スルニ止ル其權限甚狹隘ニシテ實際不都合ノ場合モ不尠候ニ付自今檢事ニ付屬スル等外吏定員ハ裁判所總定員內ヨリ流用スル者ニ付一端之レヲ所長ニ議スルト雖モ其定メタル人員ニ付而ハ其姓名俸給等直ニ檢事ヨリ上申シ該員ニ係ル增給補欠等ノ處分ハ檢事直ニ上請シテ處分イタシ候方實際甚タ便宜ニ付右御委任相成候樣仕度依テ此段相伺候也

司法省指令　十五年七月十五日

書面附屬員ノ內等外吏以下ノ進退ハ其時々裁判所長ト協議ノ上可取計事

但增員增俸ノ儀ハ本年一月第一五四號達ノ通可心得事

司法省第一局議案　十五年七月十四日

別紙横濱始審裁判所檢事伺ハ附屬員等外吏以下ノ進退黜陟ヲ檢事ニテ處分致シ度ノ件右ハ伺面ノ如ク既ニ裁判所定員中ヨリ檢事ノ付屬員ヲ特ニ定メアル上ハ檢事ニ於テ取扱候方事務奬勵上大ニ益アル儀ニ可有之依テ客年十一月職第一九二七號別紙參照所長ヘ御達ノ主意ニ依リ檢事ニ於テモ附屬員等外吏以下ノ進退ハ其時々所長ト協議ノ上取計其增員增俸ノ義ハ本年一月第一五四號御達ニ據リ經伺ノ上取計方左案ノ通御指令可相成哉仰高裁候也

司法省第十局ヨリ大審院各裁判所檢事ヘ通牒　十五年七月十日

檢事ノ職タル行政官ニ屬スルモノニシテ大審院諸裁判所ニ分レテ事務ヲ行フニ當テハ法律上權限ヲ異ニスト雖モ其全體ヨリ之ヲ觀レハ一身分體ノ如キ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ大審院檢事ヨリ違警罪裁判所檢察官ニ至ルマテ總テ司法卿ノ監督指揮ヲ受事務上脈絡ヲ相通シ萬般ノ處分彼此矛盾ノ患ナキヲ要ス抑法ハ猶ホ機關ノ如シ運用其道ヲ得ルトキハ活物トナリ其道ヲ得サルトキハ死物トナル治罪法ノ如キ殊ニ然リトス果シテ能ク精神ノ在ル所ヲ探リ運用其道ニ適スルトキハ犯者ニ僥免ノ弊ナク無辜ニ寃枉ノ患ナク人民ノ權利ヲ保護シ一般ノ治安ヲ鞏固ニスル一ニ此法ノ効用ニ出テサルナシ若シ運用其道ニ適セサルトキハ良民不幸ニ陷リ奸民僥倖ヲ得世治上非常ノ惡結果ヲ生スルニ至ル豈愼マサル可

長崎控訴裁判所檢事清國朝鮮國駐在領事ニ屬スル司法警察官ヲ管督ス

始審裁判所詰檢事心得方

ケンヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ其活物トナリ死物トナルモ實際運用ノ如何ニ在ルノミ是等ノ旨趣ヲ實際ニ擴張スル爲メ今般本省中新タニ第十局ヲ置カレ凡ソ檢察事務ニ係ル實際處分上ニ付テハ總テ之ヲ取扱フ事ヲ分任セラレタリ是ヲ以テ本局ニ於テハ檢察ノ實務ニ付長官ノ旨ヲ受ケ本局長ノ名ヲ以時時各檢事ニ其處分方ヲ通達スルコトアルヘシ就テハ各檢事ニ於テハ事體ノ重大ナルモノニシテ急速ヲ要セサルモノハ成ルヘク本局ニ協議シテ後處分アルヘク若シ急速ヲ要スル件ニ係レハ一面之ヲ處分シ一面其顚末ヲ具シテ之ヲ通牒セラルヘシ又裁判事務繁閑訴訟事件ノ性質人情風俗ノ景況等細大トナク意見アレハ通牒セラレ互ニ脉絡相通シ萬般ノ處分彼是矛盾ナキニ至ルトキハ檢事一體ノ元則及ヒ法律運用ノ方法漸次整理シ自ラ良結果ヲ得ルニ至ラントス右ハ本局設立ノ旨趣及ヒ將來各檢事ノ實務タルヘキ事項ナルヲ以テ各檢事ニ於テハ其意ヲ體セラレ諸般ノ事務上常ニ本局ト往復シ右ノ旨趣ヲ貫徹セラレンコトヲ希望ス長官ノ命ニ因リ此旨小官ヨリ及御內達候也

司法省內訓　十五年七月二十八日

長崎控訴裁判所檢事長請訓十五年七月二十四日

朝鮮各港駐在ノ領事兼判事ニ屬スル司法警察官ハ當職ニ於テ監督ノ權アルハ勿論ト心得可キヤ電信ニテ內訓ヲ仰ク

本月二十四日電信朝鮮國各港在留領事ニ屬スル司法警察官ヲ監督スルハ見込ノ通猶淸國ノ儀モ同樣心得ヘシ此旨內訓ニ及フ

司法省ヨリ外務省ヘ通牒十五年七月二十八日

朝鮮國各港駐留領事兼判事ニ屬スル司法警察官監督ノ儀ニ付長崎控訴裁判所檢事長代理ヨリ別紙ノ通申出候ニ付朱書ノ如ク及內訓置候條御心得ノ爲此段及御通知置候也

安濃津始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺十六年一月二十三日

第一條　支廳ノ檢察職務上ニ關スル伺居其他事件表等ノ類ハ總テ本廳ノ檢事ヲ經由ス可キ儀ト心得可然哉

第二條　本支廳詰檢事補ノ進退即チ詰替交代等ノ儀所長ノ判事補ニ於ケル如ク本廳檢事ニ於テ處分シ其時々可及御屆儀ト心得可然哉

第三條　支廳詰書記以下進退ノ儀ハ本廳檢事ニ於テ關係セサル儀ト心得可然哉

右件々奉伺候至急仰御指揮候也

警部代理ノ巡査ハ裁判上司ノ下警部同樣ノ取扱トス

東京始審裁判所ニ檢事分局ヲ設ケ其事務取扱心得ヲ定ム

十九年七月司法省令丙第八號ヲ以テ裁判所處務規程ヲ定メ二十年六月司法省訓令ヲ以テ始審裁判所檢事局書記事務手續同檢察官事務手續ヲ定ム驗制竟程ノ部ニ載ス

司法省指令　十六年一月二十九日

伺ノ通

司法書記官ヨリ始審裁判所ヘ通牒十六年一月二十九日

本廳詰檢事心得方ノ儀ニ付安濃津始審裁判所檢事ヨリ別紙ノ通伺出朱書ノ如ク御指令相成候條爲御心得此段及御通知候也

司法省第一局第二局議案十六年一月二十六日

別紙安濃津始審裁判所檢事伺本廳詰檢事心得方ノ儀ハ左ノ御指令案調査仰高裁候也

但本件ハ他ノ裁判所ニ於テモ同樣相心得候樣通達ヲ要スヘキ儀ト存候ニ付本案ノ如シ

司法省達　十六年二月二十四日　第九號大審院裁判所

明治十四年十月當省甲第五號布達ニ據リ巡査ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判上渾テ警部同樣ノ取扱ヲ爲スヘシ

此旨相達候事

但從前ノ指令內訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

司法省達　十八年二月十二日　東京始審裁判所

今般其裁判所檢察事務便宜ノ爲メ檢事分局ヲ設置候條別紙心得書ニ據リ來ル三月一日ヨリ事務取扱フ可シ此旨相達候事

但取扱手續ニ係ル細則ハ取調ノ上可伺出事

（別紙）

檢事分局事務取扱心得

第一條　檢事分局ハ治罪法第二百五條ニ依リ司法警察官ヨリ送致セル重罪輕罪ノ現行犯ノ被告人ヲ受

警部事故アルトキハ代理ノ巡査ヲシテ輕罪公判廷ニ立會ハシムルヲ許シ立會ヲ缺クヲ許サス

取リ區處スル所トス

第二條　檢事分局ニ於テ現行犯ノ被告人ヲ受取リタル時ハ即時之ヲ訊問シ被告事件輕罪ニシテ豫審ヲ要セサル者ト思料シタル時ハ治罪法第二百九條ニ依リ直チニ公判ニ付スル爲メ本局檢事ニ送致ス可シ

第三條　重罪又ハ輕罪ニシテ豫審ヲ要スヘキモノト思料シタル時ハ本局檢事ニ送致ス可シ

弘前始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺十八年九月二十四日

當廳管内治安裁判所ヘ開ク輕罪公判廷ヘハ從來原告官ノ欠席スルコトアルノミナラス本務多忙ナリトテ常ニ警部代理ノ巡査列席スル所モ有之趣右ハ甚不都合ノコトニ付小官赴任スルヤ否速ニ青森縣警部長ヘ懇談ヲ遂ケ爾後ハ必ラス警部又ハ警部補ノ列席ヲ要スルコトヽ爲シタリ然ルニ頃日小倉青森縣警部長ノ手翰ニ因レハ嘗テ地方官ノ伺ニ對シ檢官出席セス又ハ警部代理ノ巡査ヲシテ出席セシムルモ不苦旨御省ヨリ御指令有之ニ依リ敢テ不都合モアラサルヘク尤今回懇談ノ旨趣ニ基キ可成警部補以上ノ出席ヲ爲サシムヘキモ止ヲ得サルニ方テハ欠席ニ勝ルヘキヲ以テ巡査ヲシテ代理セシムルコトモアルヘキ旨ニ有之退テ愚考スルニ公廷内治罪ノ手續ハ便宜ニ任スヘキノ公布ハアルモ未タ裁判所ノ構成ヲ欠クモ不苦旨ノ御達ハ無之否理ニ於テ如斯コトノアルヘキ謂レナカルヘシ何トナレハ裁判所ノ組織ヲ欠クノミナラス原告官欠席スルニ於テハ裁判官事件ノ何タルヲ知ル能ハサルヘク又被告人ハ對手人ナキヲ以テ辨論スルヲ得サルヘケレハナリ故ニ小官ニ於テハ檢官ノ列席ハ必要缺クヘカラサルモノト固信シテ疑ハス又司法警察ノ事務止ムヲ得サル場合ニ在テハ當分ノ内巡査ヲシテ代理セシムルヲ得ヘキノ御達ハ無之是レ他ナシ道理上決シテ爲サシムルヲ得サルモノナレハナリ請フ試ニ一二ノ例ヲ擧ケン府知事縣令ノ欠員若クハ止ヲ得サル事故アルニ方リ判任以上ノ官吏ハアルモ事務多忙ニシテ差支アルニ依リ等外吏ヲシテ代理セシムルヲ得ヘキ乎否決シテ爲キ乎又郡區長ノ差支アルニ當リ郡書記ヲ閣キ御用掛雇ノ輩ヲシテ代理セシムルヲ得ヘキ乎否決シテ爲スヲ得サル事ナルヘシ然ラハ則チ檢事ノ代理官ニ於ルモ亦同一ナラサルヘカラサルノ理ナリ是レ巡査ヲシテ代理セシムルヲ不都合トスル一ナリ判任官ト等外吏ト何レカ信ヲ置クニ足ルヘキカ三歲ノ兒ト雖モ等外吏ノ判任官ニ如カサルヲ知ラン然ラハ則チ其信用薄キ巡査ヲシテ檢官ノ職務ヲ代理セシムルハ取リモ直サス裁判ノ信憑ヲ薄弱ナラシムルノ理ナリ是レ小官カ不都合ナリト思料スル所以ノ二ナリ且夫レ裁判所ハ裁判官檢察官書記ノ三職ヲ以テ組織スルモノナレハ雇員ヲシテ書記ニ代用シ巡査ヲシテ檢官ノ代理ヲ爲サシムルカ如キハ則チ其組織ノ一部ヲ缺キ法術ノ構成完全ナラサルモノナリ是レ不都合トスル所以ノ三ナリ遙ニ聞ク從來本邦官民共ニ切齒扼腕ニ堪ヘサル夫ノ治外法權ナルモノヲ外人カ維持セントスルノ口實中裁判官檢察官司法警察官ノ幼稚ナル其一ニアリト若シ外人ヲシテ雇員ノ書記ニ代リ巡査ノ檢官トナルヲ知ラシメハ之ヲ何ト評スヘキカ世界萬國中恐ラク如斯不體裁ノ裁判所ハナカル可キヲ以テ必ス彼レカ口實ヲ一層確固ナラシメン若シ果シテ然ランニハ實ニ國體ニ關スル一大事件ト云ハサルヘカラサルナリ是レ小官カ不都合ナリト思考シタル所以ノ四ナリ

以上記スルカ如ク觀察シ來ルトキハ斷然舊體ヲ一新セサルヲ得ス最モ縣官ニ於テモ限リアルノ警部ニシテ行政司法ノ警察事務多端ノ際ナレハ幾分乎差支ナキニ非サルヘキモ大政府ノ令達スル所ハ區々タル情實ヲ以テ容易ニ背戻スルヲ得ス故ニ尙ホ前議ヲ主張シ必ラス警部補以上ノ出席ヲ要スル旨懇談ヲ遂ク可シト思考スレトモ或ハ御省ノ御指令ヲ根據トシ其懇談ニ應セサルコト萬ナキヲ保セス且司法權ノ爲メ歎息スヘキコトナルモ若シ止ヲ得サル事情アリテ御省ノ御旨趣檢官ノ欠席ヲ許シ又ハ巡査ヲシテ代理セシムルモ苦シカラサル儀ニモ候ハヽ敢テ懇談ヲ遂ントスルモ穩當ナラサルニ似タリ故ニ念ノ爲メ豫メ檢官欠席シ若クハ巡査ヲシテ代理セシムルモ差支サル筋ニ可有之哉否奉伺度差掛候儀ニ付至急何分ノ御指令被下度候也

司法省指令　十八年十二月二十八日

伺ノ趣警部又ハ警部補ニ於テ實際不得止差支アルトキハ代理巡査ヲシテ立會ヲ爲サシムルモ不苦儀ト心得ヘシ

但其立會ヲ欠ク儀ハ不相成候事

庶務局議案十八年十一月二十八日

別紙弘前始審裁判所檢事伺ハ治安裁判所ニ開ク輕罪公判ニ檢察官立會方ノ件ニ係ル其要旨ハ弘前始審管内治安裁判所ニ於テ開ク輕罪公判廷ニハ從來檢察官ノ欠席スルコトアルノミナラス本務多忙ナリトテ常ニ警部代理ノ巡査ヲシテ立會ヲ爲サシムル所モ有之ヲ以テ警部長ヘ懇談ヲ遂ケ爾後ハ必ラス警部又ハ警部補ノ立會ヲ要スルコトト爲シタリ然ルニ頃日警部長ノ照會ニ因レハ嘗テ地方官ノ伺ニ對シ檢察官立會ヲ要セス又ハ警部代理ノ巡査ヲシテ立會ヲ爲サシムルモ不苦旨司法省ヨリ指令有之上ハ敢テ不都合モアラサルヘキニ付止ヲ得サル場合ニ方リテハ欠席ニ勝ルヘキヲ以テ巡査ヲシテ立會代理セシムルコトアルヘキ旨ニ有之然ルニ原告官タル檢察官ノ訟廷立會ヲ欠クハ勿論又巡査ヲシテ之カ代理ヲ爲サシムルノ不都合ナルハ信シテ疑ハサル所ナリト雖モ本省ニ於テ果シテ其欠席ヲ許シ又ハ巡査ヲシテ代理セシムルモ不苦トノ旨趣ナルトキハ敢テ警部長ヘ懇談ヲ遂ケントスルモ穩當ナラサルニ似タリ故ニ念ノ爲メ豫メ伺ヲ要スト云フニ在リ

因テ審案スルニ右檢察官立會方ノ件ニ付テハ御指令一樣ナラス其經歷ヲ略述セハ明治十四年第七十一號布告ヲ以テ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クトキハ當分ノ内其所在ノ地ノ警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシムルコトニ定メラレタルニ付其治安裁判所々在地ノ警部又ハ警部補差支アルトキハ代理ノ巡査ヲシテ檢察事務ヲ取扱ハシムルモ不苦ヤノ旨靑森縣外數箇所ノ伺出ニ對シ庶務局ノ調査ニテ代理不苦旨指令相成リタリ然ルニ其後弘前始審裁判所ヨリ警部警部補人少ナルヲ以テ便宜ニ從ヒ公廷ノ立會ナキモ妨ナキヤノ伺

出ニ對シ庶務局ハ先例ニ依リ立會ヲ欠クニ勝ルノ理由ヲ以テ代理巡査ヲシテ立會ヲ爲サシムルモ不苦旨ノ調査ヲ爲シ刑法局ハ必ラス警部補ノ立會ヲ要ス可シトノ説ヲ提出シ其意見兩岐ニ渉リシカ上局ノ裁定ニ因リ伺之通公廷ノ立會ナキモ妨ナキ旨指令相成リタリ

而シテ向ニ刑法局ノ調査ニ出テタル兵庫縣等ノ伺ニ對スル該檢察事務ハ警部補以上ニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得サル旨ノ指令ヲ改メ更ニ代理巡査ヲシテ其職務ヲ行ハシムルモ不苦旨指令相成リタリ

故ニ該公廷立會ノコトハ弘前始審裁判所ヘノ指令ニ依レハ其立會ナキモ妨ナキコトトナリ又青森縣兵庫縣外數箇所ヘ指令ニ依レハ警部代理ノ巡査ハ總テ檢察事務ヲ代理シ得可キヲ以テ之カ立會ヲ爲ス可キモノトナレリ

前記ノ通該公廷立會ノコトハ指令二樣ニ渉ルヲ以テ或ハ是カ立會ヲ爲サス或ハ巡査ヲシテ立會シムル等各所區々ニシテ其體裁ヲ損スル尠カラス抑モ原告官ノ立會ナキハ裁判所ノ構成ヲ欠キ不都合ナルハ言ヲ俟タス又巡査ニ於テ司法警察事務上警部ノ代理ヲ爲スハ格別ナルモ檢察官ノ代理ヲ爲サシムルニ至リテハ蓋シ法律ノ精神ニ非サル可シ然レトモ必ス警部警部補ヲシテ立會ヲ爲サシメサル可カラストナストキハ之カ爲メ人員ヲ要シ地方警察費上現今ノ場合ニ於テハ到底行ハレ難キコトナルヘシ因テ多少ノ不都合ハ免レサルモ他日警部ヲ增置スルカ若クハ檢察官ヲ設ケラルヽニ至ル迄ハ尙ホ巡査ヲシテ代理タラシメハ寧ロ立會官ヲ欠クノ甚シキニ優ルヘシ且今般逆警罪即決例ヲ制定セラレ其正式裁判ノ場合ハ治罪法ニ從ヒ其立會官ノアルニモ拘ハラス之ヨリ重キ輕罪裁判ニ於テ之カ立會ヲ欠クハ頗ル不權衡ヲ免レス旁以テ先ツ其警部ト代理巡査トノ如何ヲ閣キ必ス其立會ヲ要スルヲ允當ナリト思考スル因テ本件伺ニ對シ左之通御指令相成之ニ矛盾スル弘前始審裁判所及太田治安裁判所ヘ檢事ヘノ御指令更正相成可然歟右御指令案竝御達案トモ調査仰高裁候

司法省ヨリ弘前始審裁判所ヘ達十八年十二月二十八日

明治十五年三月一日付其廳伺治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク場合治罪手續ノ件ニ對スル同年五月三日付指令第一條左ノ通更正候條此旨相達候事

第一條　警部又ハ警部補ニ於テ實際不得止差支アルトキハ代理巡査ヲシテ立會ヲ爲サシムルモ不苦候事

更正指令

明治十五年九月六日付其廳伺明治十四年本省丁第十七號達ノ件ニ對シ發ニ及指令置候處詮議ノ次第有之共但書削除候條此旨相達候事

司法省ヨリ京都始審裁判所ヘ達十八年十二月二十八日

明治十六年七月三日附京都府警部布野萬長伺檢察官公廷立會ノ件ニ付同月十六日附ヲ以テ其職ニ對シ及指令置候處詮議ノ次第有之左之通更正候條此旨相達候事

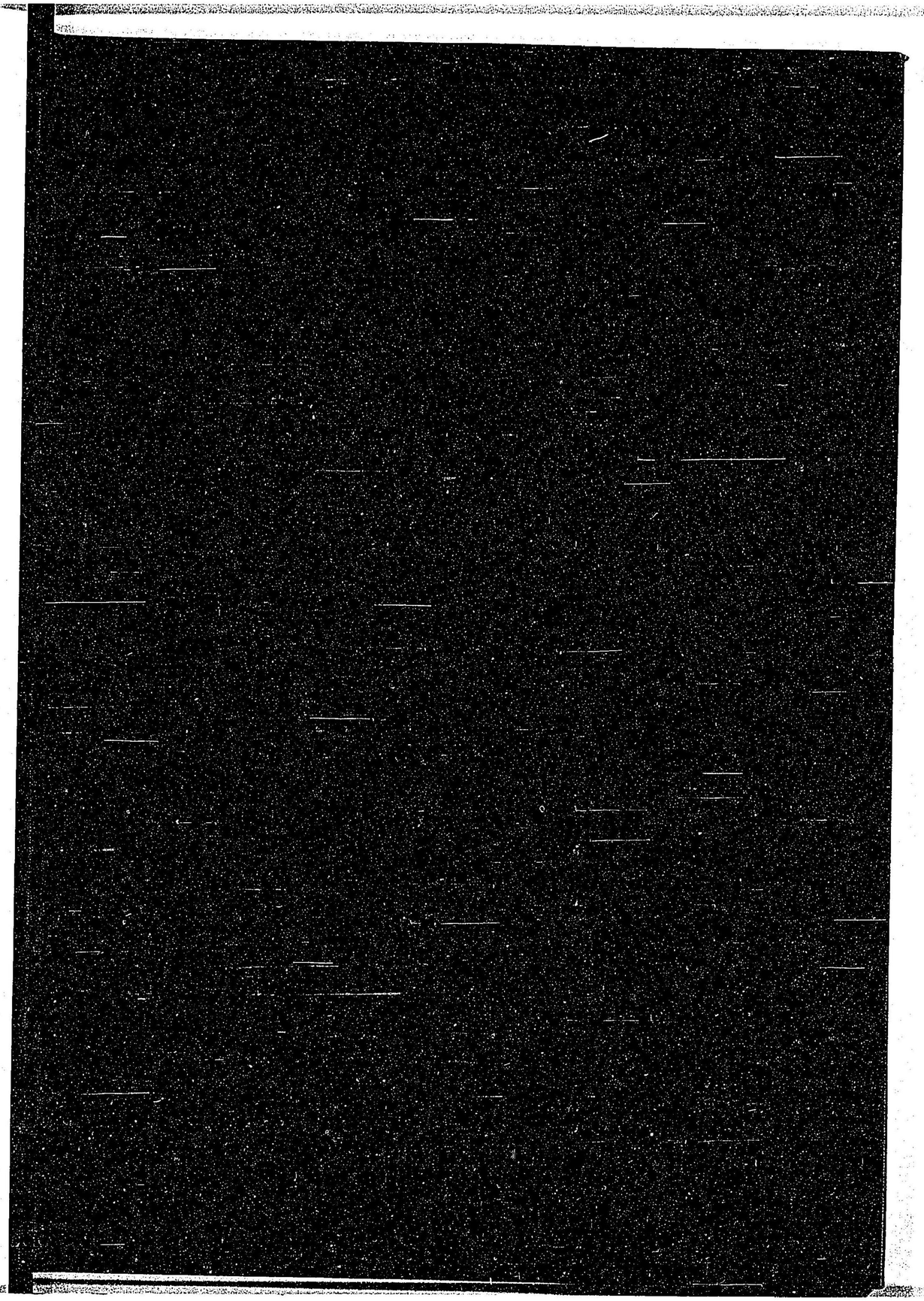
更正指令

別紙京都府警部布野萬長伺公廷立會ノ儀ハ警部又ハ警部補ニ於テ實際不得止差支アルトキハ代理巡査ヲシテ立會ヲ爲サシムルモ不苦筋ニ候條其旨通示可致候事

明治二十三年五月十日印刷

內閣記錄局編輯

注19



031114-014-9

CZ-3-12

法規分類大全

内閣記録局

M22-24

BBC-0854